



B.LEAGUE

2024-25 STATS REPORT

INDEX

03 はじめに

04 Glossary

<u>1.B.革新</u>

06 競技力

IO 代表強化

17 ドラフト

2.編成・強化

22 各区分別スタッツ分布推移

39 タイムシェア

50 選手入替率

53 リーグ初参入選手率

56 登録区分別スタッツ分布

GOLDEN HINGS - UTSUNOMIYA BREX

95 クラブ別スタッツ

108 勝率別スタッツ比較

III ORTG別スタッツ比較

3. 振り返り

118 2016-17シーズン

120 2017-18シーズン

122 2018-19シーズン

124 2019-20シーズン

126 2020-21シーズン

128 2021-22シーズン

130 2022-23シーズン

132 2023-24シーズン

134 2024-25シーズン

PAGE2 2024-25 STATS REPORT

B.STATS LAB

■はじめに

本レポートでは、B.STATS LABにて取得している公式記録・スタッツを様々な切り口で集計・可視化する。リーグと各クラブ関係者をメインターゲットとし、 各クラブの編成・強化と、B.革新を見すえた現状把握の参考となる情報提供を目的としている。

「B.革新」のパートでは競技力、代表強化、ドラフトの観点から、リーグ・クラブの各種データのシーズン推移を可視化し、2026-27シーズンから開始されるB. 革新に向けてリーグ・クラブの現在地を確認する。

「編成・強化」のパートでは選手の年齢・国籍等のプロフィール情報をもとに、リーグ全体でどのような属性の選手が増えているか、スタッツがどのように分布しているかを可視化する。また、今季の各クラブのロスター編成やチームスタッツを様々な切り口で集計することで、各クラブの特徴や勝率が高いクラブの傾向を探っていく。

「振り返り」のパートでは、B.LEAGUE開幕以来の各シーズンを順位表とアワード受賞者を中心に振り返る。

※本レポートに掲載しているクラブロゴおよび選手の所属クラブは、りそなグループ B.LEAGUE 2024-25時点の情報に基づいている

B.STATSLABとは

「B.STATS LAB」とはB.LEAGUEの公式記録作成・管理を担う機関。データスタジアム株式会社が運営している。

B.STATS LAB ではB1,B2リーグ戦、ポストシーズン、オールスターの全試合の公式記録をリアルタイムで作成している。リーグ開幕以来、リアルタイムに配信される映像を見ながらセントラルオフィスで記録入力を行う「セントラル方式」を採用しており、これは当時国内プロスポーツでは初となる試み。記録に関する各種問い合わせ対応も行っている。

Glossary (用語集)

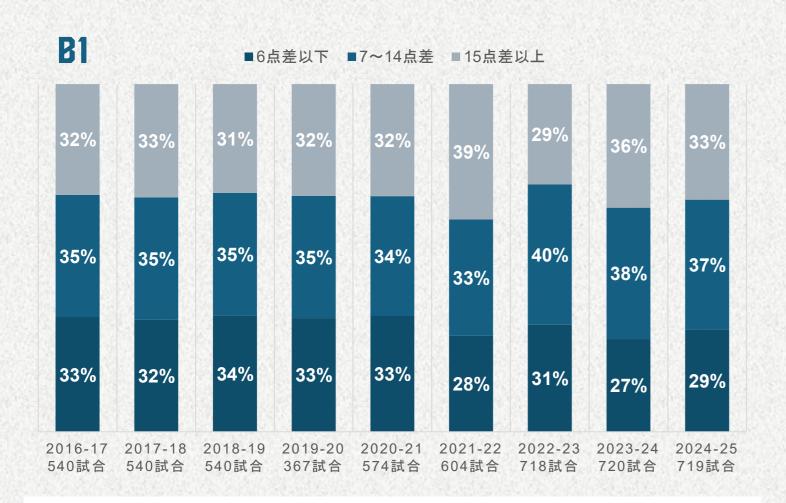
ORTG	100ポゼッションでの平均得点	得点×100÷(FG試投数+FT試投数×0.44ーオフェンスリバウンド+ターンオーバー)
eFG%	3Pシュートに比重(1.5倍)をかけて補正したフィールドゴール成功率	(FG成功数+3P成功数×0.5)÷FG試投数
TOV%	1回のオフェンスでチームがターンオーバーをする確率	ターンオーバー÷(FG試投数+FT試投数×0.44+ターンオーバー)
ORB%	自チームのシュートが外れた際にオフェンスリバウンドを獲得する割合	オフェンスリバウンド÷(オフェンスリバウンド+相手ディフェンスリバウンド)
FTR	オフェンス時にフリースローを獲得する頻度	FT試投数÷FG試投数
DRTG	100ポゼッションでの平均失点	失点×100÷(相手FG試投数+相手FT試投数×0.44-相手オフェンスリバウンド+ 相手ターンオーバー)
OPP eFG%	3Pシュートに比重(1.5倍)をかけて補正した相手チームのフィールドゴール成功率	(相手FG成功数+相手3P成功数×0.5)÷相手FG試投数
OPP TOV%	1回のオフェンスで相手チームがターンオーバーをする確率	相手ターンオーバー÷(相手FG試投数+相手FT試投数×0.44-相手オフェンスリバウンド+ 相手ターンオーバー)
OPP ORB%	相手チームのシュートが外れた際にオフェンスリバウンドを相手チームに獲得される割合	相手オフェンスリバウンド÷(相手オフェンスリバウンド+ディフェンスリバウンド)
OPP FTR	ディフェンス時に相手チームにフリースローを与える頻度	相手FT試投数÷相手FG試投数
Pace	1試合での平均ポゼッション数	40×(ポゼッション数+相手ポゼッション数)÷(2×(チームプレータイム÷5))
cs	りそなグループ B.LEAGUE CHAMPIONSHIP 2024-25	
РО	りそなグループ B2 PLAYOFFS 2024-25	

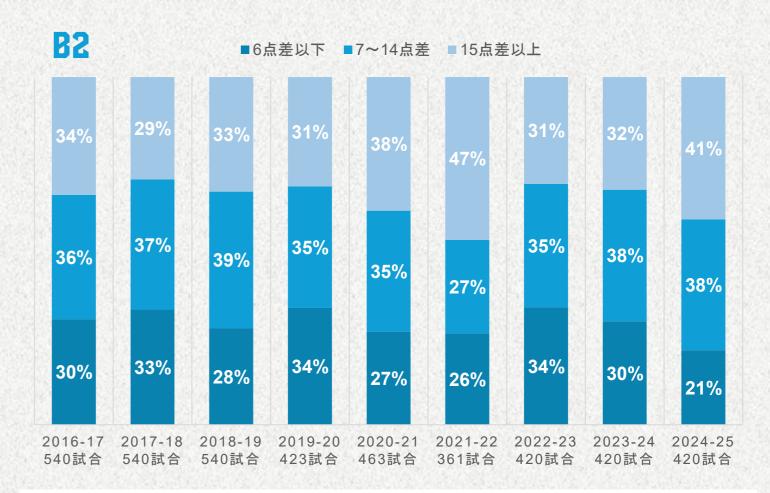
1. 3. 革新

はままり

B.革新の掲げるビジョンでは、接戦の多いリーグや、NBAに次ぐリーグを目標としている。そこで本項では、接戦の傾向分析や、他国リーグとのスタッツ比較を行った。競技力の理想に対して、現状のB.LEAGUEがどこまで近づいているかを図ることを目的としている。

本項では、戦力均衡を目指して接戦を増やすというB.革新の掲げるビジョンについての現状を可視化するため、リーグ戦の点差分布を各シーズンごとに100%積み上げの縦棒グラフで比較した。僅差の試合割合の高さを接戦の多さと定義して、今シーズンをリーグごとに評価した。





COMMENT

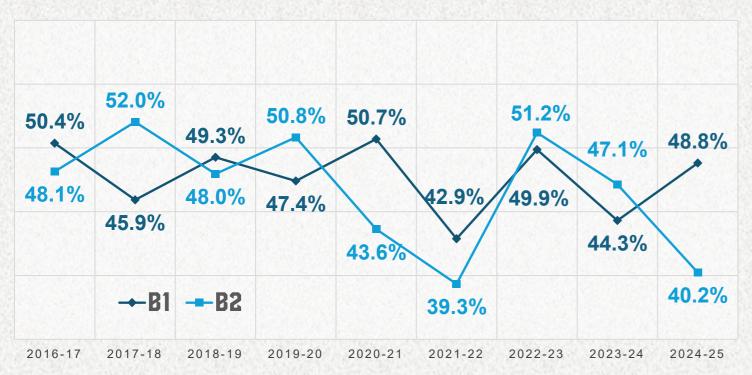
B1は昨季、6点差以下の試合割合が過去最も低かったが、今季はやや増加。B2と比較しても、B1の方が僅差の試合割合が高かった。

COMMENT

B2は今季、6点差以下の試合割合が過去最も低かった。上位・下位ともに極端な勝率のクラブが存在したことが影響していると考えられる。

本項では、戦力均衡を目指して接戦を増やすというB.革新の掲げるビジョンについての現状を可視化するため、リーグ戦のクラッチタイムに突入した試合割合と平均 リードチェンジ回数を各シーズンごとに折れ線グラフで比較した。本項におけるクラッチタイムとは、4Q残り5分以内で5点差以内となった試合展開を指す。

クラッチタイム突入割合

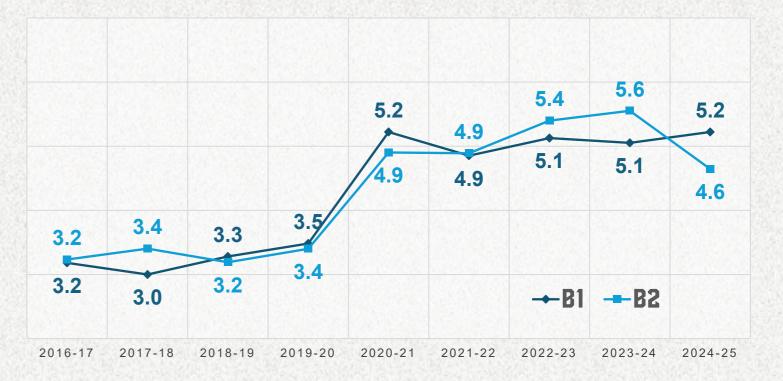


B1:540試合 B1:540試合 B1:540試合 B1:367試合 B1:574試合 B1:604試合 B1:718試合 B1:720試合 B1:719試合 B2:540試合 B2:540試合 B2:540試合 B2:423試合 B2:463試合 B2:361試合 B2:420試合 B2:420試合 B2:420試合

COMMENT

B1のクラッチタイム突入割合は常に45~50%前後で推移しており、今季も約 半数近くの試合でクラッチゲームが発生した。一方で、B2は過去3シーズン を見るとやや下降傾向で、B2内での戦力格差が広がっている見方もできる。

平均リードチェンジ回数



2020-21シーズンを境に、B1・B2ともに平均リードチェンジ回数が明確に増 COMMENT 加している。これは同年度のアジア特別枠導入によって、帰化選手を擁す るクラブとの戦力差が縮まり、競争力が向上した可能性を示唆している。



5つの海外リーグと比較すると、B リーグはORB%が高水準で、特に B1は2位につけた。世界的に見て も、Bリーグはセカンドチャンスを重 視している傾向がうかがえる。

一方で、BリーグはeFG%の低さや TOV%の高さが目立っていた。これらの傾向は裏を返せば、Bリーグが 世界的に見てもよりディフェンシブ なリーグであることを示している可 能性もある。

海外リーグの特徴をまとめると、NBAはeFG%が高く、ORB%が低いリーグ。Euro LeagueはeFG%やORB%が高いが、TOV%も高いリーグ。NBLはTOV%の低いリーグとなっている。

本項では、B1・B2のFour Factors (eFG%,TOV%,ORB%,FTR)を5つの海外リーグと比較した。B.革新における目標の一つである、「NBAに次ぐ世界第2位のリーグ」へ向けて、現状の競技力の水準を可視化することを目的としている。競技ルールの違いや、その影響は数値やコメントに加味していない。

海外リーグのデータソース: https://www.nba.com/ https://www.euroleaguebasketball.net/euroleague/ https://www.nbl.com.au/ https://www.kbl.or.kr/ https://www.cbaleague.com/

代表強化

B.革新の制度設計は「代表強化」に資することを1つの目標としている。本項では、代表選手が在籍しているクラブとそれ以外のクラブのリーグ戦におけるチームスタッツの比較に加え、代表選手のリーグ戦と代表戦でのスタッツ比較を行い、Bリーグが代表強化につながる舞台となっているかの評価材料を提供することを目的としている。

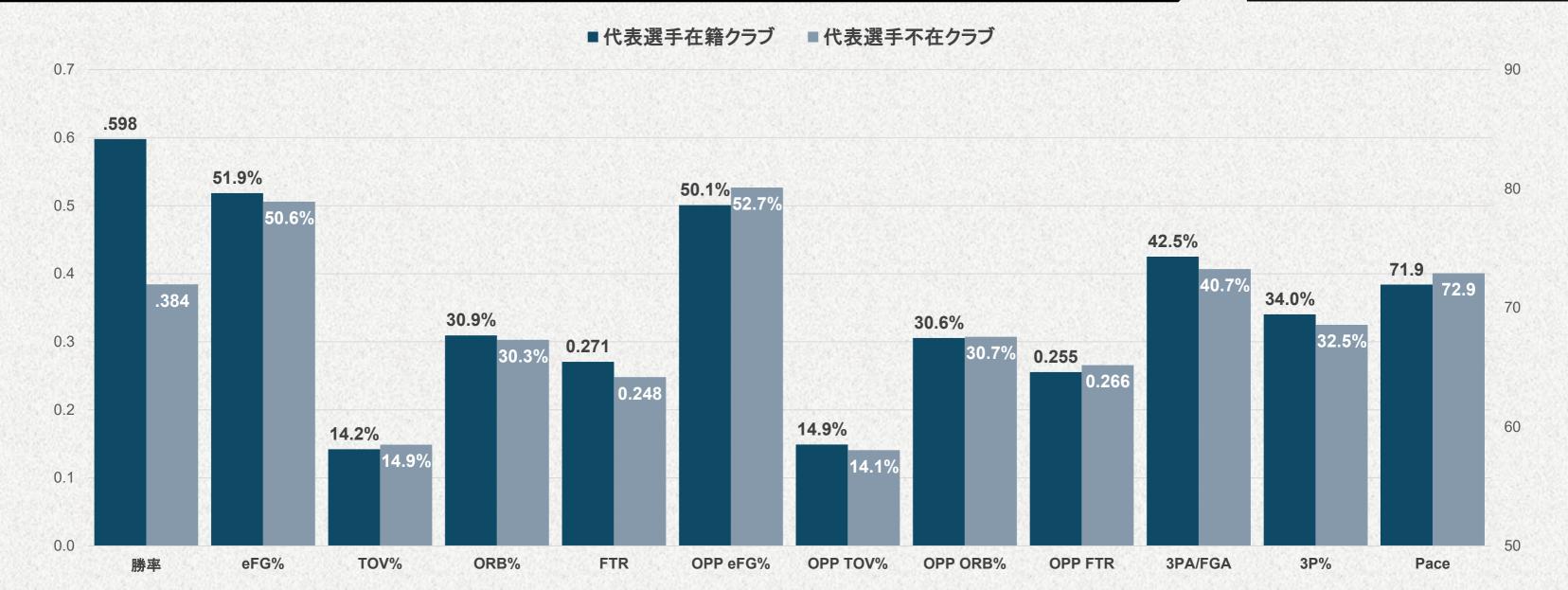
なお、本項では代表選手の対象をパリオリンピック2024の3試合、もしくはアジアカップ2025予選 Window2, 3の4試合のいずれかにおいてプレータイムがあった選手とする。また、B2で代表選手が在籍するクラブは1クラブのみで、比較が困難なため、チームスタッツ比較はB1のみで行うこととする。

代表戦データソース:

https://www.fiba.basketball/en/events/mens-olympic-basketball-tournament-paris-2024

https://www.fiba.basketball/en/events/fiba-asiacup-2025-qualifiers





代表選手が在籍しているクラブの方が勝率は目立って高く、Four Factorsの各指標も全体的に代表選手在籍クラブの方が良い数値が出る傾向にあった。質の高いバスケットボールを展開しているクラブに代表選手が在籍しているという傾向は見られる。また、代表で重視している3Pシュートとスピードについて見ると、3Pシュートの試投割合と成功率は代表選手在籍クラブが上回ったが、Paceは代表選手在籍クラブが下回るという結果となった。

B1代表選手在籍クラブ

秋田、宇都宮、群馬、越谷、千葉J、 A東京、SR渋谷、三遠、三河、 FE名古屋、広島、長崎、琉球

	区分	G	MIN	PTS	FGM	FGA	FG%	3РМ	3РА	3P%	2PM	2PA	2P%	FTM	FTA	FT%	ORB	DRB	REB	AST	STL	BLK	TOV	PF	+/-	EFF
富樫 勇樹	B 1	50	29.0	13.9	4.5	10.8	41.4%	2.6	6.8	38.8%	1.8	4.0	45.8%	2.4	2.8	84.9%	0.3	1.7	2.0	5.0	0.6	0.0	2.2	1.4	5.7	13.6
(千葉J)	代表戦	5	15.0	4.0	1.4	5.2	26.9%	1.2	4.2	28.6%	0.2	1.0	20.0%	0.0	0.0	-	0.6	8.0	1.4	2.4	0.2	0.0	1.4	0.8	8.0	2.8
テーブス 海	B 1	54	24.9	8.8	3.3	8.7	38.2%	1.0	3.4	28.8%	2.3	5.3	44.2%	1.2	1.6	73.3%	0.3	1.9	2.2	5.8	0.7	0.1	2.1	2.2	5.8	9.5
(A東京)	代表戦	4	16.6	8.3	3.0	6.5	46.2%	1.8	3.5	50.0%	1.3	3.0	41.7%	0.5	0.5	100.0%	0.5	1.8	2.3	2.5	0.8	0.0	2.0	0.8	-4.5	8.3
中村 拓人	B1	57	23.8	9.2	3.8	9.3	40.9%	1.0	3.4	28.8%	2.8	5.9	47.8%	0.6	1.0	62.7%	0.4	1.5	1.9	2.8	1.3	0.1	2.0	2.3	-1.7	6.1
(広島)	代表戦	3	8.0	2.7	1.3	3.3	40.0%	0.0	1.7	0.0%	1.3	1.7	80.0%	0.0	0.0	-	0.0	0.3	0.3	1.3	0.3	0.0	1.7	0.3	-5.3	1.0
大浦 颯太	B 1	59	18.9	9.7	3.0	7.6	39.5%	2.1	5.7	36.2%	0.9	1.8	49.5%	1.7	2.1	82.8%	0.5	1.5	2.0	4.6	8.0	0.0	1.0	1.4	6.2	12.1
(三遠)	代表戦	2	10.9	6.0	2.0	6.0	33.3%	2.0	6.0	33.3%	0.0	0.0	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.5	1.0	-3.5	2.0
ハーパー・ジャン・	B 1	33	9.4	1.2	0.4	1.9	20.3%	0.2	1.4	15.2%	0.2	0.5	33.3%	0.2	0.4	50.0%	0.2	8.0	1.0	0.9	0.6	0.2	0.6	1.7	-2.7	0.3
ローレンス・ ジュニア (SR渋谷)	代表戦	1	18.7	7.0	3.0	6.0	50.0%	1.0	3.0	33.3%	2.0	3.0	66.7%	0.0	0.0	-	0.0	3.0	3.0	3.0	0.0	2.0	2.0	3.0	18.0	10.0

代表では各クラブのエース級の選手が揃い、タイムシェアもされるため、平均系のスタッツはリーグ戦と比較するとほとんどの選手が低下している。その中でも、 テーブス選手はリーグ戦よりも短いプレータイムでリーグ戦と同等の平均得点を記録しており、代表戦でスコアリング面での役割が大きくなっていたことが分かる。 また、10分前後のプレータイムの中でも、リーグ戦以上の数の3Pシュートを放ち、一定の成功率を記録した大浦選手も持ち味を発揮していたと言えそうだ。

	区分	G	MIN	PTS	FGM	FGA	FG%	3РМ	3РА	3P%	2PM	2PA	2P%	FTM	FTA	FT%	ORB	DRB	REB	AST	STL	BLK	точ	PF	+/-	EFF
比江島 慎	B 1	58	25.1	13.2	4.4	8.9	49.3%	2.3	5.2	44.3%	2.1	3.8	56.2%	2.1	2.7	75.8%	0.7	1.8	2.5	4.2	0.9	0.3	1.8	2.2	8.1	15.0
(宇都宮)	代表戦	5	17.5	7.2	2.2	6.8	32.4%	8.0	3.8	21.1%	1.4	3.0	46.7%	2.0	2.4	83.3%	1.4	2.2	3.6	2.8	1.2	0.4	0.4	2.0	7.8	9.8
佐々木 隆成	B 1	59	23.3	11.5	4.3	9.3	45.9%	2.0	5.7	35.6%	2.2	3.6	62.0%	1.0	1.4	75.0%	0.4	1.7	2.1	6.5	1.2	0.2	1.9	1.7	7.2	14.2
(三遠)	代表戦	4	15.6	8.0	2.0	5.5	36.4%	1.3	3.5	35.7%	8.0	2.0	37.5%	2.8	2.8	100.0%	0.8	0.3	1.0	4.3	1.3	0.3	8.0	8.0	-6.5	10.5
細川 一輝	B 1	58	22.8	7.5	2.6	7.3	35.9%	2.1	5.7	36.4%	0.5	1.6	34.1%	0.3	0.3	75.0%	0.6	1.4	2.1	0.8	0.4	0.1	0.5	1.6	4.4	4.3
(群馬)	代表戦	2	12.8	1.5	0.5	2.0	25.0%	0.5	1.5	33.3%	0.0	0.5	0.0%	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	1.0	0.5	0.0	0.0	2.5	-5.5	1.5
山崎 稜	B 1	60	23.7	8.0	2.8	7.0	40.8%	1.9	4.8	40.2%	0.9	2.2	42.0%	0.4	0.4	88.5%	0.5	1.3	1.8	1.0	0.4	0.0	0.7	2.9	-2.1	4.0
(広島)	代表戦	2	5.2	1.0	0.5	3.0	16.7%	0.0	2.5	0.0%	0.5	0.5	100.0%	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5	0.5	-6.0	-1.5
津屋 一球	B 1	59	20.7	7.0	2.3	5.8	39.2%	2.1	5.3	40.1%	0.2	0.5	30.0%	0.3	0.5	62.1%	0.3	1.5	1.8	1.0	0.2	0.1	0.5	2.0	6.2	4.3
(三遠)	代表戦	1	18.3	0.0	0.0	5.0	0.0%	0.0	5.0	0.0%	0.0	0.0	-	0.0	0.0	-	1.0	1.0	2.0	2.0	1.0	0.0	0.0	3.0	-27.0	0.0

比江島選手は代表戦で得点、アシスト、シュート成功率は低下しているものの、リバウンド、スティールではリーグ戦以上の数字を残し、オフェンス以外の面での貢献度を高めていた。佐々木選手はリーグ戦よりもターンオーバーを減らしながら、平均4.3アシストを記録。より確実性の高いプレーを見せていた。細川・山崎・津屋選手は代表初招集だったが、3Pシュート成功率ではリーグ戦が上回る結果となった。シューター陣は代表のシステムへの順応に時間を要するのかもしれない。

代表強化:代表戦とリーグ戦の選手スタッツ比較

SG/SF

	区分	G	MIN	PTS	FGM	FGA	FG%	3РМ	3РА	3P%	2РМ	2PA	2P%	FTM	FTA	FT%	ORB	DRB	REB	AST	STL	BLK	τον	PF	+/-	EFF
馬場 雄大	B1	48	32.0	14.6	5.1	11.9	42.9%	1.5	4.9	31.4%	3.6	7.0	51.0%	2.9	3.6	79.7%	8.0	3.2	4.0	4.0	1.5	0.3	2.9	1.9	0.3	15.8
(長崎)	代表戦	3	10.0	3.7	1.3	3.0	44.4%	1.0	1.7	60.0%	0.3	1.3	25.0%	0.0	0.0	-	0.3	0.3	0.7	0.3	0.7	0.0	0.7	1.3	1.0	3.0
西田 優大	B1	56	24.7	10.4	3.8	8.3	45.0%	1.2	3.8	32.1%	2.5	4.6	55.7%	1.7	2.1	80.0%	0.7	1.8	2.5	2.4	0.7	0.2	1.6	1.6	1.0	10.0
(三河)	代表戦	2	29.0	21.0	7.0	11.5	60.9%	6.5	9.5	68.4%	0.5	2.0	25.0%	0.5	2.0	25.0%	0.5	7.0	7.5	2.0	0.5	0.5	1.5	3.0	19.5	24.0
赤穂 雷太	B 1	50	18.0	5.0	1.7	4.6	37.2%	0.8	2.4	33.9%	0.9	2.2	40.9%	0.7	1.0	70.6%	0.4	1.2	1.7	1.2	0.8	0.3	0.6	2.2	-2.1	4.5
(秋田)	代表戦	2	17.2	2.0	0.0	4.5	0.0%	0.0	3.0	0.0%	0.0	1.5	0.0%	2.0	3.0	66.7%	1.0	1.0	2.0	0.5	0.0	0.0	0.0	2.5	-20.5	-1.0
山口 颯斗	B1	60	25.8	6.8	2.5	5.9	41.4%	1.2	3.3	36.7%	1.3	2.7	47.2%	0.7	1.2	58.0%	0.7	2.3	3.0	1.4	0.6	0.3	1.0	2.0	-1.9	6.3
(長崎)	代表戦	1	14.5	2.0	0.0	2.0	0.0%	0.0	1.0	0.0%	0.0	1.0	0.0%	2.0	2.0	100.0%	0.0	2.0	2.0	1.0	0.0	0.0	2.0	0.0	-17.0	1.0

COMMENT

馬場選手は代表戦で3Pシュートを高確率で決めており、シュート試投数の半分以上が3Pシュートとなっている。リーグ戦では2Pシュートの割合の方が高く、代表戦における役割の違いが見受けられる。2試合ではあるが、西田選手と赤穂選手も代表戦では3Pシュートの試投割合が大幅に高まっており、このポジションの選手には3Pシュートが求められていると言えるかもしれない。

代表強化:代表戦とリーグ戦の選手スタッツ比較

SF~SF/PF

	区分	G	MIN	PTS	FGM	FGA	FG%	3РМ	3РА	3P%	2РМ	2PA	2P%	FTM	FTA	FT%	ORB	DRB	REB	AST	STL	BLK	TOV	PF	+/-	EFF
吉井 裕鷹	B1	52	26.2	11.3	4.2	8.4	50.6%	1.1	3.1	36.6%	3.1	5.3	58.8%	1.7	2.3	71.9%	1.3	2.5	3.8	1.8	8.0	0.3	0.8	2.8	8.8	11.5
(三遠)	代表戦	6	29.1	7.8	2.8	5.3	53.1%	1.7	2.8	58.8%	1.2	2.5	46.7%	0.5	0.7	75.0%	1.7	1.8	3.5	2.7	0.5	0.2	1.0	2.5	0.0	11.0
渡邊 雄太	B1	35	28.2	13.3	4.6	11.2	41.0%	1.4	4.5	30.6%	3.2	6.7	47.9%	2.7	4.0	68.6%	1.0	4.5	5.5	1.5	0.7	0.7	1.5	1.0	0.1	15.1
(千葉J)	代表戦	3	37.0	11.7	4.3	11.3	38.2%	2.3	6.7	35.0%	2.0	4.7	42.9%	0.7	1.0	66.7%	1.0	5.3	6.3	0.7	0.7	1.7	1.3	0.7	-8.7	12.3
金近 廉	B 1	60	18.7	5.5	1.8	4.4	41.1%	1.3	3.5	38.6%	0.5	0.9	50.0%	0.5	0.7	75.6%	0.4	1.5	1.9	0.6	0.3	0.2	0.6	1.9	1.0	4.0
(千葉J)	代表戦	2	26.8	9.0	3.0	8.5	35.3%	3.0	8.5	35.3%	0.0	0.0	-	0.0	0.0	-	0.0	0.5	0.5	0.5	0.5	1.0	1.0	1.0	-4.0	5.0
佐土原 遼	B 1	58	29.7	12.8	5.0	10.2	49.2%	1.3	3.6	35.7%	3.7	6.6	56.4%	1.5	2.5	61.0%	1.3	2.3	3.6	2.0	0.5	0.2	1.5	2.4	1.3	10.7
(FE名古屋)	代表戦	1	14.5	6.0	2.0	3.0	66.7%	0.0	0.0	-	2.0	3.0	66.7%	2.0	2.0	100.0%	1.0	3.0	4.0	2.0	0.0	0.0	3.0	4.0	6.0	8.0

COMMENT

吉井選手はリーグ戦・代表戦、共に高い数字を残しているが、平均得点・アシストに開きが見られる。リーグ戦と代表戦で微妙に異なる役割を担っているとも考えられるが、いずれにおいてもチームの中心的な役割を担っている。渡邊選手のスタッツはリーグ戦と代表戦で比較的近い数字となっているが、3Pシュートと2Pシュートの試投割合が逆転しており、代表戦ではより3Pシュート中心となっている。

代表強化:代表戦とリーグ戦の選手スタッツ比較

PF~C

	区分	G	MIN	PTS	FGM	FGA	FG%	3РМ	3РА	3P%	2PM	2PA	2P%	FTM	FTA	FT%	ORB	DRB	REB	AST	STL	BLK	TOV	PF	+/-	EFF
渡邉 飛勇	B2	44	21.0	7.3	3.0	5.1	59.8%	0.1	0.4	18.8%	3.0	4.7	63.0%	1.2	2.0	58.4%	2.4	3.2	5.6	1.2	0.2	1.3	0.9	2.3	2.1	11.0
(信州)	代表戦	5	11.1	2.8	1.4	2.0	70.0%	0.0	0.2	0.0%	1.4	1.8	77.8%	0.0	0.0	-	1.4	1.4	2.8	8.0	0.0	1.2	0.4	0.6	-4.6	6.6
ジョシュ・ホーキンソン	B1	60	33.7	16.3	5.9	12.1	48.6%	1.2	3.5	33.7%	4.7	8.7	54.5%	3.4	4.1	84.0%	2.1	6.6	8.7	2.2	0.6	1.1	1.1	1.4	4.4	23.7
イフラン (SR渋谷)	代表戦	4	35.2	17.0	5.5	9.8	56.4%	2.5	4.3	58.8%	3.0	5.5	54.5%	3.5	4.3	82.4%	2.3	9.0	11.3	2.0	1.0	2.0	2.3	3.0	-7.0	26.0
川真田 紘也	B1	53	6.8	1.3	0.5	0.9	58.3%	0.0	0.0	0.0%	0.5	0.9	59.6%	0.3	0.6	50.0%	0.6	0.5	1.1	0.1	0.1	0.2	0.4	1.0	-1.5	1.2
(長崎)	代表戦	4	7.3	2.3	0.3	8.0	33.3%	0.0	0.0	-	0.3	8.0	33.3%	1.8	2.0	87.5%	0.5	0.3	8.0	0.0	0.0	0.5	0.8	1.0	-7.3	2.0
アレックス・ カーク	B1	58	21.0	10.5	3.9	6.4	61.4%	0.1	0.3	23.5%	3.8	6.1	63.2%	2.6	3.3	80.5%	2.3	3.2	5.6	1.0	0.4	0.5	0.7	1.2	5.6	15.5
(琉球)	代表戦	3	27.3	17.3	6.7	9.3	71.4%	0.0	0.3	0.0%	6.7	9.0	74.1%	4.0	6.0	66.7%	3.7	8.3	12.0	2.3	0.0	2.3	2.0	2.0	7.0	27.3
井上 宗一郎	B1	57	7.7	2.1	0.7	1.7	41.1%	0.4	1.2	34.8%	0.3	0.5	57.7%	0.3	0.5	70.4%	0.3	0.7	1.0	0.3	0.2	0.1	0.4	1.1	-3.7	1.4
(越谷)	代表戦	3	13.0	1.3	0.3	3.3	10.0%	0.3	3.0	11.1%	0.0	0.3	0.0%	0.3	0.7	50.0%	0.3	1.3	1.7	0.3	0.3	0.0	0.7	0.7	-6.7	-0.3

COMMENT

ホーキンソン選手とカーク選手は代表戦においてリーグ戦以上のプレータイムと平均系スタッツを記録しており、代表戦における帰化枠の選手の重要性がうかがえる。このポジションの帰化枠以外の選手は、代表において10分前後のプレータイムを得ているが、B1の川真田選手と井上選手はリーグ戦でのプレータイムが代表を下回り、B2の渡邉選手は大きく上回っている。カテゴリ間における日本人ビッグマンの起用傾向の違いが表れているのかもしれない。

PAGE17 2024-25 STATS REPORT

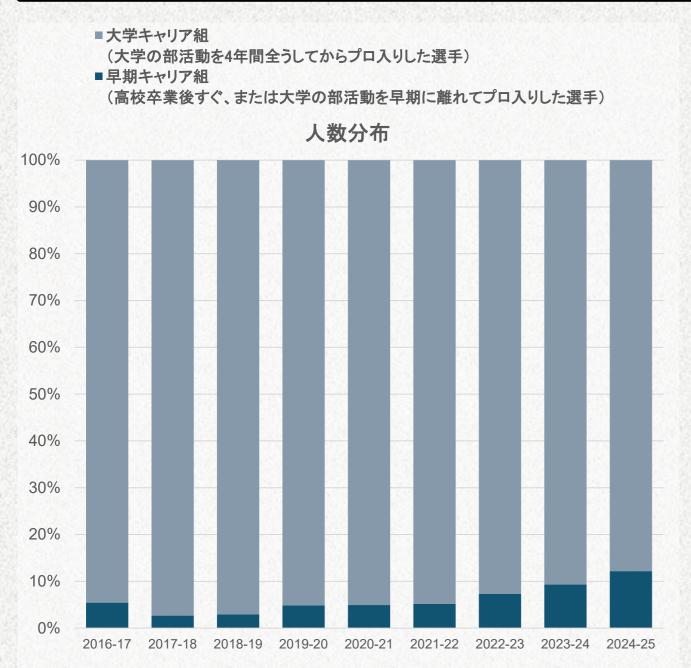
ドラフト

B.革新の一環として、Bリーグでは2026年1月に第1回ドラフトの開催が決定しており、特定の若手選手が対象となる。

そこで本項では、これまでBリーグの舞台に立った選手がプロ入りを決断したタイミングに着目し、進路選択の実態や、進路別に見た活躍・成長の傾向を明らかにすることを目的としている。

なお、登録区分が日本人の選手のみを集計対象としている。

本グラフでは、「大学キャリア組」と「早期キャリア組」の2区分で、各シーズンの人数分布および平均スタッツを可視化している。 なお「大学キャリア組」は、大学の部活動を4年間全うした選手を対象とし、特別指定選手として在学中に記録した卒業前の出場成績は集計対象外としている。一方、「早期 キャリア組」についても、ユース育成特別枠選手として記録した出場成績は集計対象外としている。



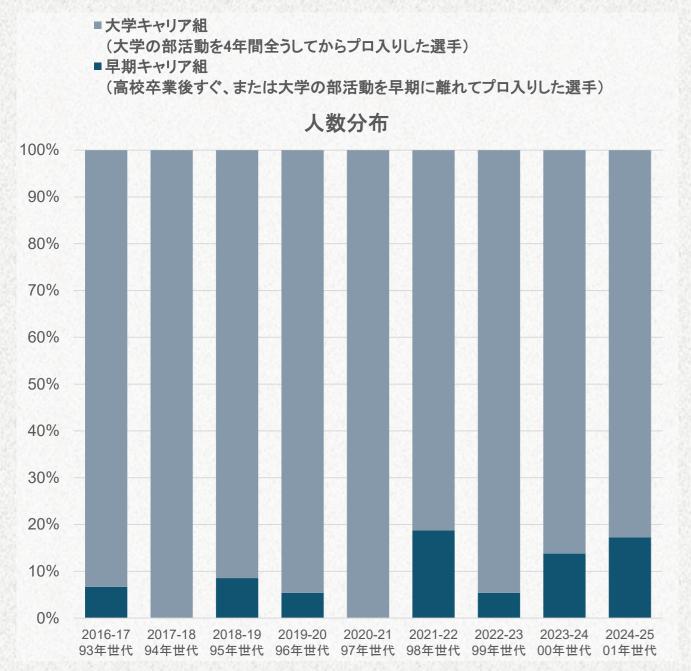


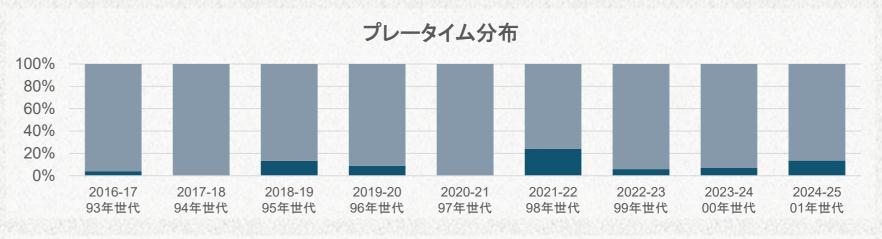


COMMENT

初年度は日本人登録選手の約95%を大学キャリア組が占めていた。一方、早期キャリア組は、2021-22シーズンまで約3~5%にとどまっていたが、直近3シーズンは増加傾向にあり、今季は過去最高の約12%に達した。平均プレータイム・得点を見ると、早期キャリア組が初年度と比べて数字を伸ばしており、特に平均得点では4シーズン連続で大学キャリア組を上回っていた。

本グラフでは、各シーズンの大卒1年目に該当する学年について、早期にBリーグ入りしていた選手と、大学の部活動を4年間全うしてからBリーグ1年目を迎えた選手の同 シーズンにおける人数・スタッツ分布を可視化し、同学年比較をしている。



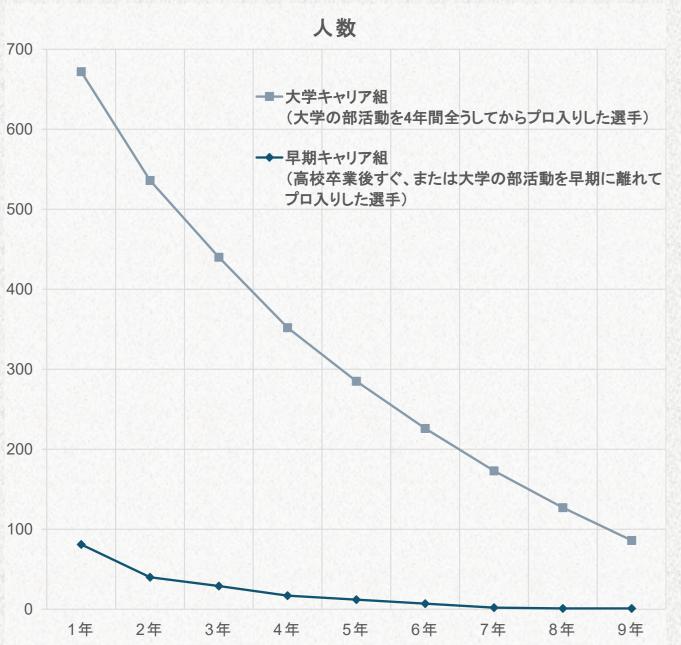




COMMENT

早期にプロ入りするケースは依然として少なく、世代による偏りも見られる。2001年世代では、今季大卒 1年目として24名がBリーグ入りを果たした一方、同世代のうち5名は既に早期にプロ入りしていた。プレータイム・得点分布を見ると、いずれの進路も人数相応の活躍をしており、プロ入りのタイミングが同世代内での活躍の差に大きく影響しない可能性があることを示唆している。

本グラフでは、過去全シーズンを対象として、「大学キャリア組」と「早期キャリア組」の2区分で、リーグ在籍年数ごとの人数および平均スタッツを可視化している。 なお「大学キャリア組」は、大学の部活動を4年間全うした選手を対象とし、特別指定選手として在学中に記録した卒業前の出場成績は集計対象外とし、卒業後を1年目とし ている。一方、「早期キャリア組」についても、ユース育成特別枠選手として記録した出場成績は集計対象外としている。







COMMENT

リーグ在籍年数ごとの人数の減少推移を見ると、早期キャリア組の方が減少ペースが緩やかで、プロとしての選手生命が長い傾向がある。一方、平均プレータイム・得点では、大学キャリア組は安定した水準を維持しているが、早期キャリア組は4年目には大学キャリア組の水準を上回っている。大学4年間部活を全うすることは安定した活躍を支え、早期のプロ入りは成長の可能性を広げることがうかがえる。

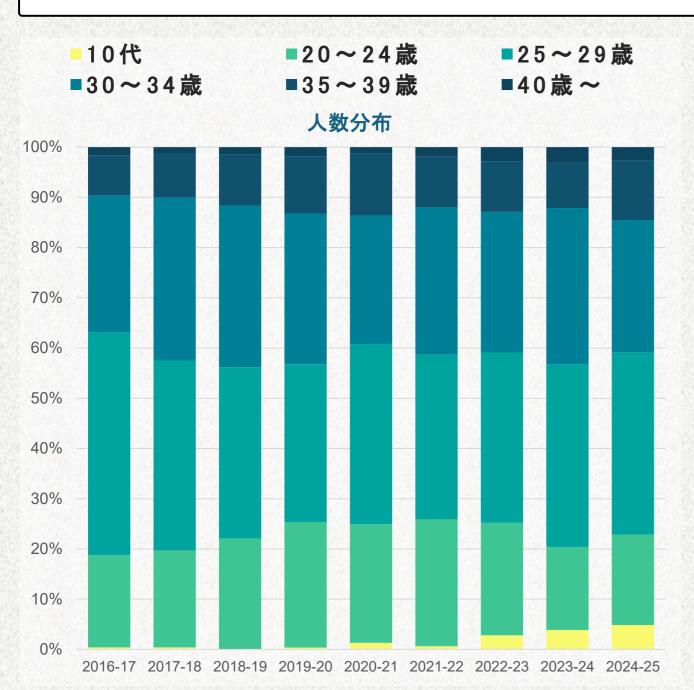
2.編成·強化

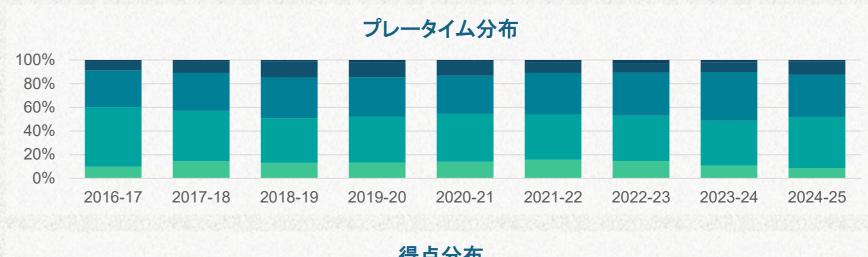
各区分别 スタック分布推移

本項は、年齢別、リーグ在籍年数別、国籍別、登録区分別、ポジション×登録区分別の5つのセクションで構成されている。各シーズンごとにこれらの条件ごとの人数やスタッツ分布を比較することで、選手起用や編成におけるリーグの傾向を把握することを目的としている。

スタッツ分布はプレータイムと得点に限定している。これは、アシストやリバウンドなど他の指標も概ねプレータイムに連動した傾向を示すことから、分析上の重複を避けるため、2項目に絞っている。

B1では10代の人数割合が増加傾向にある。また、近年は20代と30代のプレータイム・得点分布が拮抗したリーグとなっている。



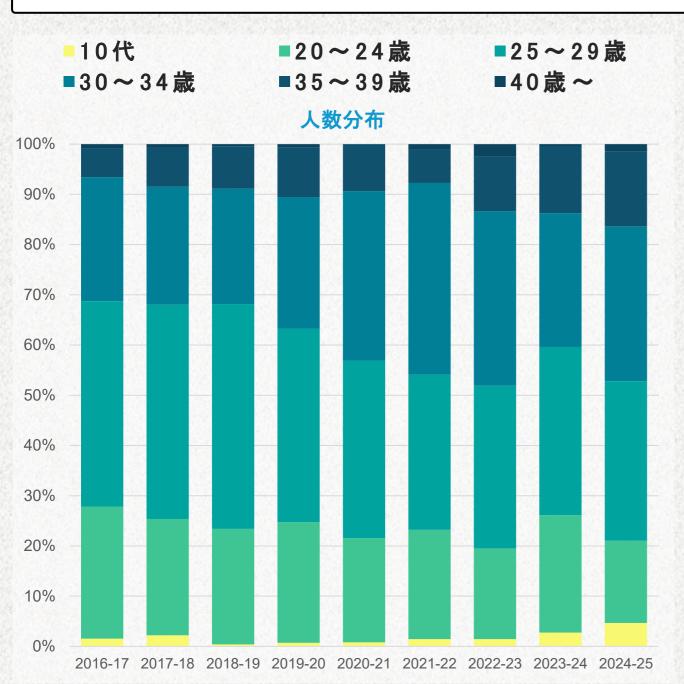


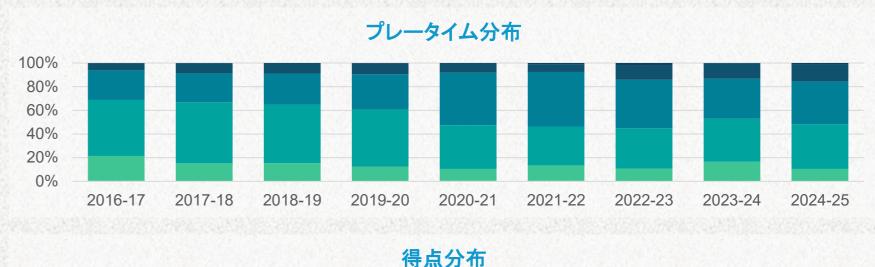


COMMENT

特別指定選手制度は初年度から利用できたものの、B1に出場する10代の選手は少なかった。しかし、2022-23シーズンにユース育成特別枠が導入されて以降、10代の人数割合は増加傾向を辿っている。プレータイムと得点の分布を見ると、初年度は20代がいずれも60%以上を占めていたものの、近年は30代の割合が増加し、20代と30代の活躍が拮抗している。

B2は初年度からB1より多くの10代の選手が在籍していた。さらにB1同様、近年は20代と30代のプレータイム・得点分布が拮抗したリーグとなっている。







COMMENT

B1に比べ、10代の選手は初年度から多く、ユース育成特別枠の導入以降はさらに増加傾向にある。今季は20代の選手の割合が過去最低となり、30代の選手は過去最高を記録した。

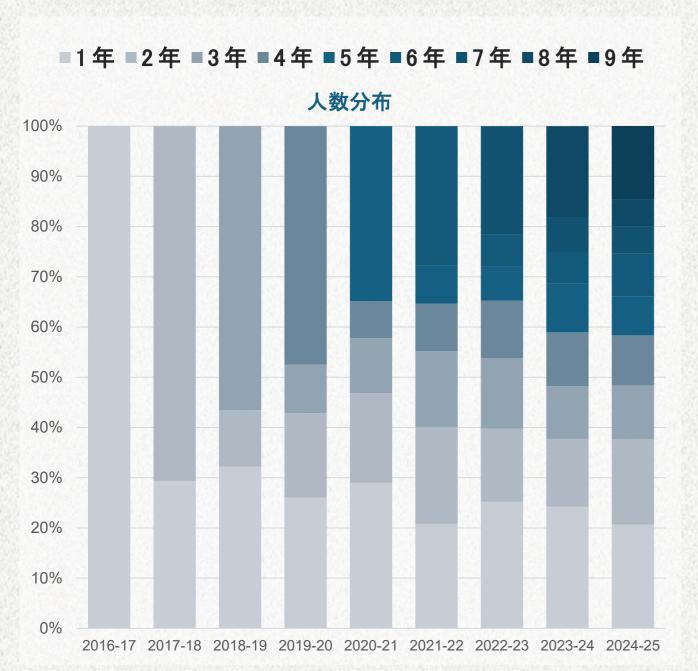
プレータイムと得点の分布では、B1同様に初年度は20代の活躍が中心だったが、近年は20代と30代の活躍が拮抗している。

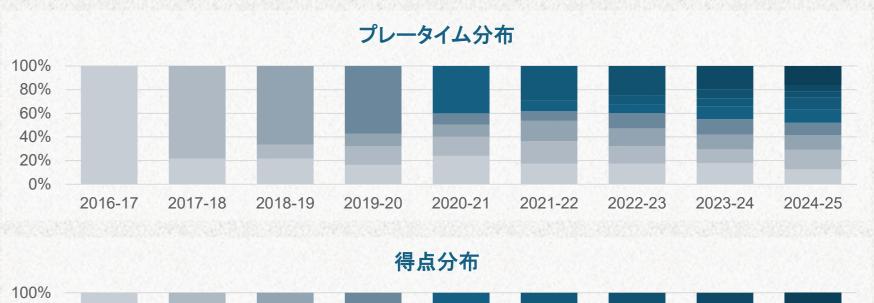
B1は毎年多くの新規参入選手がいる一方、今季は例年よりも1年目の選手のプレータイム・得点割合が少なく、B1での経験が豊富な選手の活躍が中心となっていた。

80%

60% 40%

20%





COMMENT

2016-17

2017-18

2018-19

2019-20

B1初年度は250名で開幕し、その内今季B1での9年目を迎えた選手は54名となった。 2017-18シーズン以降は約70~90名の選手がB1に新規参入しており、今季も1年目の選手の人数分布が全体の約21%で最も多かった。一方で、今季のプレータイムと得点の分布を見ると、1年目の選手の割合が例年よりも低く、今季はB1経験の浅い選手の活躍が少なかったことがうかがえる。

2020-21

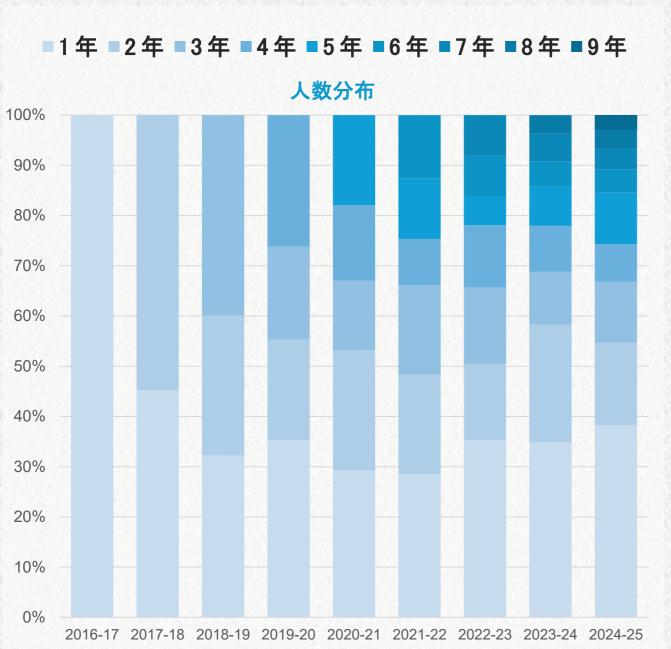
2021-22

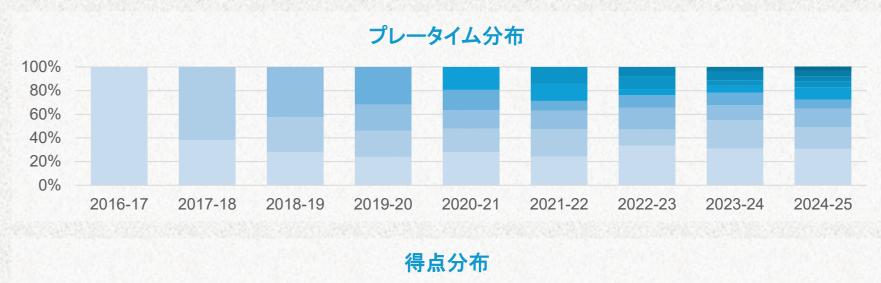
2022-23

2023-24

2024-25

B2は今季1年目・2年目までの選手の人数が半数以上を占めていた。また、総じてB1よりも1年目の選手の活躍の機会が多いリーグとなっている。

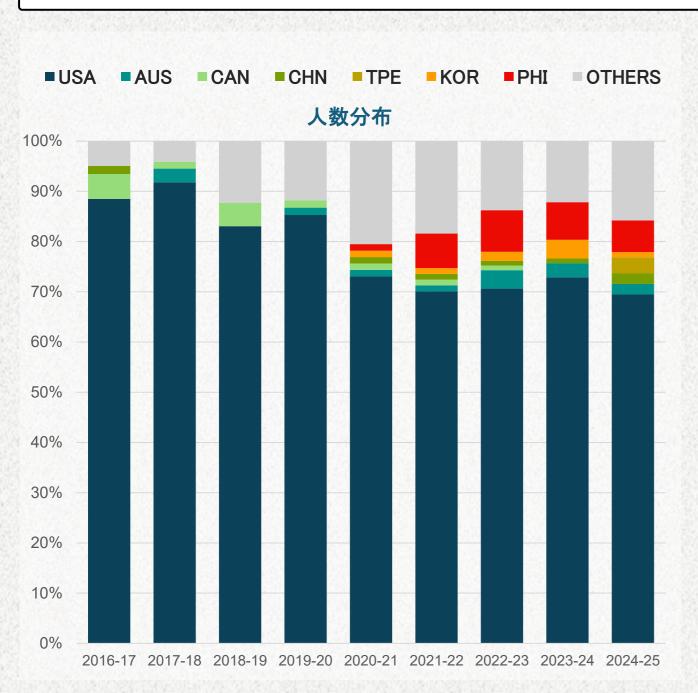


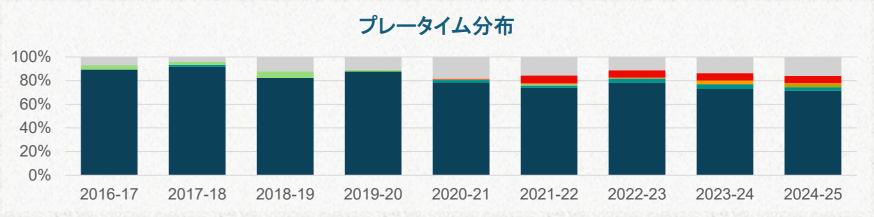


100% 80% 60% 40% 20% 0% 2016-17 2017-18 2018-19 2019-20 2020-21 2021-22 2022-23 2023-24 2024-25

COMMENT

B2初年度は259名で開幕し、その内今季B2での9年目を迎えた選手は6名まで減少した。 今季は1年目の人数割合が最も高く、2年目までの選手で半数以上を占めていた。 また、今季のプレータイム分布を見ても、1年目の選手の割合がB1では約13%だったのに対し、B2は約 32%と高く、B1に比べてB2は1年目の選手でも活躍の機会が多いことがうかがえる。 B1はかつてアメリカ国籍の選手が多くを占めていたものの、近年はアジア特別枠の導入で多国籍化が進み、特にフィリピン国籍の選手が増加した。

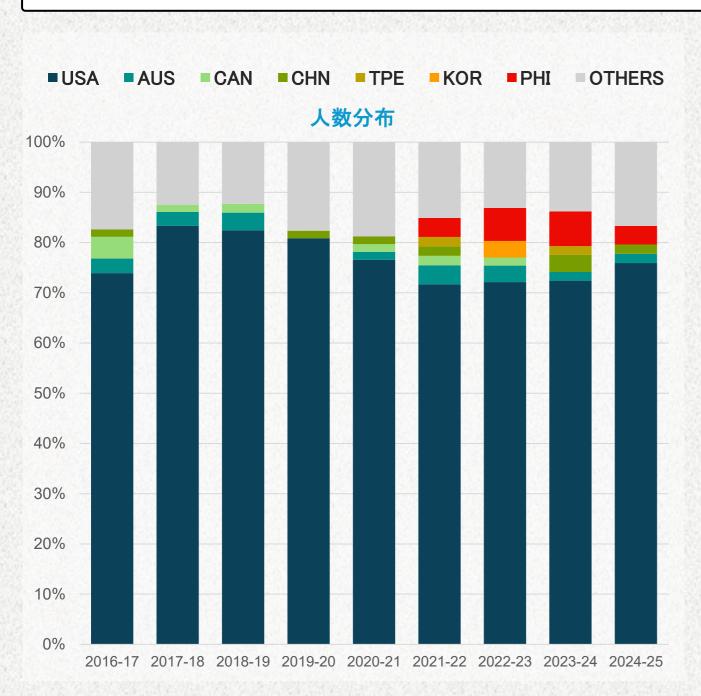


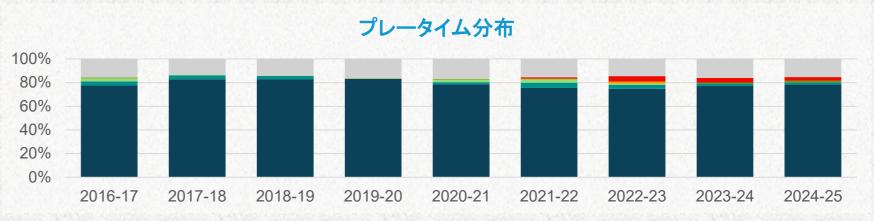


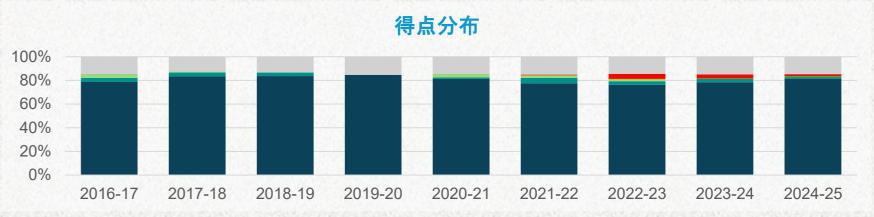


COMMENT

初年度はアメリカの選手が占める人数割合が約89%だったが、今季は約69%に減少している。 日本を除いた一意の国籍数は、初年度の6か国から今季は19か国と多国籍化していることは間違いない。 その要因の一つとして、2020-21シーズンに導入されたアジア特別枠の影響が挙げられる。アジア特別 枠では特にフィリピンの選手の人数割合が多く、スタッツ分布もおよそ人数分布と相関する結果となった。 B2は初年度からすでにB1より多くの国籍の選手が在籍していた。



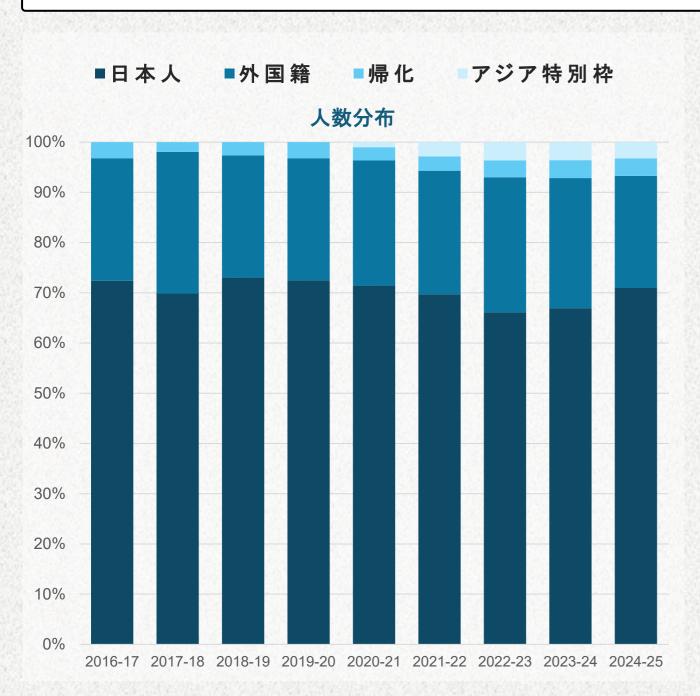


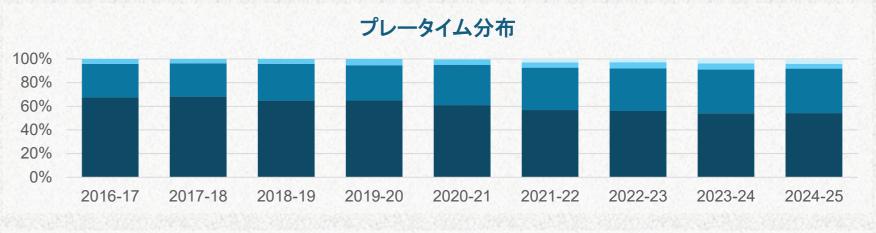


COMMENT

初年度の日本を除いた一意の国籍数は、B1が6か国だったのに対し、B2は13か国と多かった。アジア特別枠導入後も大きな変動は見られず、今季も13か国となっている。これは、B2の各クラブが限られた予算の中で、幅広い地域から費用対効果の高い選手を探してきたことが背景にあると考えられる。また、アジア特別枠対象国拡大の影響か、今季はB1・B2ともにフィリピンの選手の人数割合が減少していた。

B1ではアジア特別枠選手の人数割合は帰化選手とほぼ同程度で推移している。一方、日本人選手は直近2シーズンで増加に転じている。



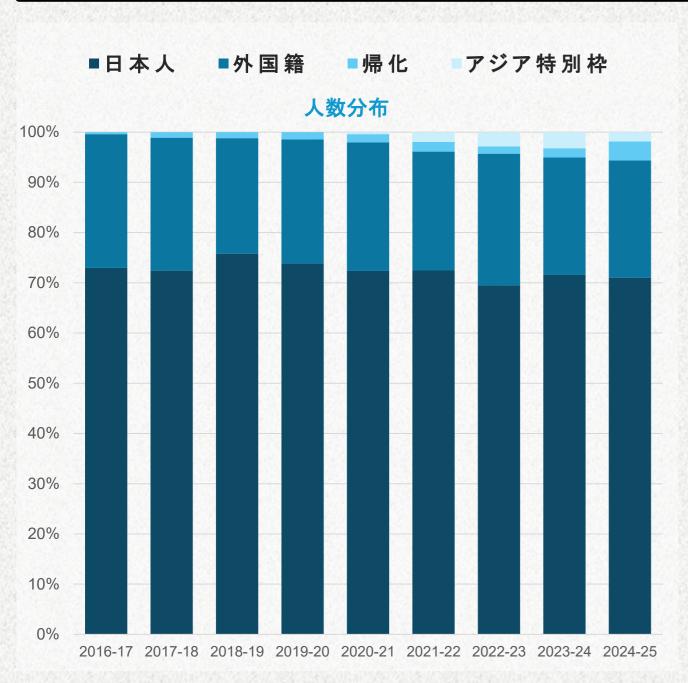


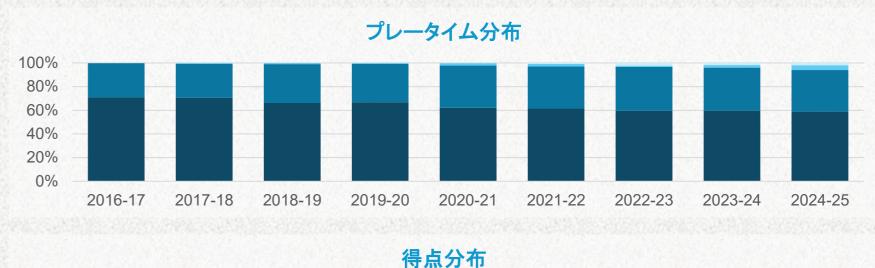


COMMENT

2020-21シーズンに導入されたアジア特別枠の人数割合を見ると、導入初年度こそ該当選手は少なかったものの、その後は帰化選手と同程度の人数割合で推移している。また、日本人選手の人数割合は減少傾向だったものの、直近2シーズンは増加に転じている。これは、ユース育成特別枠の導入などによって、日本人選手の登録機会が拡大したことが影響していると考えられる。

PAGE29 2024-25 STATS REPORT 今季B2では帰化選手の人数割合が過去最高となった。また、B1より日本人選手の出場機会が多いリーグとなっている。





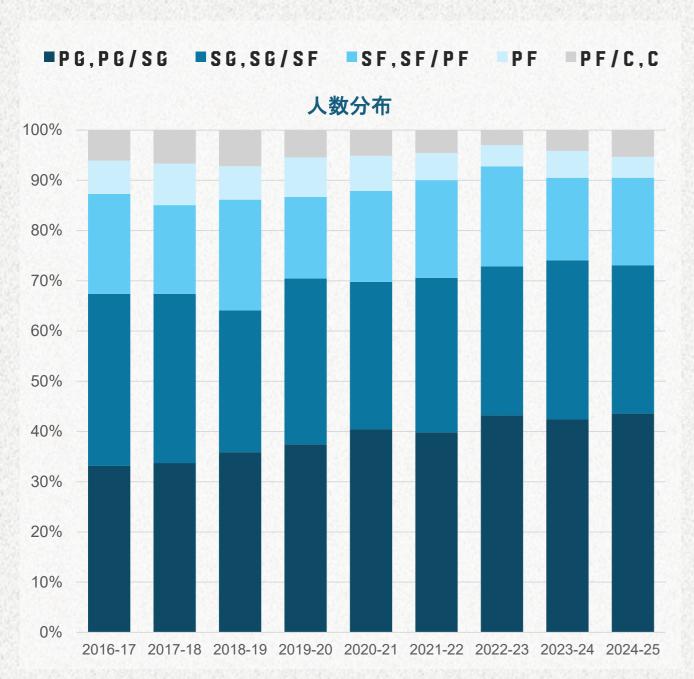


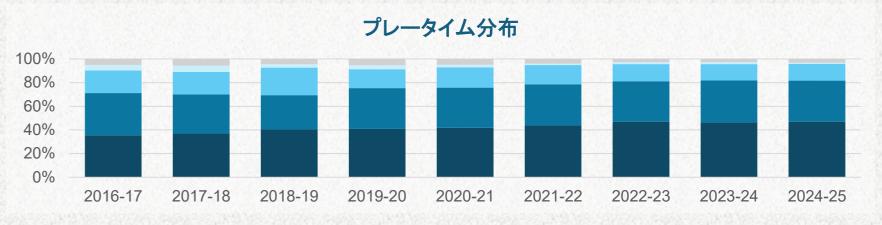
COMMENT

B2では今季、帰化選手の人数割合が過去最高を記録した。B2クラブにおいても、帰化選手を獲得できる環境が整ってきたことや、帰化選手自体も増えていることが要因と考えられる。

また、プレータイム分布をB1と比較すると、B2は常に日本人選手のプレータイム割合がB1より高く、日本人選手の出場機会がより多いリーグであることを示唆している。

B1ではPG,PG/SGの日本人選手が増加している一方、PF~Cの日本人ビッグマンは人数に比べてプレータイムが少ない傾向がある。





得点分布

COMMENT

2016-17

2017-18

2018-19

2019-20

100%

60% 40%

20%

B1の日本人選手は、今季PG,PG/SGの人数割合が過去最高の約44%を記録した。一方で、PF~Cの日本人ビッグマンの人数分布は合計約9%、プレータイム分布では合計約4%にとどまっている。人数に対して、プレータイム割合が小さいことから、日本人ビッグマンが単に不足しているというよりも、外国籍や帰化選手の影響で出場機会が限られているポジションであることがうかがえる。

2020-21

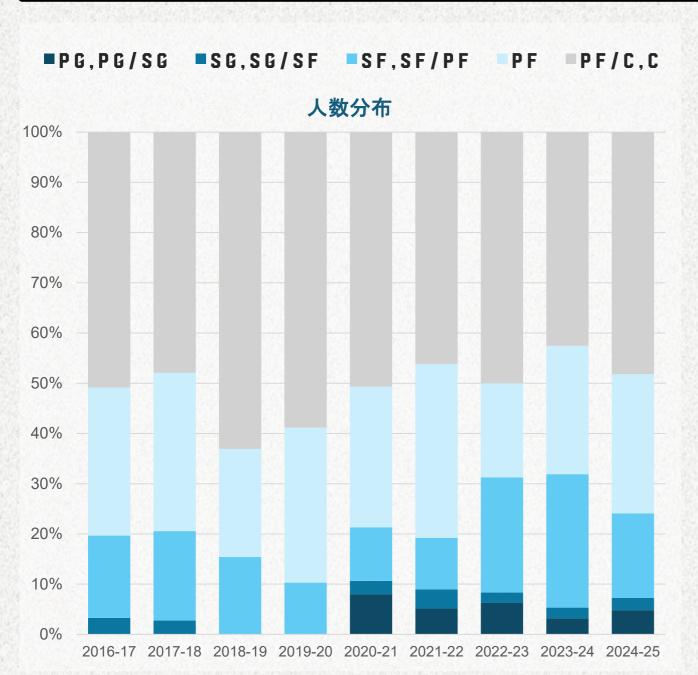
2021-22

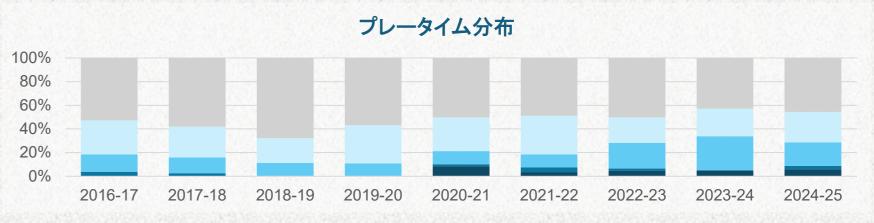
2022-23

2023-24

2024-25

B1ではPF/C,Cの外国籍選手が中心だが、近年はPG~SFの外国籍選手も増え、ポジション分布が多様化している。



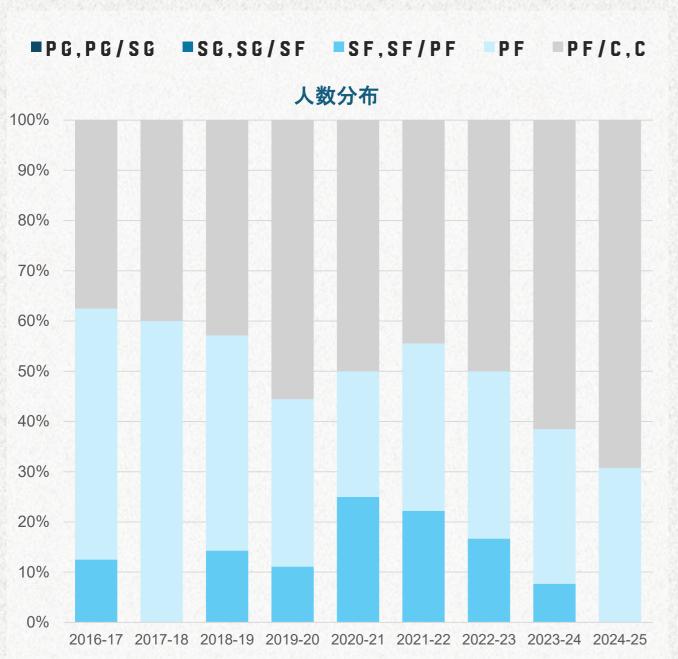


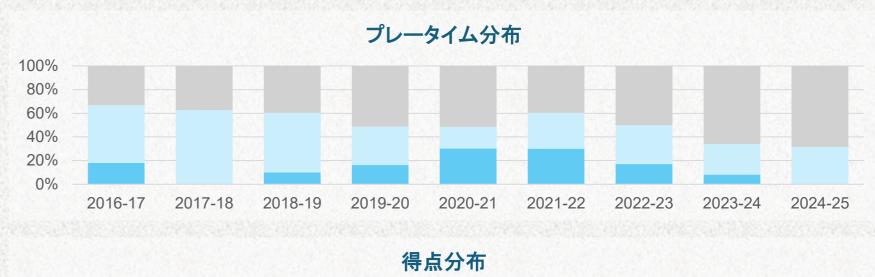


COMMENT

B1の外国籍選手の人数割合は過去9シーズンでPF/C,Cが一貫して最多で、今季も半数近くの約48%を記録した。しかし、2020-21シーズンから外国籍選手の試合エントリーが2名から3名に増えた影響で、近年はPG~SFの外国籍選手も増加しており、外国籍のポジション分布が多様化していることがうかがえる。スタッツ分布もおよそ人数分布と相関する結果となった。

B1では帰化選手のビッグマンが増加傾向で、今季はSF,SF/PFの帰化選手が0名となった。



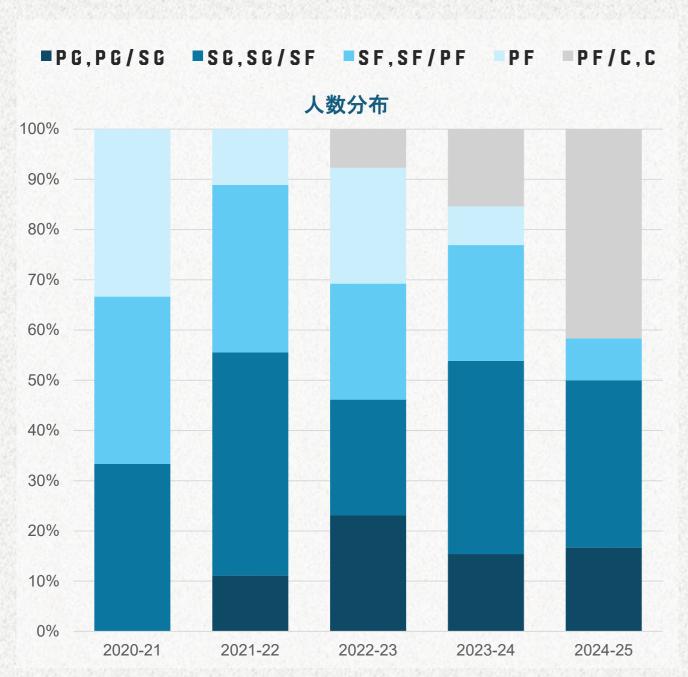


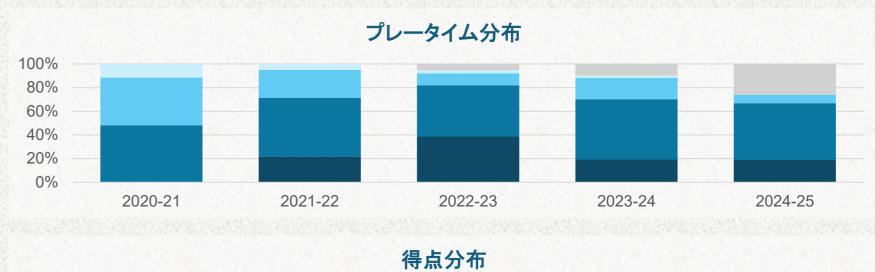


COMMENT

B1の帰化選手について、今季は帰化選手の内、PF/C,Cの選手が占める人数割合が約69%で過去最高となった。未だPG~SGの帰化選手が登録された例はなく、今季はSF,SF/PFの帰化選手も0名となり、帰化選手のビッグマンの人数割合が近年増加傾向にあることがうかがえる。スタッツ分布を見ても、同様に帰化選手のビッグマンが占める割合が増えていると言えるだろう。

B1のアジア特別枠は、当初ガードやウイングの登録が中心だったが、近年はビッグマンの登録も増えている。



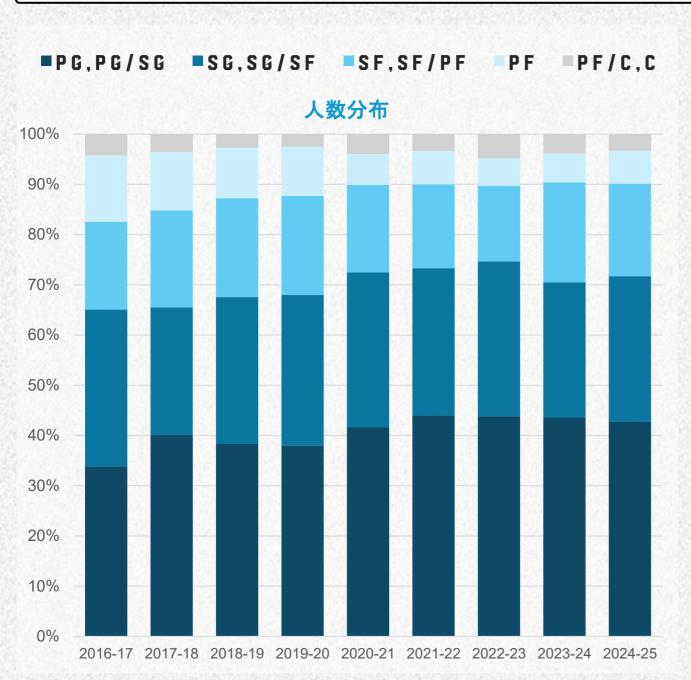




COMMENT

B1のアジア特別枠は、2020-21シーズンに導入されて以降、初年度は3名、2年目から9名以上に増加している。以上を踏まえて人数分布を見ると、当初はガードやウイングでの登録が多かったが、近年ではビッグマンの登録も増えており、今季はアジア特別枠12名の内、過去最高となる約42%がPF/C,Cで登録されていた。

B2でもB1同様に、初年度と比較して日本人のPG,PG/SGの選手が増加している。一方、SF,SF/PFの選手は一時的に減少したが、近年は再び増加傾向にある。



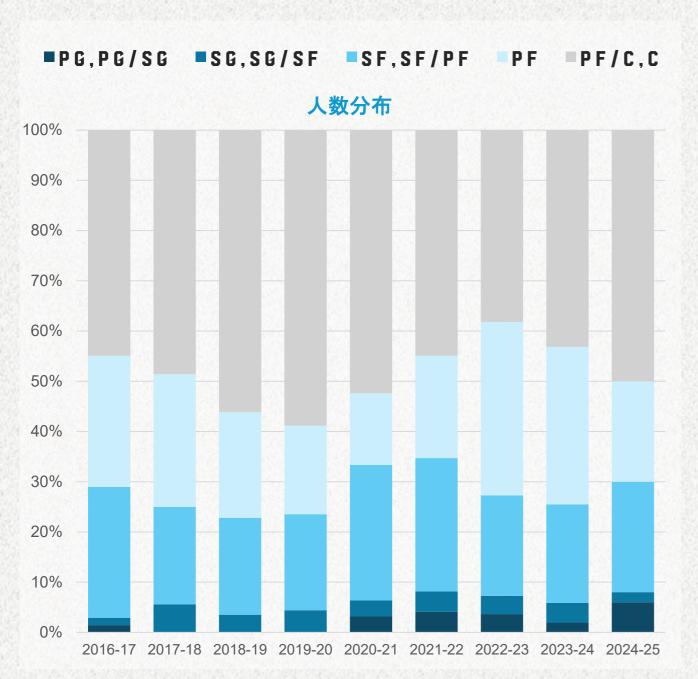


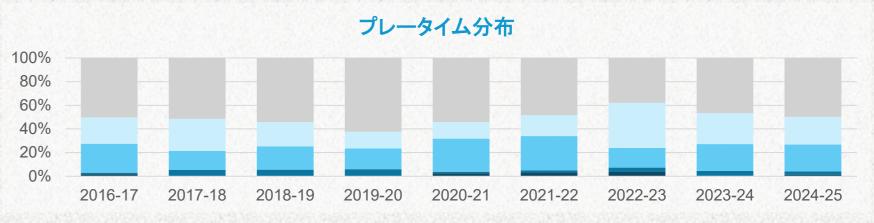


COMMENT

B2の日本人選手について、初年度と今季を比較すると、PG,PG/SGの選手が占める人数割合が増加している一方で、PF~Cの選手が約17%から約10%に減少している。この傾向は、特に外国籍選手の試合エントリーが2名から3名に増えた2020-21シーズンから顕著になっている。これにより、SF,SF/PFの選手の人数割合が一時的に減少したが、昨季からは人数・出場機会ともに再び増加傾向にある。

B2では外国籍選手のビッグマンの人数割合は増減を繰り返し、近年再び増加傾向にある。また、今季はPG・PG/SGの外国籍選手が過去最多となっている。



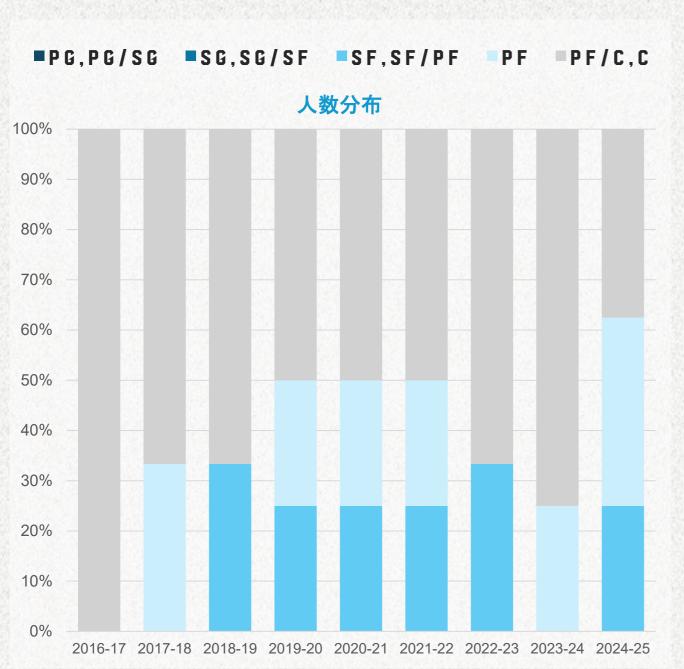


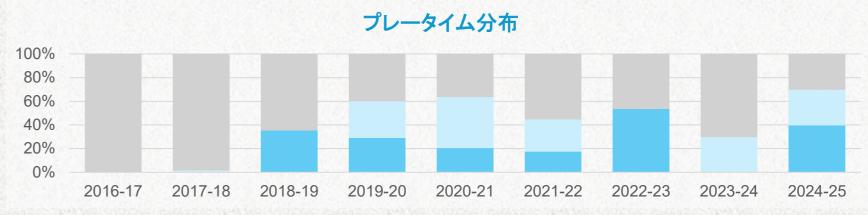


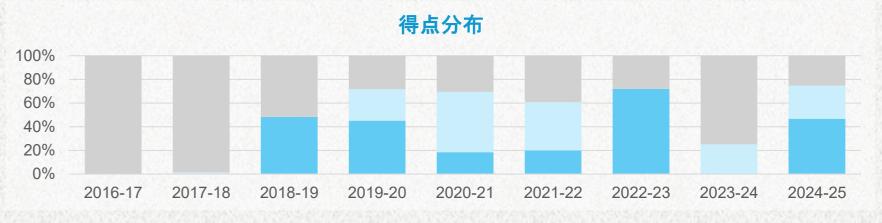
COMMENT

B2の外国籍選手について、リーグ開幕以降しばらくはPF/C,Cの人数割合が増加傾向にあった。しかし、2020-21シーズンに外国籍選手の起用について、レギュレーションが変わると、SF,SF/PFの外国籍選手が増えたため、外国籍ビッグマンは一時的に減少した。しかし、近年では再びその割合が増加傾向にある。また、今季はPG,PG/SGの人数割合が過去最高となっていた。

B2の帰化選手は今季増加し、SF~Cにバランスよく分布している。一方、PG~SGの帰化選手はB1・B2ともに登録された例がない。



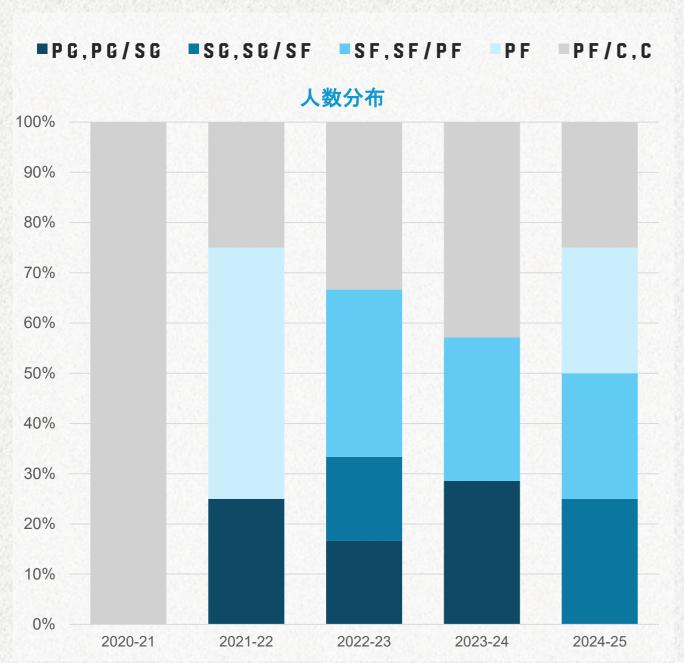


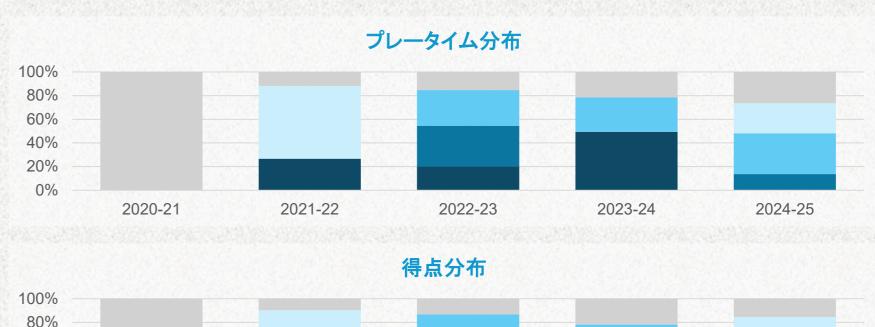


COMMENT

B2の帰化選手は、昨季までは各シーズン1~4名と非常に少なく、分布から有意な傾向を読み取るのは困難だった。しかし今季は8名が登録され、SF~Cにかけてバランスよく分布している。また、PG~SGのポジションで帰化選手が登録された例がない点は、B1と共通している。

B2のアジア特別枠選手は人数が少なく傾向は読み取りにくいが、ポジションは比較的分散している。





COMMENT

2020-21

60% 40%

20%

B2のアジア特別枠の選手は、各シーズンで1~7名、ポジション別では0~3名と人数が限られているため、 分布から有意な傾向を読み取るのは困難だった。ただし、比較的ポジションは分散しており、今季も登録 された4名はすべて異なるポジションで登録されていた。

2022-23

2021-22

2023-24

2024-25

本項では2024-25 シーズンにおける各クラブの総プレータイムの選手別内訳を 円グラフで表現した。各クラブがどのようにプレータイムシェアを行っていたかを 可視化することで、各クラブの特徴や上位クラブに何か共通点があるか等を明 らかにすることを目的としている。

なお、シーズン中の負傷により、プレータイムが伸びなかった選手もいるため、 必ずしもクラブの意図したタイムシェアの形が結果に表れていないケースも想 定されるが、あくまで最終的な結果に対して考察を行っている点にご留意いた だきたい。

※端数処理の関係で、グラフの内訳の和が100%にならない場合があります

B1 東地区



レバンガ北海道



17%: #40トーマス・ウェルシュ

14%: #5 ライアン・クリーナー

11%: #4 寺園 脩斗

10%: #2 ドワイト・ラモス

8%: #15 島谷 怜

8%: #25 テリー・アレン

8%: #1 関野剛平

7%: #34 盛實 海翔

4%: #14 星野 京介

1%: #66 松下 裕汰

9%: Others



秋田ノーザンハピネッツ



15%: #15 タナー・ライスナー

13%: #24 ヤニス・モラン

13%: #17 中山 拓哉

11%: #21 クリスチャン・メコウル

11%: #11 熊谷 航

10%: #0 ガディアガ モハマド アルバシール

8%: **#5 田口 成浩** 7%: **#6 赤穂 雷太**

4%: **#12** 元田 大陽 3%: **#20** 小栗 瑛哉

5%: Others



仙台89ERS



14%: #7 スタントン・キッド

14%: #45 ネイサン・ブース

11%: #6 クリスティアーノ・フェリシオ

10%: #15 渡辺 翔太

9%: #14 青木 保憲

9%: #11 荒谷 裕秀

8%: #23 半澤 凌太

8%: #8 多嶋 朝飛

7%: #9 ヤン ジェミン

3%: #2 星野 曹樹

7%: Others



茨城ロボッツ



15%: #0 ロバート・フランクス

13%: #29 鶴巻 啓太

12%: #13 中村 功平

9%: **#20** ジェハイヴ・フロイド

9%: #21 エリック・ジェイコブセン

7%: #25 平尾 充庸

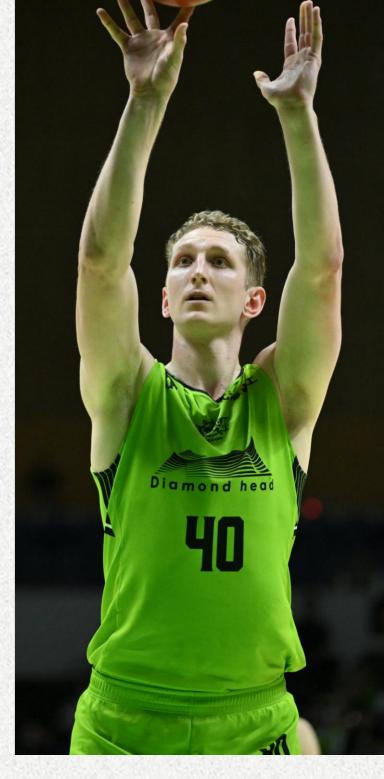
7%: #14 久岡 幸太郎

6%: #17 駒沢 颯

6%: #11 チェハーレス・タプスコット

5%: #34 遠藤 善

11%: Others



UTSUNDMIYA BIRE

宇都宮ブレックス



15%: #25 D.J・ニュービル

13%: #34 グラント・ジェレット

12%: #6 比江島慎

11%: #9 遠藤 祐亮

10%: #42 アイザック・フォトゥ

9%: #10 竹内 公輔

8%: #12 高島 紳司

7%: #33 ギャビン・エドワーズ

7%: #18 鵤 誠司

5%: #7 小川敦也

3%: Others

PHAS

越谷アルファーズ



15%: #5 LJ・ピーク

13%: #10 ティム・ソアレス

10%: #7 松山駿

9%: #4 ジェフ・ギブス

8%: #34 カイル・リチャードソン

6%: #31 喜多川 修平

6%: #18 星川 堅信

6%: #11 カイ・ソット

5%: #33 笹倉 怜寿

4%: #36 榎田 拓真

18%: Others



群馬クレインサンダーズ



13%: #25 ケーレブ・ターズースキー

13%: #0 藤井 祐眞

12%: #4 トレイ・ジョーンズ

11%: #29 細川 一輝

10%: #9 辻 直人

10%: #32 ヨハネス・ティーマン

10%: #3 マイケル・パーカー

8%: #1 コー・フリッピン

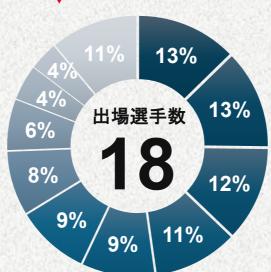
7%: #8 八村 阿蓮

2%: #11 野本 建吾

4%: Others



千葉ジェッツ



13%: #34 クリストファー・スミス

13%: #31 原修太

12%: #2 富樫 勇樹

11%: **#10** ディー・ジェイ・ホグ

9%: #33 ジョン・ムーニー

9%: #12 金近 廉

8%: #1 渡邊 雄太

6%: #4 田代 直希

4%: #13 ジョナサン・ウィリアムズ

4%: #3 小川 麻斗

11%: Others

BI 東地区



COMMENT

B1東地区でCS進出を果たした宇都宮・ 千葉J・群馬は、ガード・ウィングの選手 がトップ2に入っている点が共通してい た。また、複数名の日本人選手がチー ム総プレータイムの10%以上を占めて いた点も共通点として挙げられる。

PAGE41 2024-25 STATS REPORT

ALVARK TUKYU

アルバルク東京



15%: **#22** ライアン・ロシター

13%: #11 セバスチャン・サイズ

12%: #23 レオナルド・メインデル

11%: #75 小酒部 泰暉

11%: #3 テーブス 海

10%: #9 安藤 周人

6%: #10 ザック・バランスキー

6%: #2 大倉 颯太

5%: #77 アルトゥーラス・グダイティス

4%: #25 福澤 晃平

7%: Others

KAWASAKI BRAVE THUNDERS

川崎ブレイブサンダース



13%: #25 ロスコ・アレン

13%: **#24** アリゼ・ジョンソン

12%: #3 サッシャ・キリヤ・ジョーンズ

11%: #35 マシュー・ライト

9%: #17 飯田 遼

8%: #7 篠山 竜青

6%: #12 野﨑 零也

6%: #11 米須 玲音

5%: #33 長谷川 技

4%: #2 小針 幸也

13%: Others



がほぶ サンロッカーズ渋谷



17%: #8 ジョシュ・ホーキンソン

16%: #5 アンソニー・クレモンズ

14%: #9 ベンドラメ 礼生

13%: #13 田中 大貴

12%: **#21** ケビン・ジョーンズ

9%: #22 リード・トラビス

8%: #4 トロイ・マーフィージュニア

3%: #17 阿部 諒

3%: #3 ハーパー・ジャン・ローレンス・ジュニア

2%: #7 船生誠也

3%: Others



横浜ビー・コルセアーズ



14%: #8 ゲイリー・クラーク

12%: #4 ダミアン・イングリス

11%: **#21 マイク・コッツァ**ー

11%: #30 須藤 昂矢

11%: **#15** キーファー・ラベナ

10%: #18 森井 健太

10%: #23 キング 開

8%: #24 松崎 裕樹

5%: #14 大庭 岳輝

5%: #9 杉浦 佑成

3%: Others

B1 中地区



TO TO THE

三遠ネオフェニックス



13%: #2 デイビッド・ヌワバ

13%: #23 デイビッド・ダジンスキー

12%: #1 ヤンテ・メイテン

12%: #24 佐々木 隆成

11%: #10 吉井 裕鷹

10%: #28 津屋 一球

9%: #5 大浦 颯太

6%: #14 湧川 颯斗

5%: #12 ウィリアムス 二カ

5%: #15 兪 龍海

4%: Others

FIGHTING EAGLES

ファイティングイーグルス名古屋



14%: #8 佐土原遼

14%: #11 アーロン・ヘンリー

12%: #54 ショーン・オマラ

11%: #3 並里成

11%: #23 保岡 龍斗

8%: #13 中村 浩陸

7%: #0 オルフェミ・オルジョビ

6%: #18 内尾 聡理

4%: #21 笹山 貴哉

1%: #88 曾 祥鈞

9%: Others



シーホース三河



14%: **#54** ダバンテ・ガードナー

13%: #0 ザック・オーガスト

11%: #19 西田 優大

11%: #10 ジェイク・レイマン

10%: #11 久保田 義章

10%: #13 須田 侑太郎

9%: #7 長野誠史

8%: #18 角野 亮伍

6%: #32 シェーファー アヴィ幸樹

5%: #27 石井 講祐

3%: Others



名古屋ダイヤモンドドルフィンズ



13%: #45 ザイラン・チータム

12%: #43 スコット・エサトン

11%: #30 今村 佳太

10%: #12 中東 泰斗

10%: #2 齋藤 拓実

9%: #5 アイザイア・マーフィー

9%: #14 佐藤 卓磨

9%: #32 ルーク・メイ

5%: #60 坂本 聖芽

5%: #3 加藤 嵩都

7%: Others

B1 中地区



COMMENT

B1中地区でCS進出を果たした三遠・A東京・三河は、総プレータイムの10%以上を占める日本人選手を3名擁していた点が共通している。また、中地区は帰化選手がトップのA東京・SR渋谷、日本人選手がトップのFE名古屋等、特徴的な選手起用を見せたクラブが多かった。

滋賀レイクス



15%: **#12** ブロック・モータム

13%: #2 マーキース・カミングス

10%: #17 常田 耕平

9%: #6 岡田 泰希

9%: #16 野本 大智

8%: #22 市岡 ショーン

8%: #7 游 艾喆

5%: #34 長谷川 比源

5%: **#32** ハビエル・カーター

5%: #21 田原 隆徳

13%: Others

1205550

大阪エヴェッサ



15%: #5 マット・ボンズ

15%: #1 レイ・パークスジュニア

13%: #52 ヴォーディミル・ゲルン

11%: #88 牧 隼利

11%: #11 ライアン・ルーサー

9%: #35 鈴木 達也

6%: #22 飯尾 文哉

6%: #31 木下誠

4%: #12 土家 大輝

3%: #14 橋本 拓哉

7%: Others



京都ハンナリーズ



16%: #32 アンジェロ・カロイアロ

14%: #77 岡田 侑大

12%: #10 チャールズ・ジャクソン

12%: #13 前田悟

10%: #15 川嶋 勇人

10%: #51 古川 孝敏

10%: #35 ジョーダン・ヒース

5%: #34 澁田 怜音

4%: #3 水野 幹太

3%: #5 小西聖也

4%: Others



島根スサノオマジック



16%: #3 安藤 誓哉

15%: #4 ニック・ケイ

14%: #14 ジェームズ・マイケル・マカドゥ

14%: #33 エヴァンス ルーク

13%: #13 津山 尚大

8%: #1 コティ・クラーク

6%: #6 北川弘

5%: #32 晴山 ケビン

4%: #21 納見 悠仁

2%: #20 ワイリー 光希スカイ

3%: Others

B1 西地区



HIROSHIMA DRAGONFLIES

広島ドラゴンフライズ



13%: #24 ニック・メイヨ

12%: #8 ケリー・ブラックシアー・ジュニア

12%: #13ドウェイン・エバンス

12%: #30 山崎 稜

11%: #12 中村 拓人

9%: #34 三谷 桂司朗

8%: #10 上澤 俊喜

8%: #21 渡部 琉

5%: #0 寺嶋良

4%: **#4 ロバーツ**ケイン

6%: Others

NAGASAKI **VELCA**

長崎ヴェルカ



16%: #7 ジャレル・ブラントリー

13%: #17 山口 颯斗

13%: #18 馬場 雄大

11%: **#15 エージェー・**エドゥ

10%: #13 マーク・スミス

9%: #4 狩俣昌也

6%: #9 森川 正明

5%: #1 松本 健児リオン

5%: **#0** スティーブ・ザック

%: #22 タナー・グローヴス

9%: Others



佐賀バルーナーズ



15%: **#23 ヨーリ・チャイルズ**

14%: #25 角田 太輝

12%: #14 金丸 晃輔

12%: #2 レイナルド・ガルシア

9%: #34 井上 諒汰

7%: **#7 アレン・ダーラム**

6%: #36 相原 アレクサンダー学

6%: #55 ジョシュ・ハレルソン

5%: #30 狩野 祐介

4%: #15 モッチ ラミン

10%: Others



琉球ゴールデンキングス



13%: #4 ヴィック・ロー

12%: #45 ジャック・クーリー

11%: #18 脇 真大

10%: #12 ケヴェ・アルマ

10%: #14 岸本 隆一

10%: **#53 アレックス・カー**ク

9%: #34 小野寺 祥太

8%: #15 松脇 圭志

8%: #10 荒川 颯

4%: #3 伊藤 達哉

5%: Others

BI 西地区



COMMENT

B1西地区でCS進出を果たした琉球と島根は選手起用の違いが顕著に表れていた。琉球は上位9選手がそれぞれ1%以内の差で緩やかに傾斜しているのに対し、島根はトップ5までの選手とそれ以外の選手で大きな差がついている。

AOMORIO DE LA COMPANSION DE LA COMPANSIO

青森ワッツ



13%: #1 ラシャード・ケリー

13%: #12 池田 祐一

13%: #39 ホール 百音 アレックス

12%: #22 マックス・ヒサタケ

12%: #27 東海林 奨

8%: #2 パトリック・アウダ

7%: #75 神里和

7%: #24 鍵冨 太雅

5%: #91 寺嶋 恭之介

3%: #56 小室 昂大

7%: Others

Firebonds

福島ファイヤーボンズ



13%: #25 ラポラス・アイヴァナーカス

B2 東地区

12%: #5 ミカエル・ホプキンス

11%: #33 林 翔太郎

9%: #24 伊集 貴也

9%: #21 菅野 翔太

8%: #20 多田 武史

8%: #13 笠井 康平

7%: #78 田渡凌

7%: **#15** ワン ウェイジャ

4%: #1 佐藤 星来

12%: Others



山形ワイヴァンズ



16%: #3 ジェームズ・ベル

14%: #22 ティモシー・ホリフィールド

11%: #9 岡島和真

9%: #8 村上慎也

9%: #0 ルーズベルト・アダムス

9%: #71 レオナルド・デメトリオ

8%: #11 白戸 大聖

7%: #13 阿部 龍星

5%: #1 中島良史

5%: #33 俊野 達彦

7%: Others

む

アルティーリ千葉



15%: #7 デレク・パードン

14%: #21 ブランドン・アシュリー

10%: #22トレイ・ポーター

10%: #11 杉本 慶

10%: #16 大崎 裕太

9%: **#5** 前田 怜緒 8%: **#0** 木田 貴明

7%: #3 黒川 虎徹

7%: #27 熊谷 尚也

7%: #24 大塚 裕土

3%: Others

PAGE46 2024-25 STATS REPORT

B.STATS LAB

富山グラウジーズ



15%: #1 トーマス・ケネディ

14%: #30 アーロン・ホワイト

12%: #50 ミッチェル・ワット

12%: #4 ユージーン・フェルプス

9%: #28 野﨑 由之

9%: #11 宇都 直輝

7%: #20 上田 隼輔

6%: #24 高橋 耕陽

4%: #2 藤永佳昭

4%: #17 田中 晴瑛

8%: Others

BRAVEWARRIORS

信州ブレイブウォリアーズ



12%: #2 ペリン・ビュフォード

11%: #30 テレンス・ウッドベリー

11%: #11 石川 海斗

10%: #50 ウェイン・マーシャル

10%: #3 エリエット・ドンリー

9%: **#15** アキ・チェンバース

9%: #31 三ツ井 利也

8%: #34 渡邉 飛勇

7%: #12 栗原 ルイス

%: #14 狩野 富成

8%: Others

B2 東地区

COMMENT

B2東地区で非常に高い勝率を残したA 千葉は上位10人の選手が全員7%以上 を占めており、多くの選手でプレータイムシェアを行っていたことが分かる。福 井にも同じことが言えるが、福井はトップ2の選手の数字がA千葉以上に低く、 さらに徹底してプレータイムをシェアしていたと言える。上位10選手が全員7%以上だったのはB1,B2を通じてA千葉・福井のみで、両チームのプレータイムシェアは突出していた。



福井ブローウィンズ



13%: #30 ペリー・エリス

11%: #14 木村 圭吾

11%: #4 ライアン・ケリー

9%: #18 藤澤 尚之

9%: #16 渡辺 竜之佑

8%: #34 ベンジャミン・ローソン

8%: #0 細谷将司

7%: #2 小寺 ハミルトンゲイリー

7%: #12 西野曜

7%: #6 長谷川 智伸

10%: Others



XETJAY SHIZUOKA

ベルテックス静岡



13%: #3 岡田 雄三

13%: **#21** ジョン・ハーラー

11%: #11 增田 啓介

11%: #16 橋本 尚明

10%: #26 アンガス・ブラント

9%: #70 フィン・ディレイニー

7%: #30 サイモン 拓海

7%: **#22 バローン マーテル**

5%: #8 新川 敬大

4%: #10 陳岡 燈生

10%: Others

Bambilous Nara Nara

バンビシャス奈良



16%: #44 シャキール・ハインズ

13%: **#9** スティーブン・ジマーマン

11%: #6 林 瑛司

10%: #11 キャメロン・ジャクソン

9%: #7 古牧 昌也

9%: #20 石井 峻平

8%: #88 中谷 衿夢

8%: #24 本多 純平

6%: #0 小林 遥太

5%: #1 大塚 勇人

5%: Others



神戸ストークス



14%: #16 チョンディー・ブラウン ジュニア

12%: #22 ネイサン・エイドリアン

11%: #12 川島 聖那

11%: #30 金田 龍弥

8%: #24 モリス·ウデゼ

8%: #13 道原 紀晃

7%: #7 綱井 勇介

6%: #2 カロンジ磯山 パトリック

4%: #1 中西 良太

4%: #25 藤原 瞭我

15%: Others

ORANGE

愛媛オレンジバイキングス



15%: #3 古野 拓巳

12%: #11 ナイジェル・スパイクス

10%: #6 平 凌輝

9%: #23 テレンス・キング

7%: #0 奥田 雄伍

7%: #18 ショーン・ジェフリー・チウ

7%: #1 ノヴァー・ガドソン

6%: #7 青木 龍史

5%: #65 玉木 祥護

5%: #17 武内 理貴

17%: Others

B2 西地区



RIZING ZEPHYR

ライジングゼファー福岡



12%: #7 西川貴之

12%: #25 ジャスティン・バーレル

10%: #5 アンドリュー・ランダル

10%: #1 中村 太地

9%: **#8 ジョシュア・スミス**

9%: #0 會田 圭佑

9%: #24 谷口 光貴

8%: #50 アイラ・ブラウン

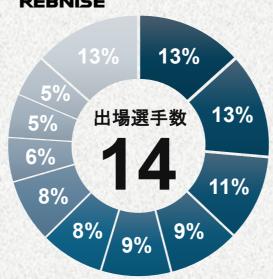
7%: #23 村上 駿斗

4%: #12 寒竹 隼人

10%: Others



鹿児島レブナイズ



13%: #3 マット・ハームス

13%: #23 アンソニー・ゲインズ・ジュニア

11%: #5 ジュフ・伴馬

9%: #14 兒玉 貴通

9%: #7 飴谷 由毅

8%: #93 上良 潤起

8%: #11 森田 雄次

6%: #32 武藤 修平

5%: #10 駒水 大雅 ジャック

5%: #12 藤田 浩司

13%: Others

B2 西地区

COMMENT

B2西地区では、静岡・愛媛・福岡の3クラブで日本人選手がトップとなった。日本人選手がトップだったのはB1では24クラブ中2クラブに対し、B2では14クラブ中3クラブ。B2では上位に日本人選手が入るクラブも多く、B1/B2のカテゴリーによって、日本人選手の起用方法に違いが出ているのかもしれない。



熊本ヴォルターズ



15%: #44 ミッチェル・ライトフット

12%: #3 山本 翔太

10%: #88 グレゴリー・エチェニケ

9%: #5 磯野 寛晃

8%: #31 山田 安斗夢

7%: #1 ジャメール・マクリーン

6%: #17 澤邊 圭太

5%: #2 田中力

5%: #13 長島蓮

5%: #12 保坂 晃毅

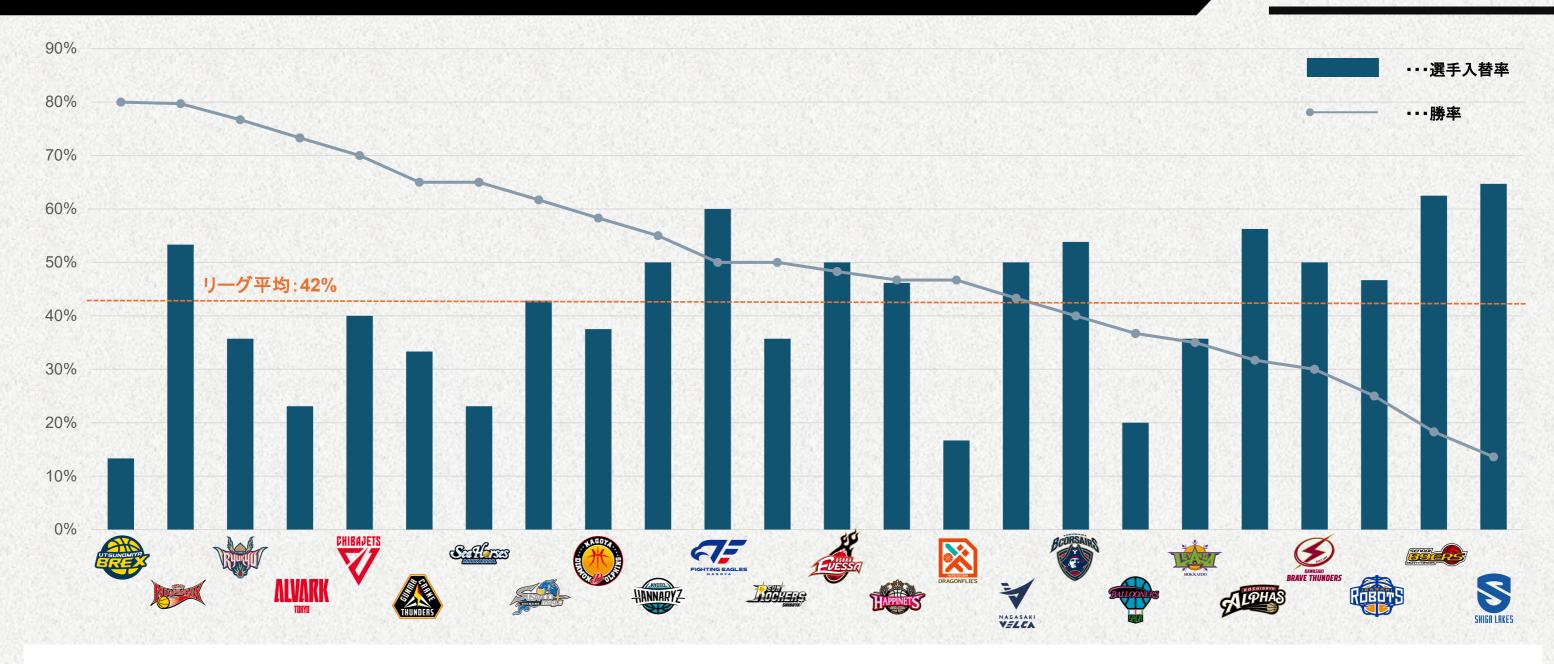
18%: Others



選手入替率

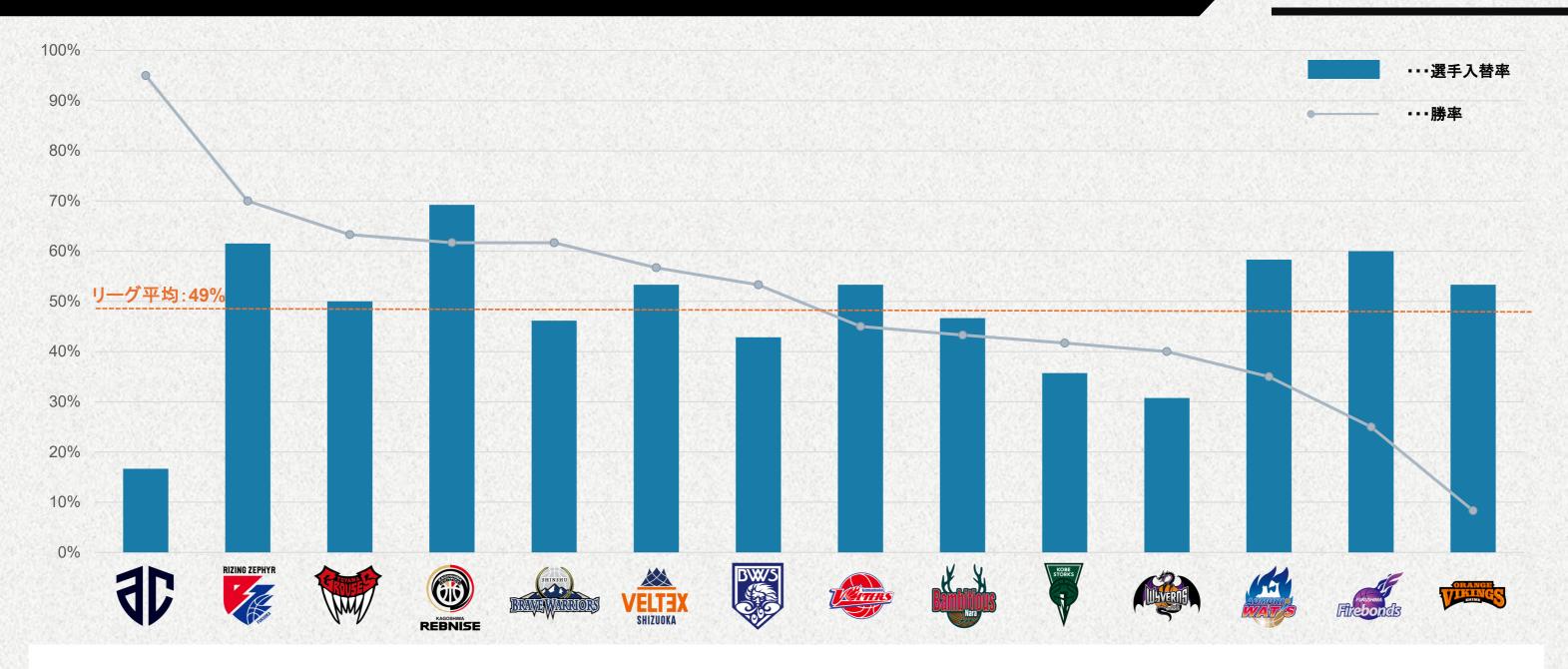
15 20 11

本項では、前シーズンからロスターを入れ替えることが2024-25シーズンの戦績につながっていたのかを検証するため、各クラブの選手入替率を算出し、クラブ毎にグラフ化した。選手入替率は2024-25シーズン終了時点のロスターについて「2023-24シーズンに該当クラブ所属歴のない選手数・該当クラブの所属選手数」を計算することで算出している。また、横軸のクラブはリーグ戦の勝率が高い順に並べている。



COMMENT

B1ではCSに進出したクラブの中で、選手入替率がリーグ平均の42%を上回ったのは三遠・島根のみ。優勝した宇都宮はリーグで最も低い約13%で、昨季から継続性のあるロスターで戦ったクラブが上位につける傾向が強かった。勝率5割以上のラインで見ると、三遠・京都・FE名古屋が選手入替率が50%以上で、選手を大幅に入れ替えたクラブでも高い勝率を残したケースもある。一方、下位には選手入替率が50%以上のクラブが多く見られる。



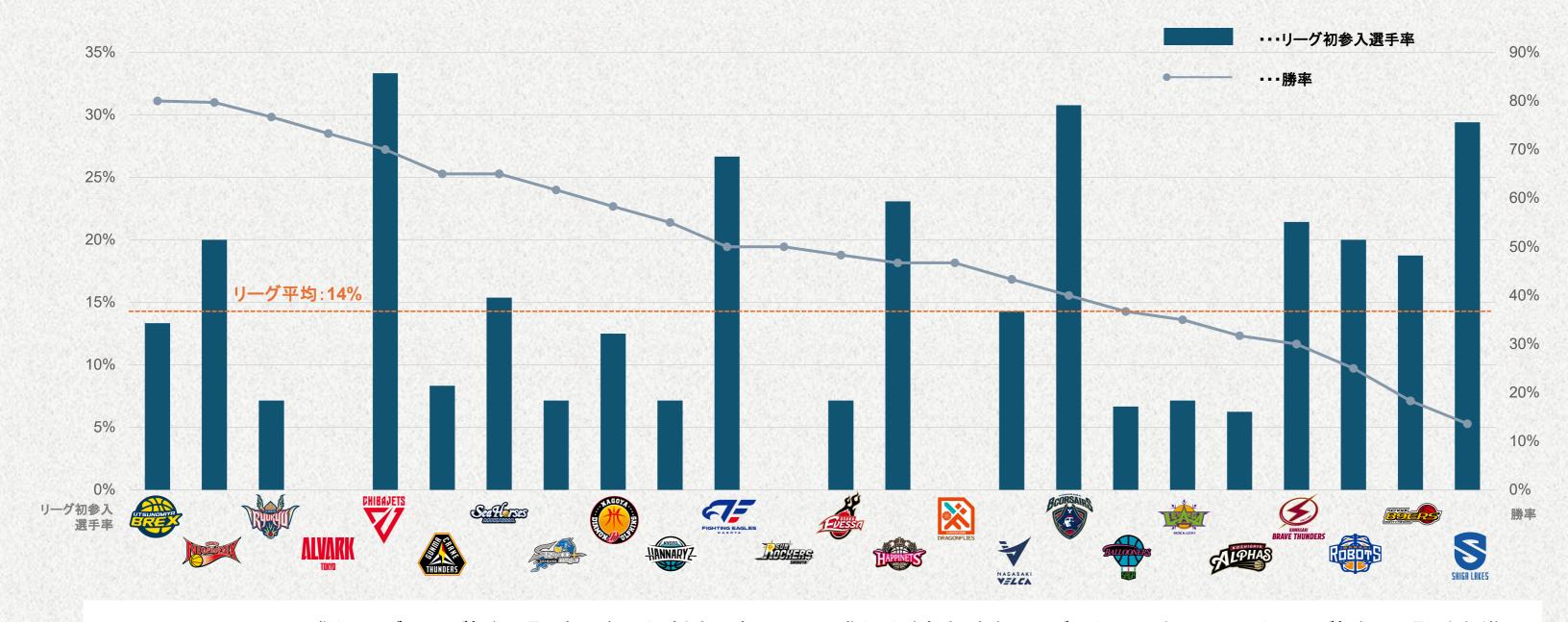
COMMENT

B2で最も低い選手入替率だったA千葉が圧倒的な勝率を残している点が目立つが、PO進出8クラブ中5クラブが選手入替率50%以上となっており、ロスターを刷新することで成功を収めたクラブも多かった。一方で、下位3クラブも選手入替率50%以上で、ロスターを刷新したクラブで明暗が分かれる結果となった。

HiBlead

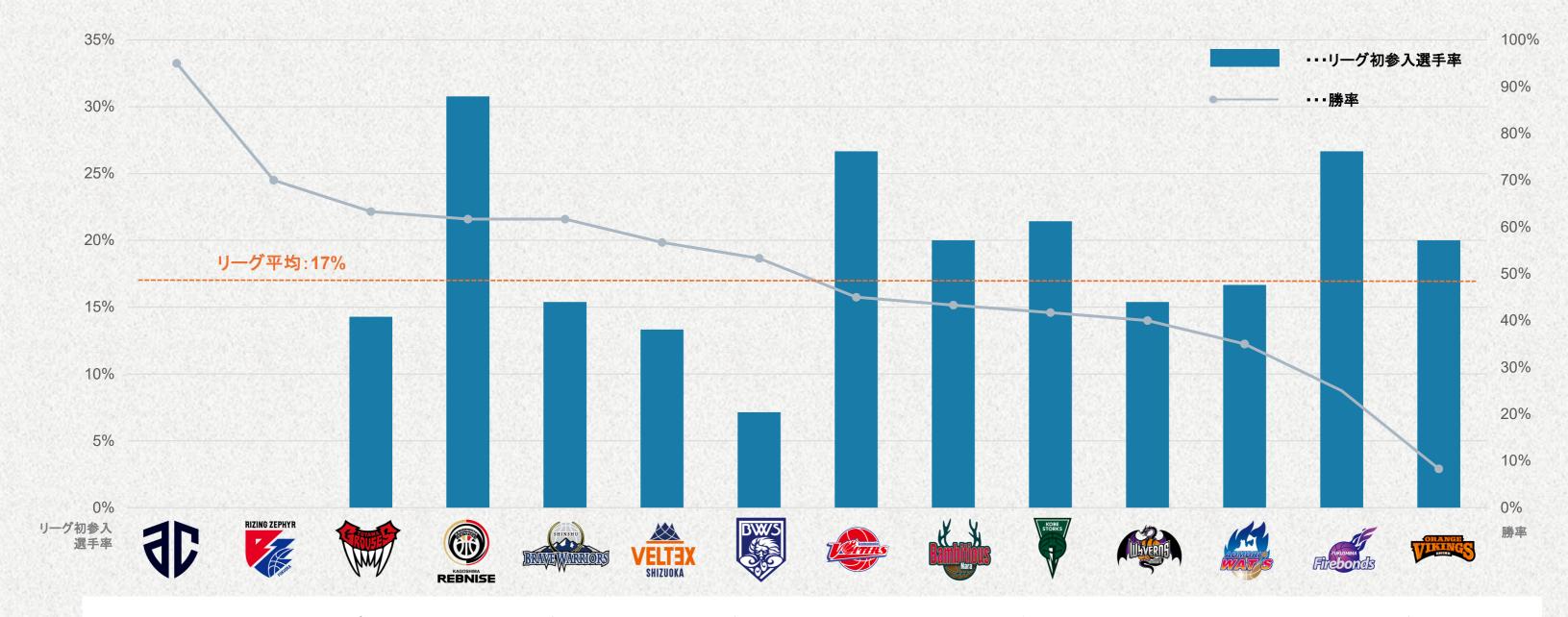
FUJISHIR

本項では、ロスターにBリーグ初参入の選手がいることが、2024-25シーズンの 戦績に関係していたのかを検証するため、クラブ毎にリーグ初参入選手率を算 出し、グラフ化した。リーグ初参入選手率は2024-25シーズン終了時点のロス ターについて「2023-24シーズン以前にB1かB2リーグ戦に登録されたことがな い選手数÷該当クラブの所属選手数」を計算することで算出している。また、横 軸のクラブはリーグ戦の勝率が高い順に並べている。



COMMENT

CS進出8クラブのリーグ初参入選手率はバラツキが大きいが、FINALSに進出した宇都宮・琉球はリーグ平均の14%を下回っていた。リーグ初参入の選手を多く抱えていても、CSに進出するだけの戦績を残せるクラブが複数あった一方で、CSを勝ち上がるにあたっては、過去のリーグでの経験値が重要だった可能性がある。勝率下位4クラブの初参入選手率は高いが、下位5~7クラブの初参入選手率は低く、勝率との関係性を見出すのが困難な結果となっていた。



COMMENT

勝率トップ2のA千葉と福岡はリーグ初参入の選手が(リーグ戦終了時点の)ロスターに1人もおらず、FINALSへ進出した富山の初参入選手率もリーグ平均以下。また、勝率5割を下回ったクラブの多くが初参入選手率でリーグ平均を上回っていた。B2はB1以上にリーグ初参入の選手の割合が低いクラブ程、リーグ戦の勝率が高い傾向にあったと言えるだろう。

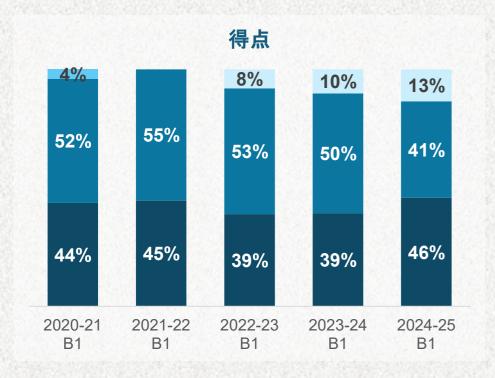
本項では、各クラブのチームスタッツが日本人・外国籍・帰化・アジア特別枠の4つの登録区分の間でどのように分布しているかを可視化する。外国籍・帰化・アジア特別枠でどのような選手を獲得するかは編成上非常に重要なポイントだが、本項では各クラブにおいて、各登録区分の選手がどのような役割を担っていたかを明らかにすることを目的としている。

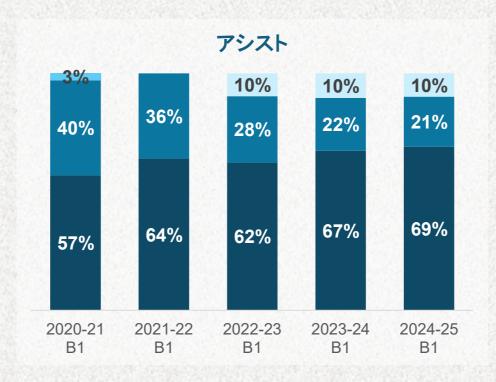
登録区分が現行の4つとなった2020-21シーズン以降を対象とし、シーズン間での推移が見えるよう100%積み上げ棒グラフで表現する。スタッツ項目は得点・リバウンド・アシスト、さらに、インサイドとアウトサイドの得点それぞれを確認するため、ペイント内得点と3P成功数もグラフ化している。

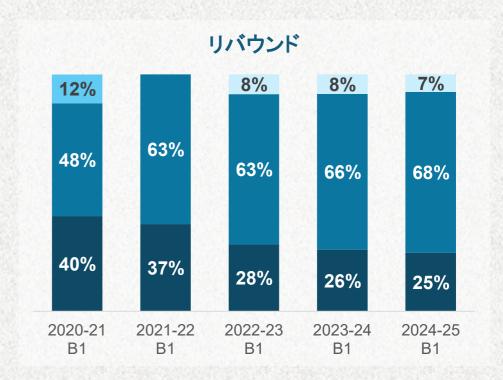
※端数処理の関係で、グラフの内訳の和が100%にならない場合があります

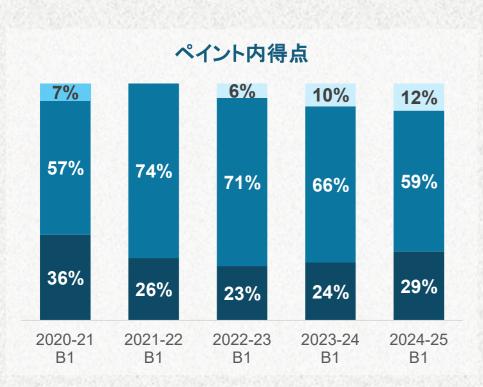


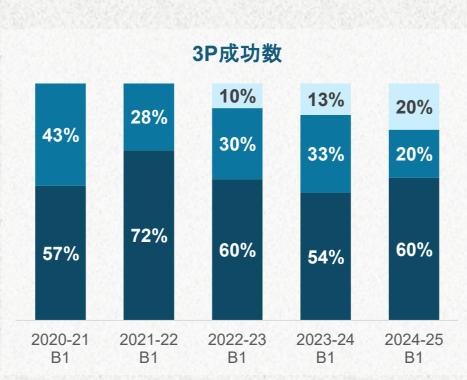
北海道











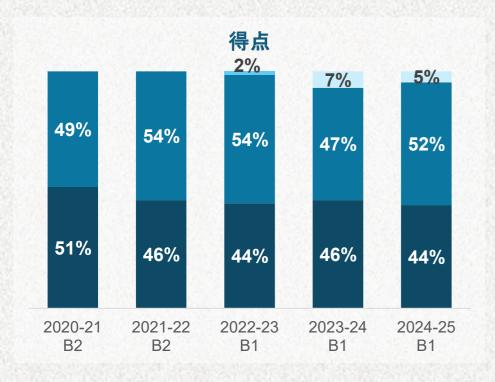
■日本人 ■外国籍 ■帰化 アジア特別枠

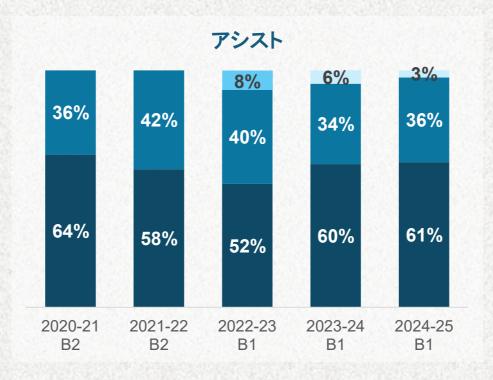
COMMENT

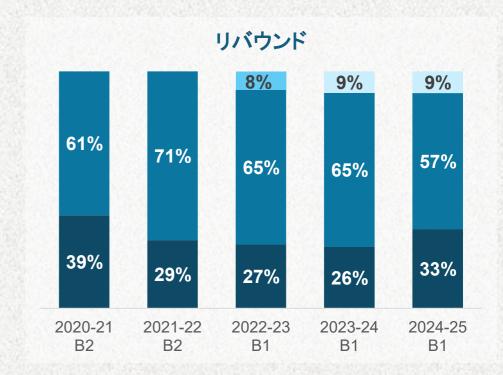
今季は日本人の得点・アシスト、外国籍のリバウンド、アジア特別枠の得点・ペイント内得点・3P成功数の割合が、いずれも過去5シーズンで最高値となった。各登録区分の選手の特徴が強く押し出されたシーズンだったことがうかがえる。

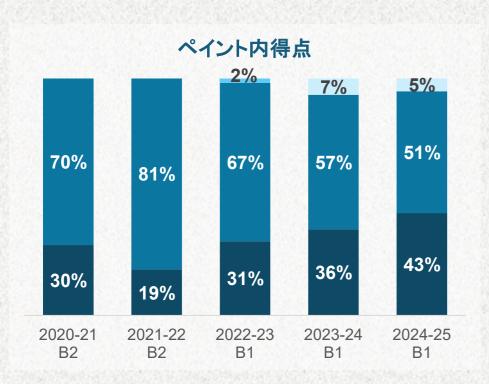


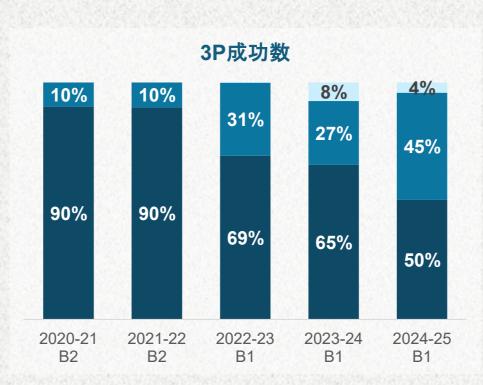












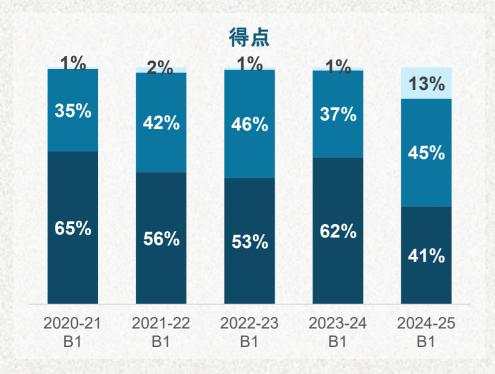
■日本人 ■外国籍 ■帰化 アジア特別枠

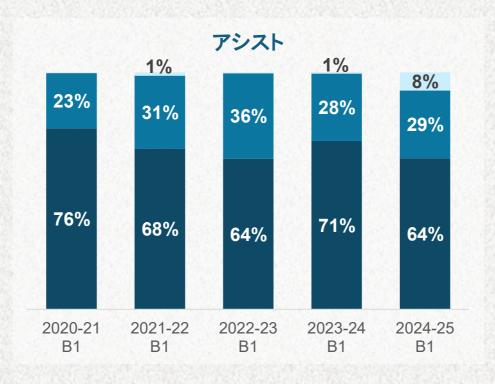
COMMENT

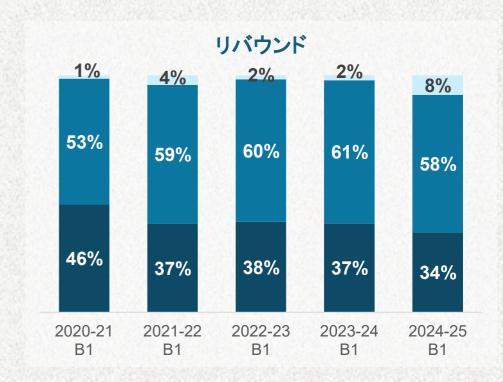
B1に昇格した2022-23シーズン以降、日本人のアシストとペイント内得点の割合が増加し、3P成功数の割合が減少する傾向が継続している。日本人の得点エリアがよりインサイド中心に移行している点が目立っている。

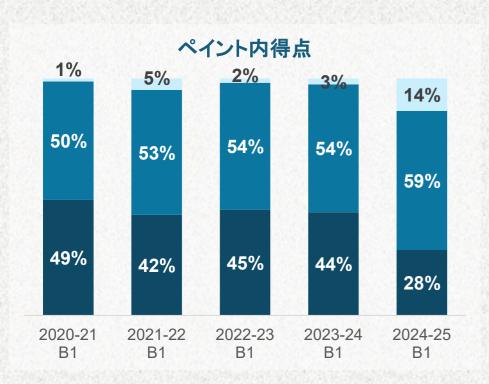


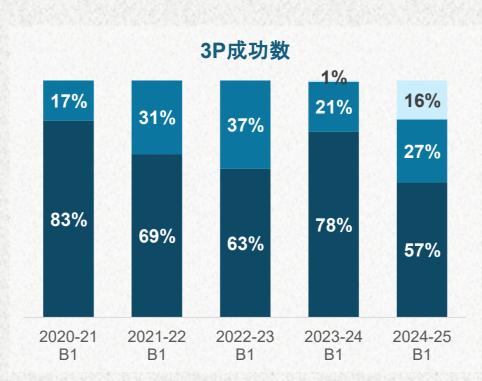












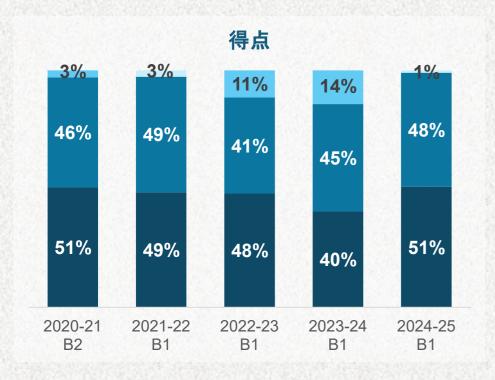
■日本人 ■ 外国籍 ■ 帰化 アジア特別枠

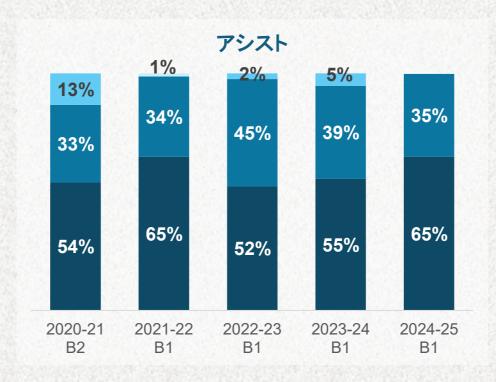
COMMENT

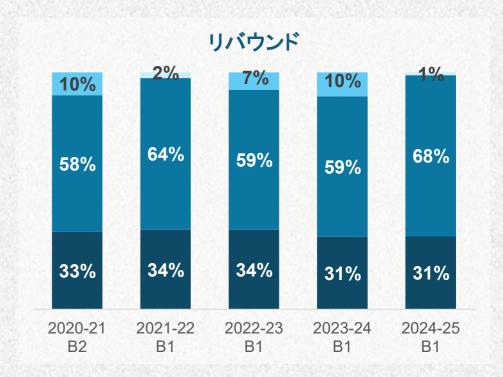
今季各項目でアジア特別枠の割合が大きく増加しており、それに伴い日本人の割合が相対的に減少している。 昨季までの4シーズン、日本人の得点割合が常に50% 以上を占めていたが、今季は初めて50%を下回った。

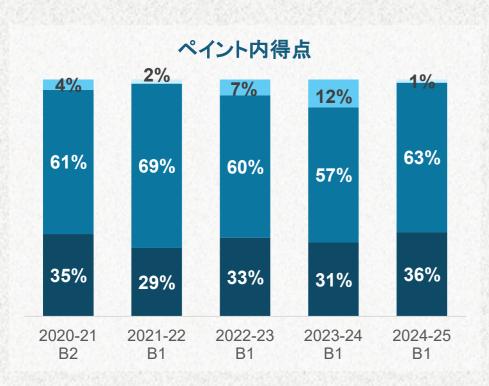


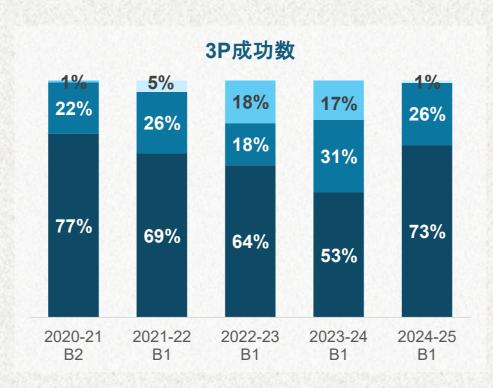












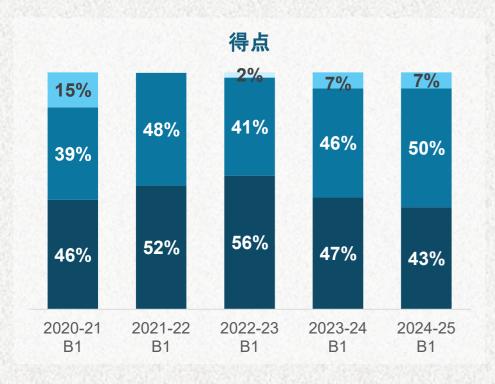
■日本人 ■外国籍 帰化 アジア特別枠

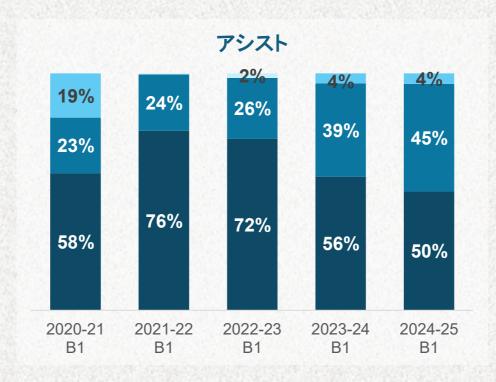
COMMENT

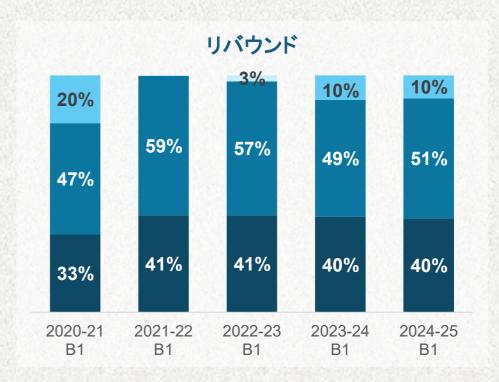
B1に昇格した2021-22シーズン以降、日本人の得点割合が減少する傾向が続いていたが、今季は昨季から約10%増加し、3P成功数の割合も大幅に増加した。また、今季は外国籍のリバウンドとペイント内得点の割合の増加も目立った。

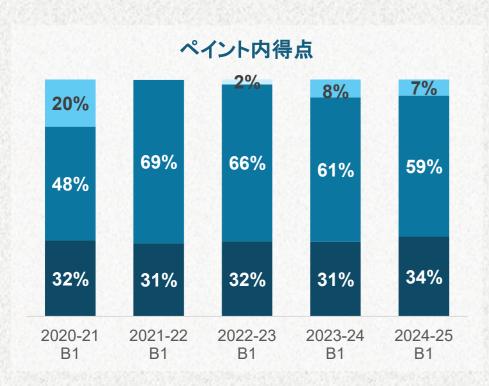


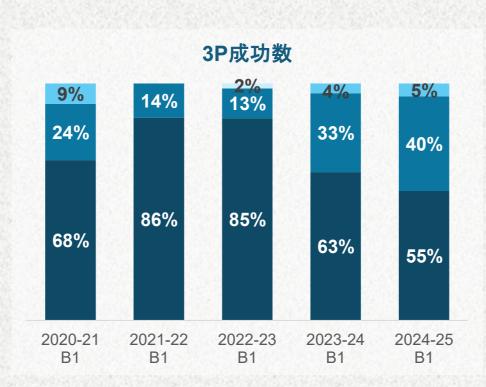
宇都宮











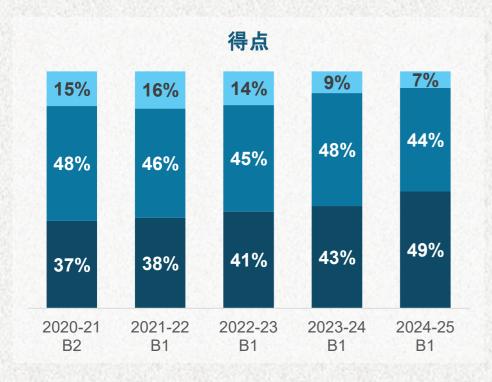
■日本人 ■外国籍 帰化 アジア特別枠

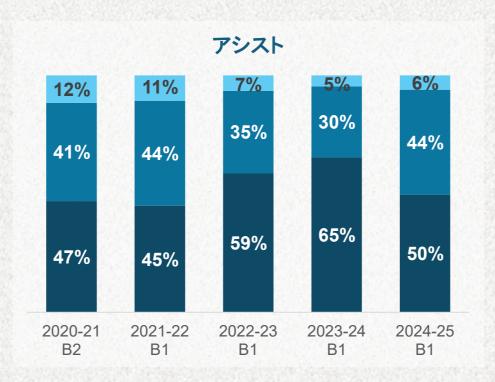
COMMENT

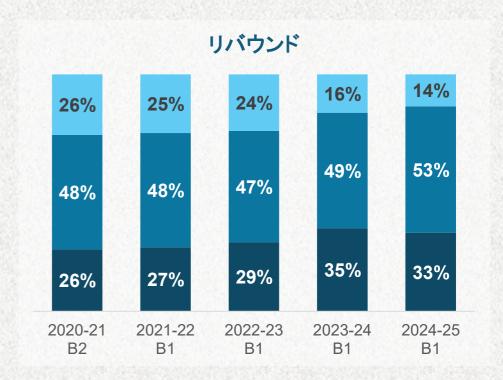
過去5シーズンを通じて、日本人のリバウンドとペイント 内得点の割合に上下が少ない点が目立っている。特に 日本人のリバウンド割合40%台は他クラブと比較しても 高く、2021-22シーズン以降、高水準で安定している。

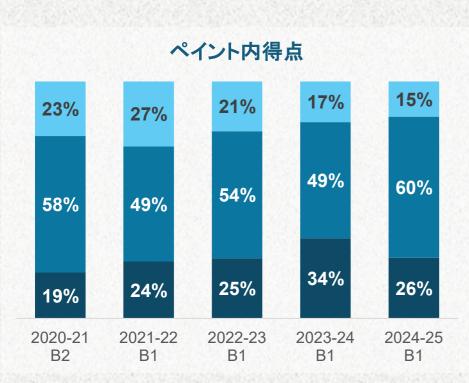


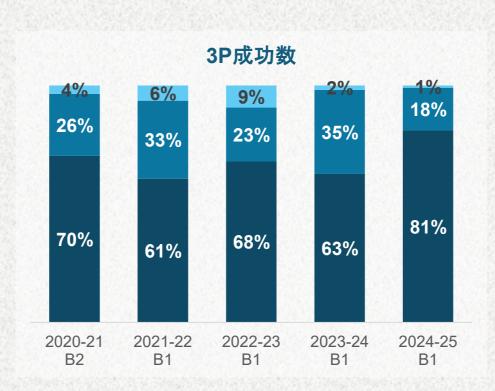
群馬









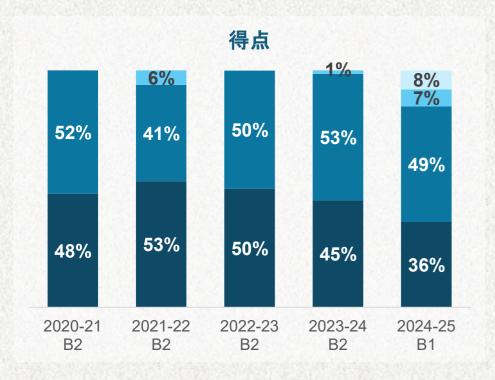


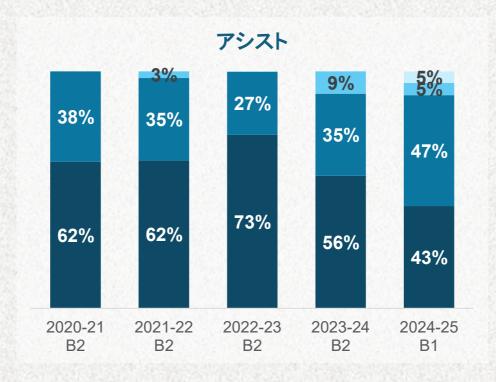
■日本人 ■外国籍 帰化 アジア特別枠

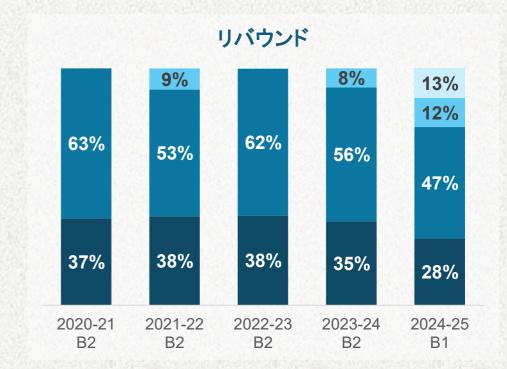
COMMENT

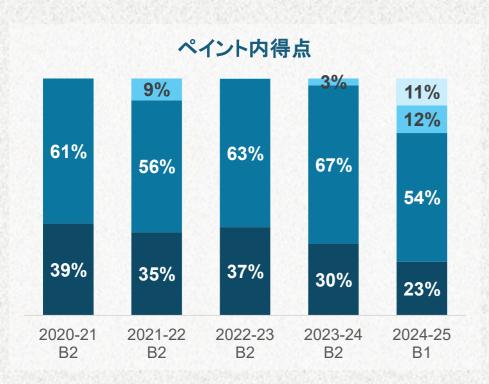
日本人の得点割合が年々増加し、今季5割に迫る数値にまで上昇。今季の日本人の3P成功数割合はB1最高値だった。外国籍は今季アシストとペイント内得点の割合が大きく伸びていた。

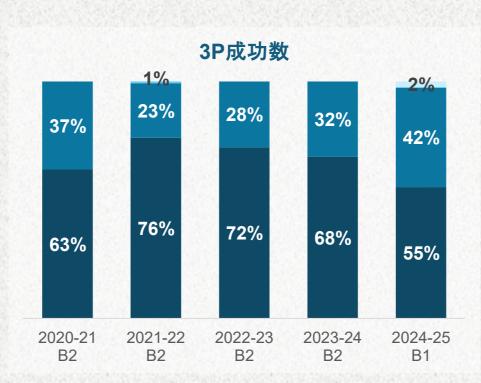










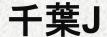


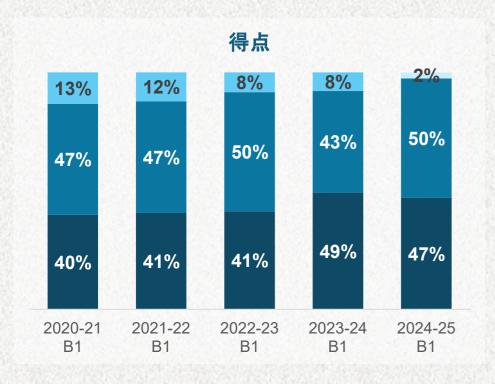
■日本人 ■外国籍 ■帰化 アジア特別枠

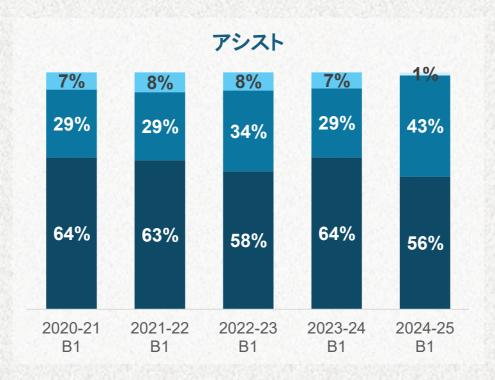
COMMENT

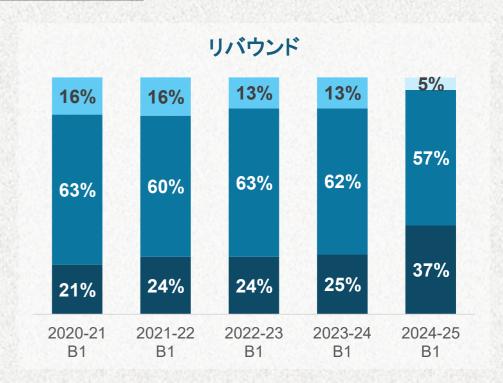
今季が初のB1参戦だったが、全項目において日本人の 占める割合が過去5シーズン最低値となった。選手の負 傷によりシーズン中にアジア特別枠から帰化枠に切り 替えたが、両者の割合はほぼ同じ値となっていた。

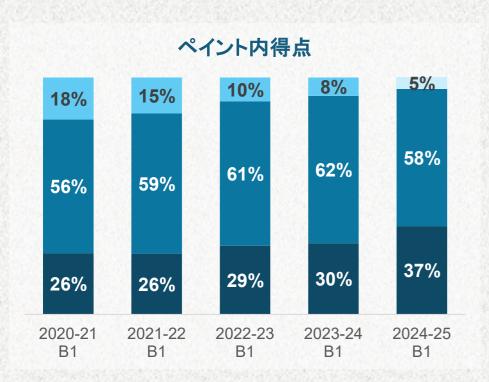


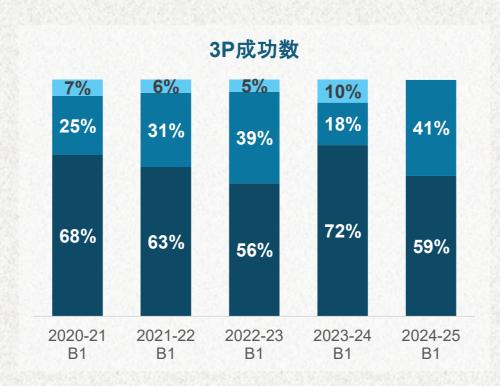










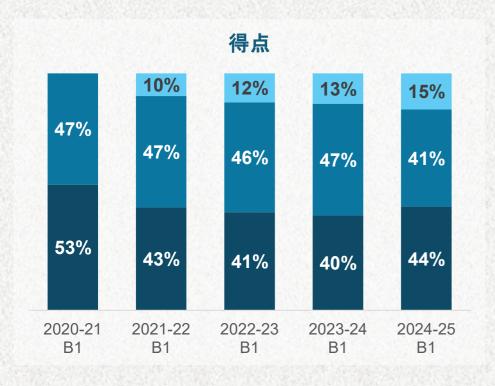


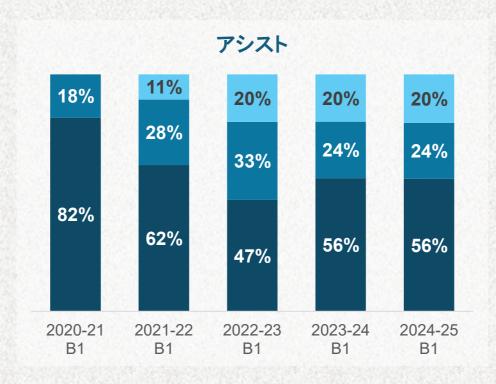
■日本人 ■ 外国籍 ■ 帰化 アジア特別枠

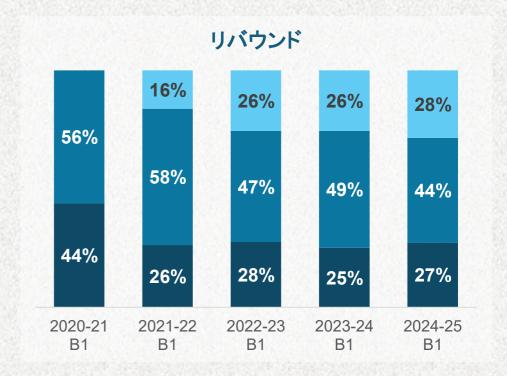
COMMENT

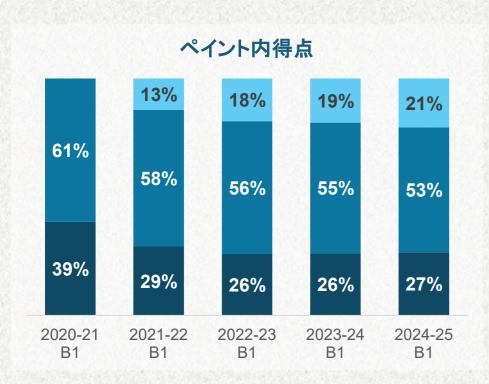
今季は日本人のリバウンドとペイント内得点の割合が増加し、外国籍のアシストと3P成功数の割合が増加した点が目立っている。今季のこれら4項目の数値はいずれも過去5シーズンの中で最高値で、クラブの歴史の中でもかなり特徴的なスタッツ分布となったシーズンだった。

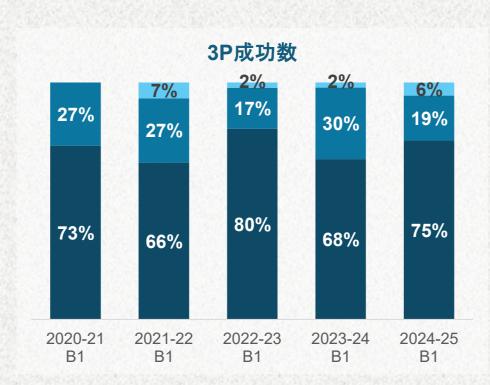












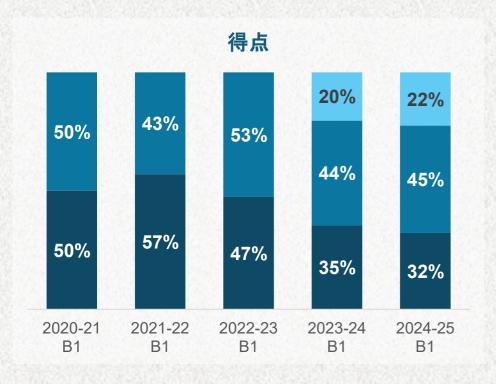
■日本人 ■外国籍 帰化 アジア特別枠

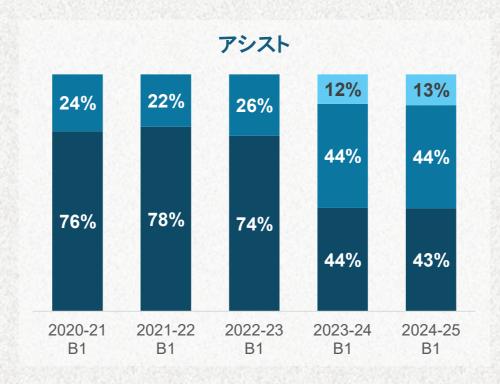
COMMENT

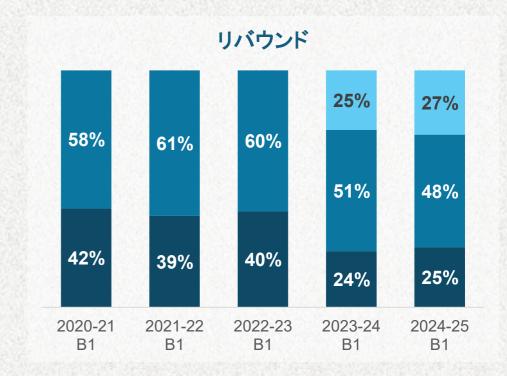
直近3シーズンの得点・リバウンド・ペイント内得点の分布は大きな変動がなく安定している。一方、アシストと3P成功数は日本人と外国籍の間で分布が大きく変動しているシーズンがあるが、外国籍をガードからウィングに変更した影響が考えられる。

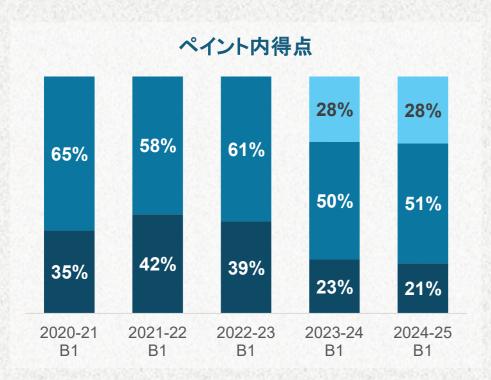


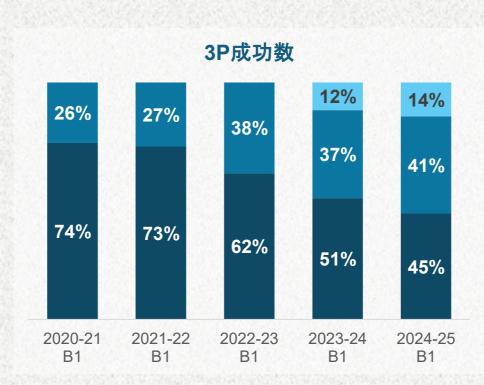
SR渋谷











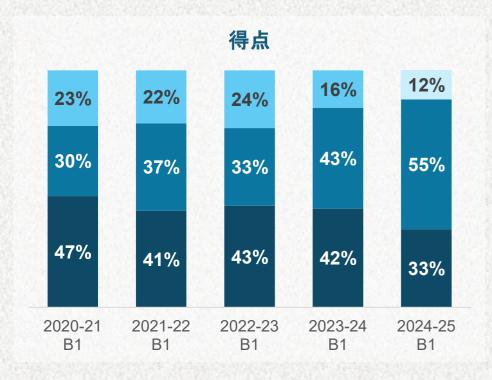
■日本人 ■外国籍 帰化 アジア特別枠

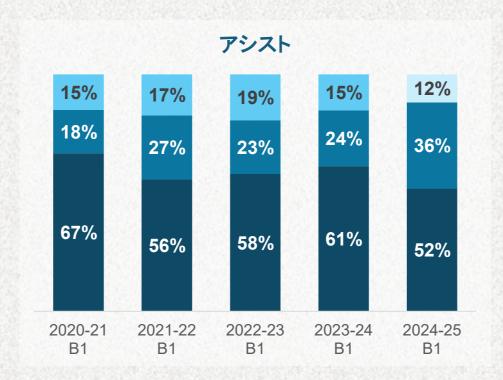
COMMENT

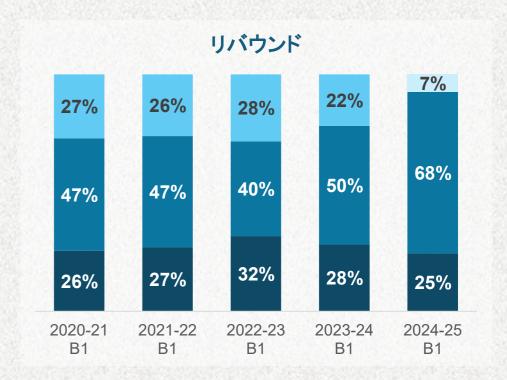
昨季に帰化枠と外国籍ガードを加えたことで、スタッツ の分布が大きく変動したが、今季は昨季に近いスタッツ 分布となっており、昨季からの継続性がうかがえる。3P 成功数のみ日本人と外国籍の間で若干の変動が見ら れた。

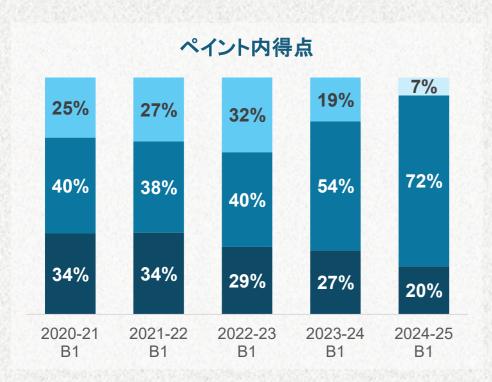


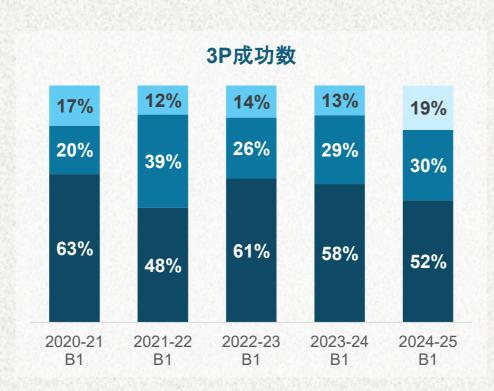












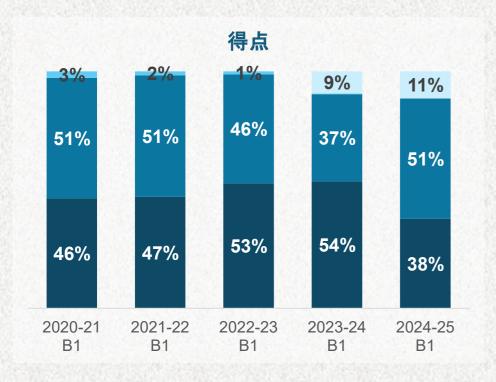
■日本人 ■外国籍 帰化 アジア特別枠

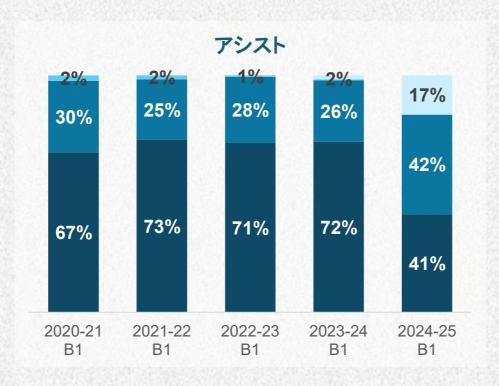
COMMENT

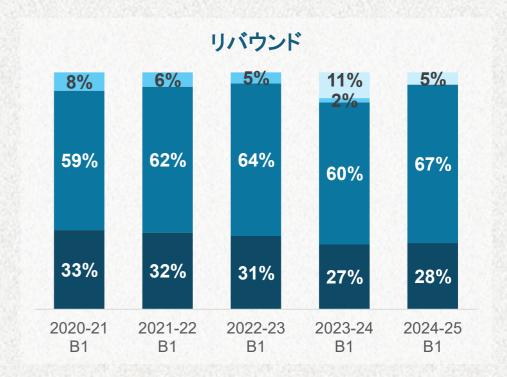
今季は昨季からスタッツの分布が大きく変動しているが、 3P成功数以外の4項目については、いずれも外国籍の 割合が過去5シーズンで最高値となり、日本人の割合が 最低値となっていた。3P成功数は外国籍の割合に大き な変化はなく、アジア特別枠が20%近くを占めた。

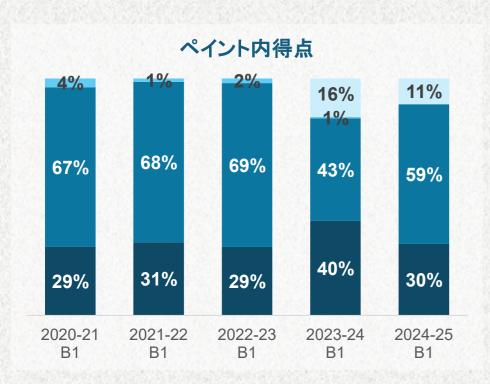


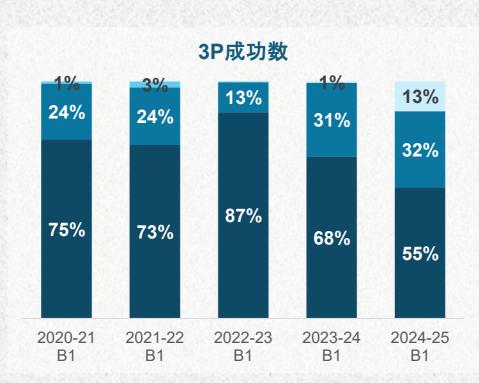
横浜BC









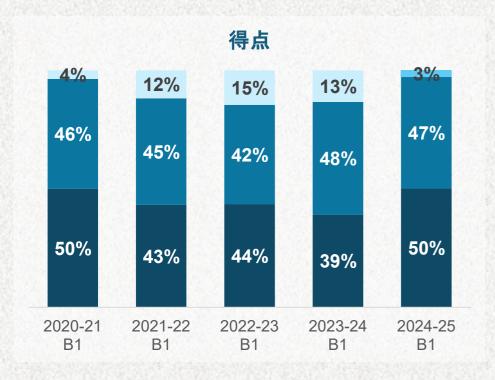


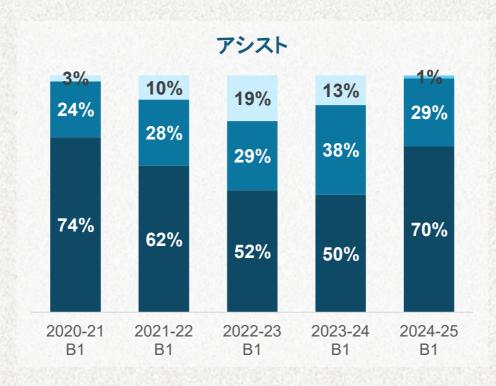
■日本人 ■外国籍 帰化 アジア特別枠

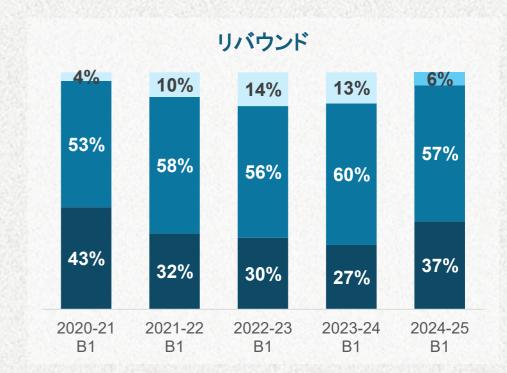
COMMENT

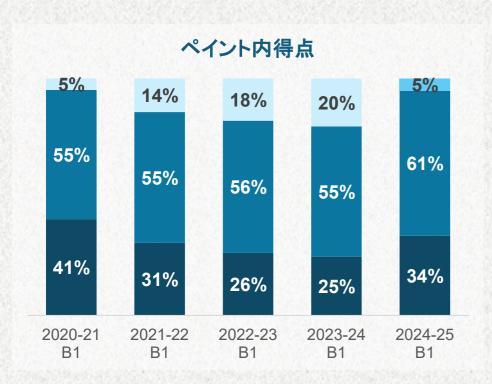
今季はリバウンド以外の項目で日本人の割合が減少し、 その分を外国籍とアジア特別枠で補填する形となった。 昨季、日本人のペイント内得点の割合が顕著に増加し ていたが、今季は2022-23シーズン以前に近い分布に 戻った。

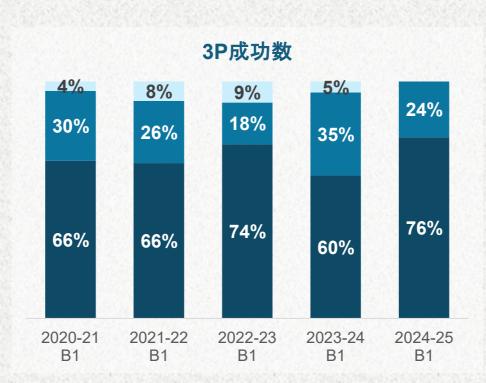










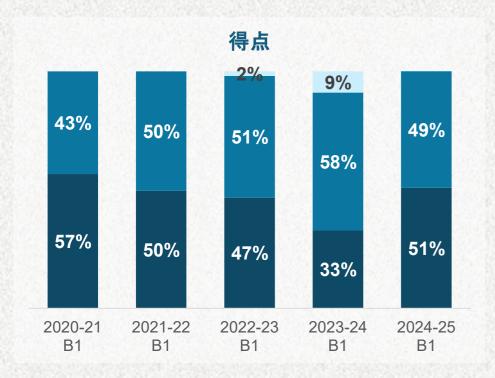


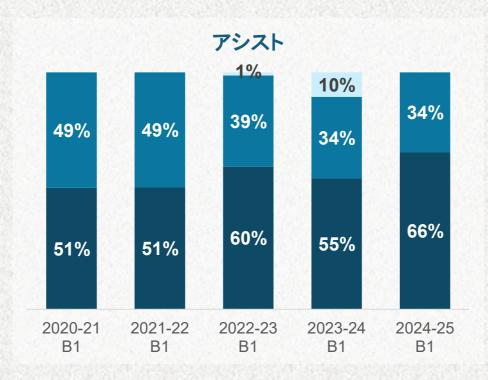
■日本人 ■外国籍 帰化 アジア特別枠

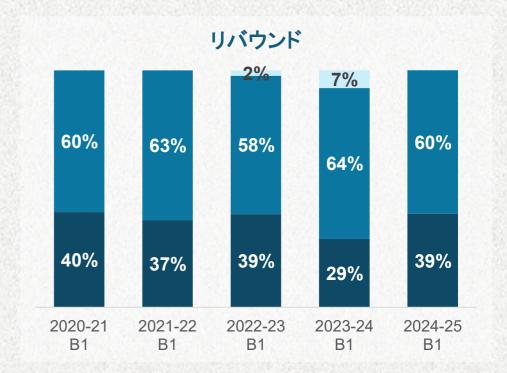
COMMENT

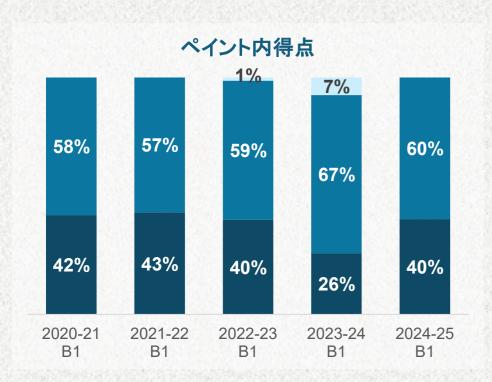
今季は全項目において、日本人の占める割合が昨季から大幅に増加している。昨季まではアジア特別枠が各項目で一定の割合を占めていたが、今季はこの部分の多くを日本人の増加で補っており、特にアシストと3P成功数の割合の伸びが目立っている。

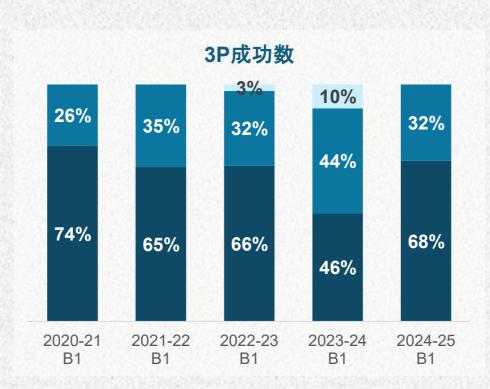
三河 三河











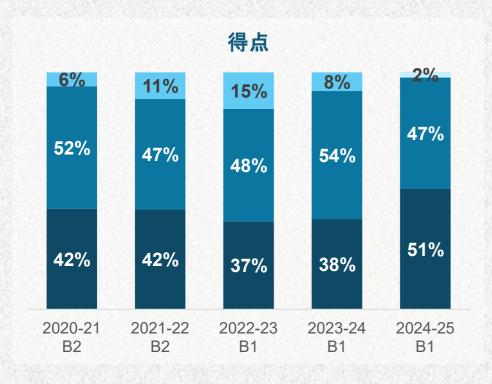
■日本人 ■外国籍 ■帰化 アジア特別枠

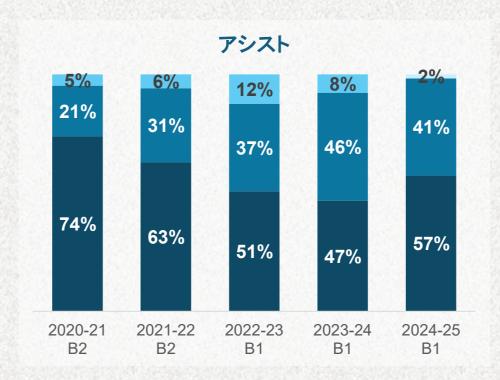
COMMENT

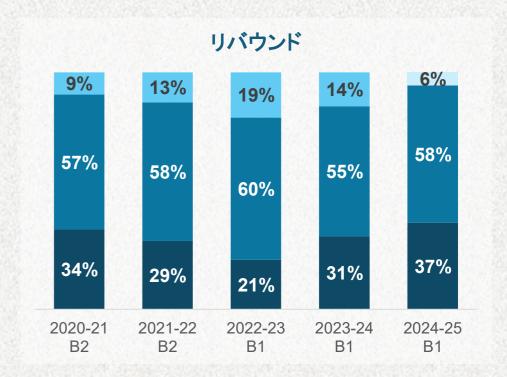
今季は全項目において、日本人の占める割合が昨季から大幅に増加している。昨季のアジア特別枠が占めていた割合は今季ゼロとなり、且つ外国籍の割合はいずれも減少したことで、日本人の割合の伸びが顕著なシーズンとなった。

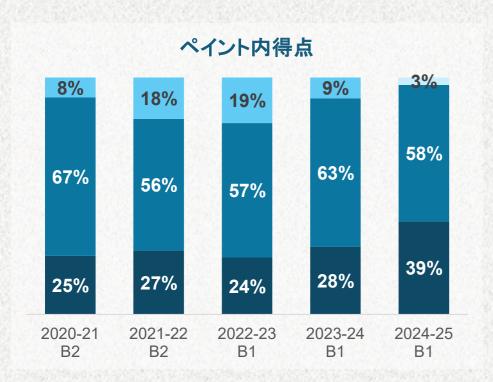


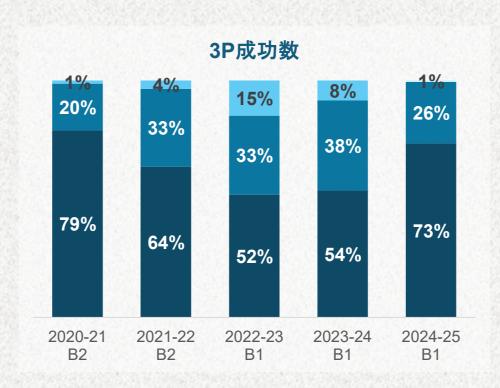
FE名古屋











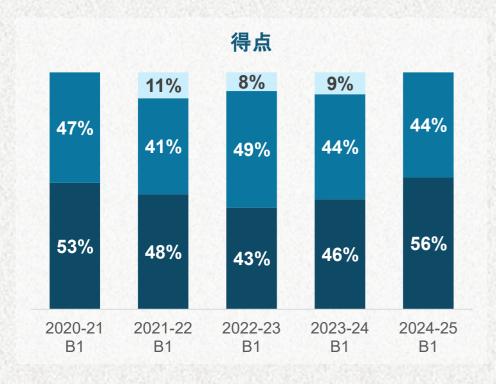
■日本人 ■外国籍 ■帰化 アジア特別枠

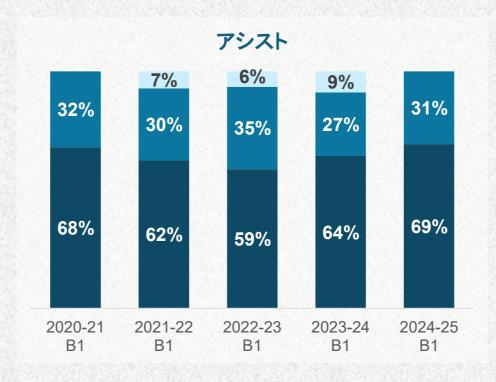
COMMENT

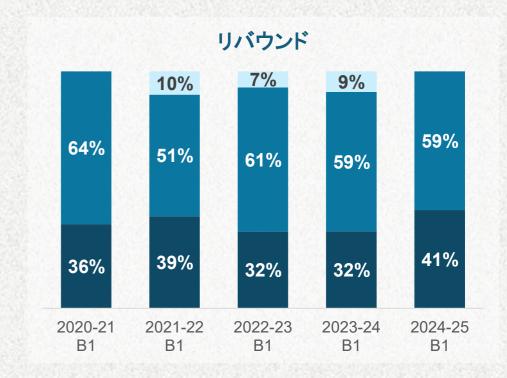
今季は全項目において、日本人の占める割合が昨季から大幅に増加している。外国籍の割合はリバウンド以外の項目で減少しており、その分日本人の割合が増加した形となった。日本人の得点割合が50%以上となったのは過去5シーズンで今季が初めてだった。

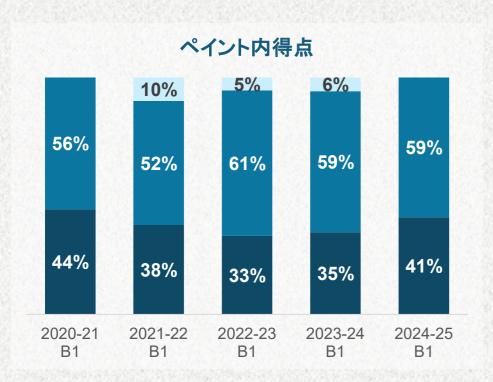


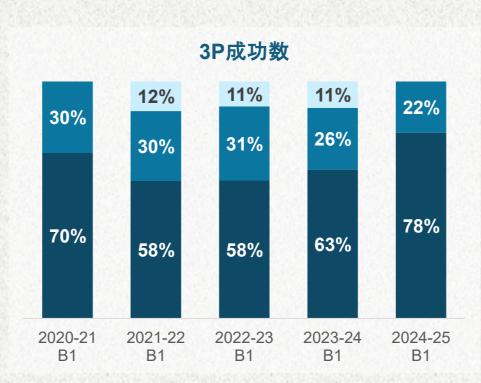
名古屋D











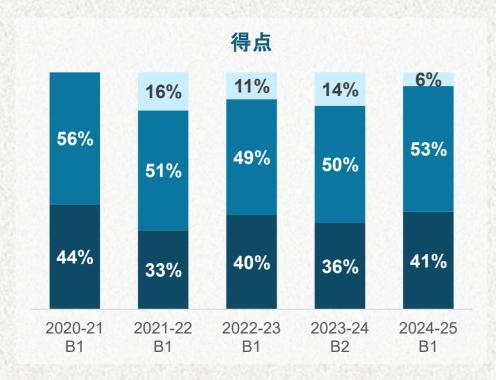
■日本人 ■外国籍 ■帰化 アジア特別枠

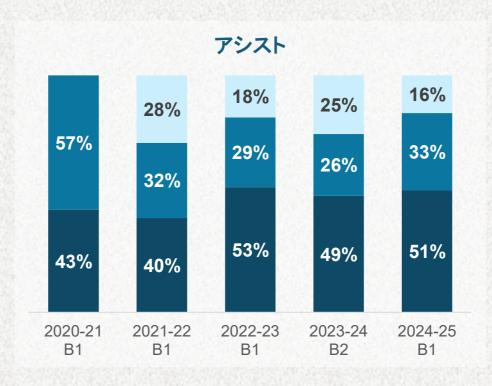
COMMENT

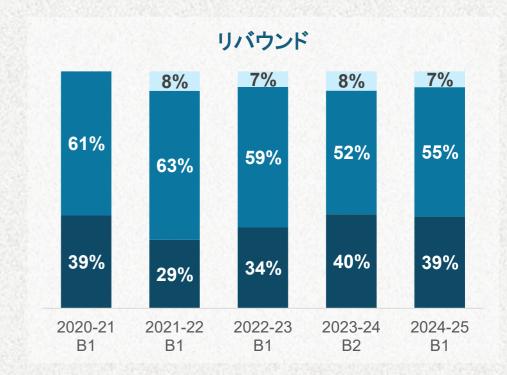
アジア特別枠が加入した2021-22シーズン以降、比較的 分布の変動は小さかったが、今季アジア特別枠が不在 となり、その大部分を日本人の割合増加で補う形となっ た。今季の日本人の得点割合はB1トップの約56%で、日 本人の躍進が目立っていた。

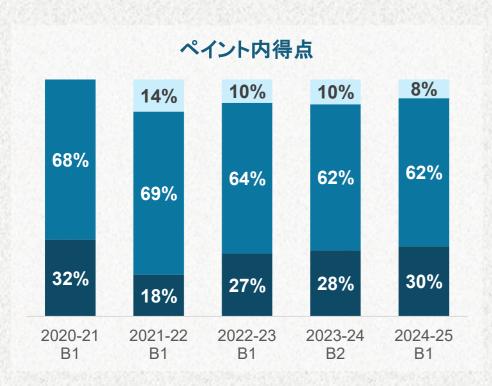


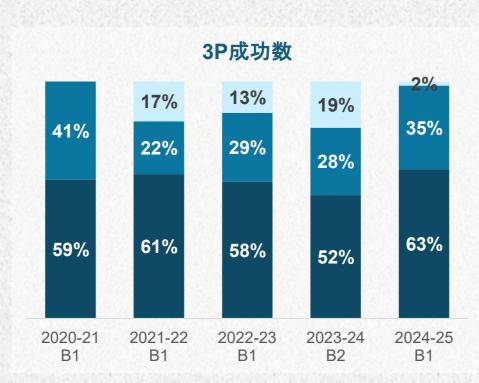












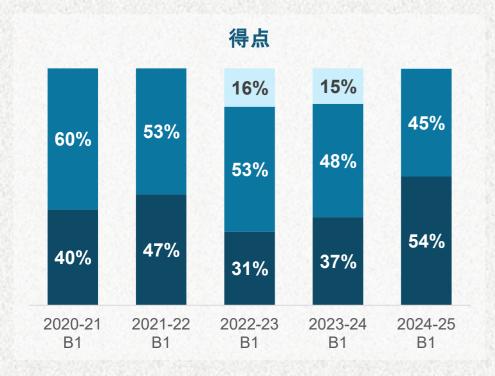
■日本人 ■外国籍 帰化 アジア特別枠

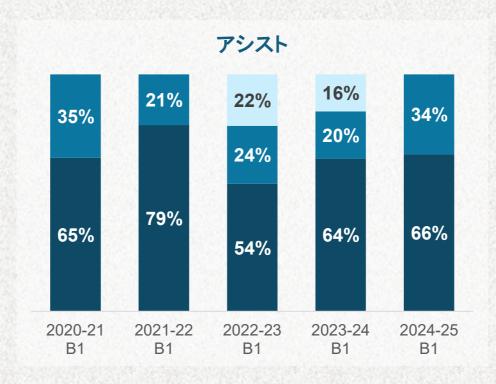
COMMENT

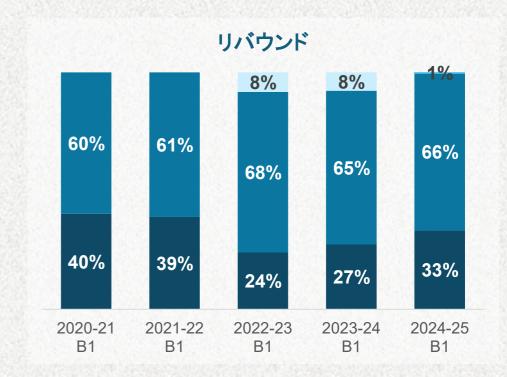
B1に昇格した今季は、得点・アシスト・3P成功数でアジア特別枠の割合が昨季から減少し、その分日本人・外国籍共に割合が増加した。日本人と外国籍の分布に絞って見ると、いずれの項目においても昨季から大きな変化は見られなかった。

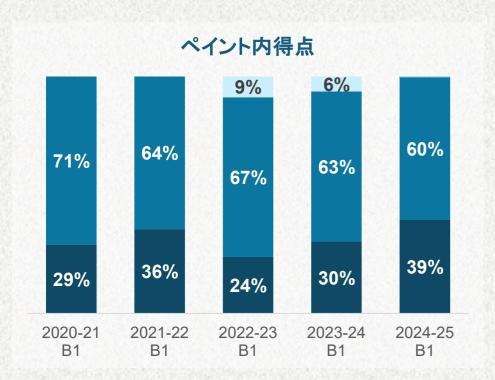


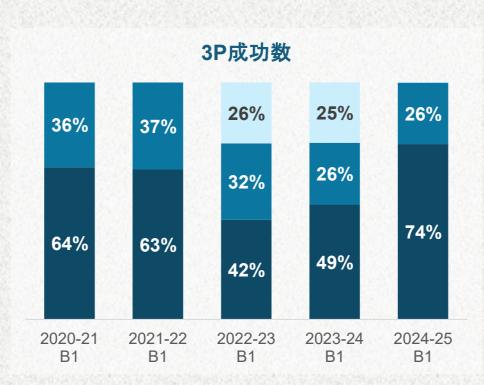
京都











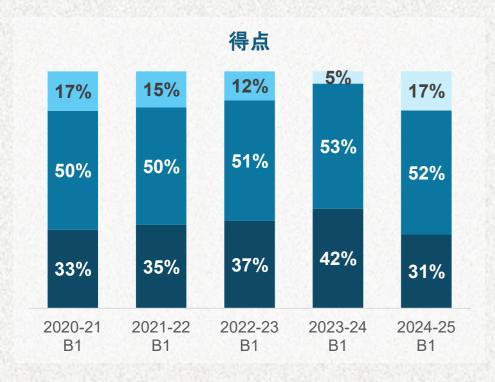
■日本人 ■ 外国籍 帰化 アジア特別枠

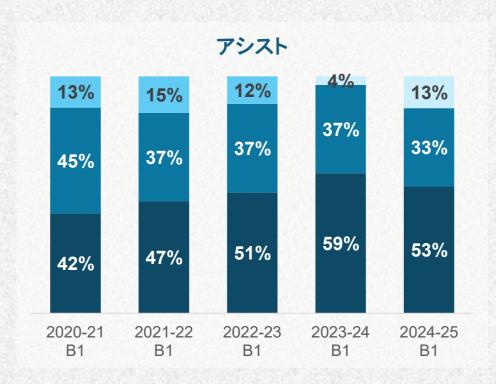
COMMENT

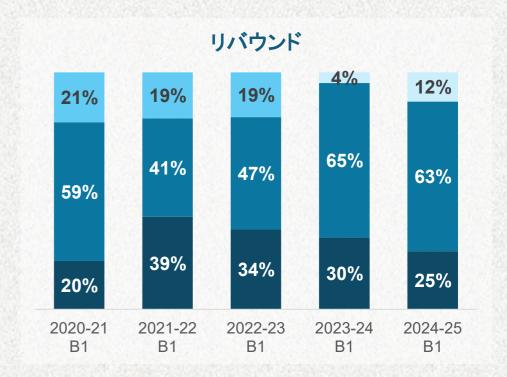
過去3シーズンに渡って、全項目で日本人の割合が増加し続けている。それに伴い、外国籍の割合はほとんどの項目で減少してきていたが、今季は外国籍のアシストの割合が顕著に増加した。日本人の3P成功数の割合の増加も非常に目立っている。

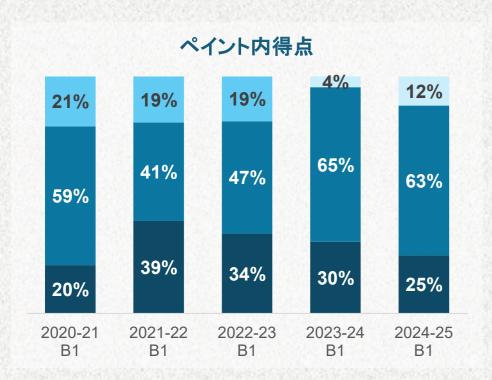


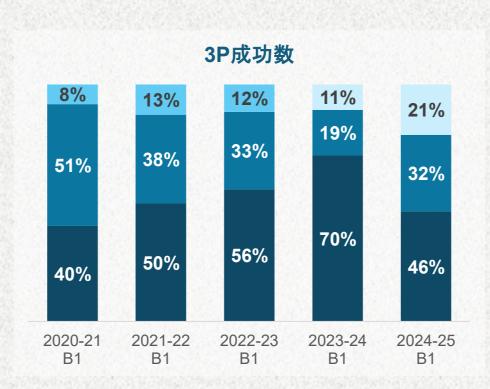












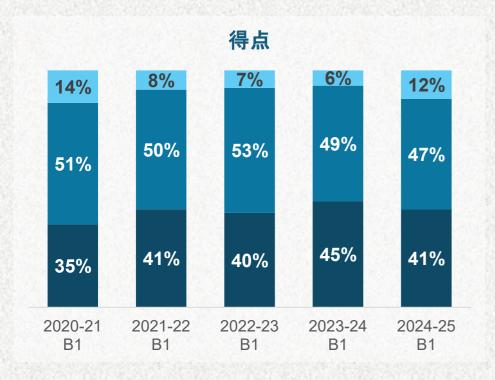
■日本人 ■外国籍 帰化 アジア特別枠

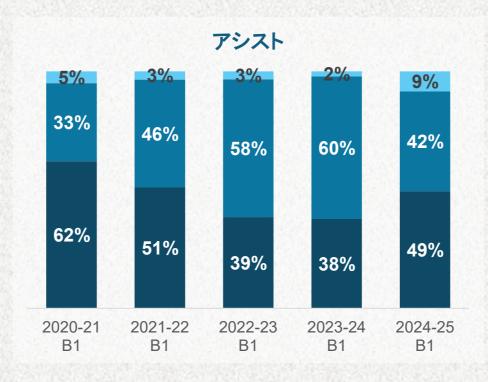
COMMENT

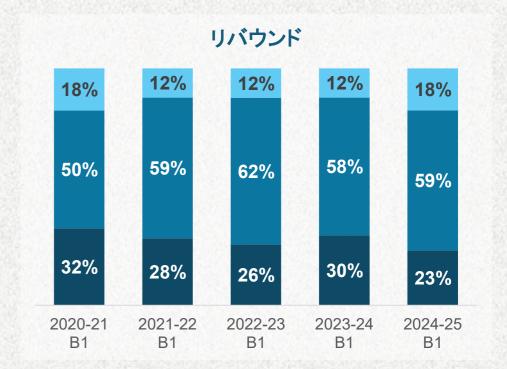
今季は昨季から全項目でアジア特別枠の占める割合が 増加し、その分日本人の割合が減少した。外国籍の割 合は多くの項目で昨季に近い値を維持したが、3P成功 数は昨季から大幅に増加し、その分日本人の3P成功数 割合は大幅に減少している。

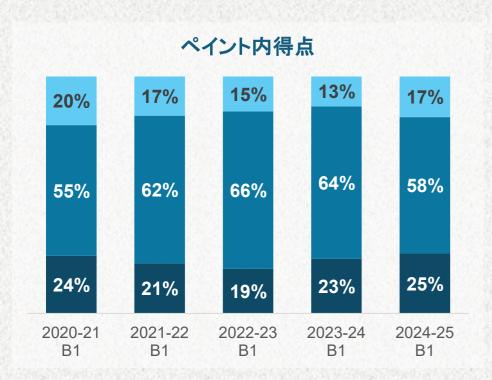


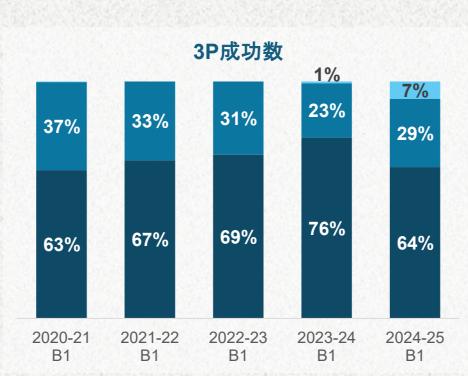
島根











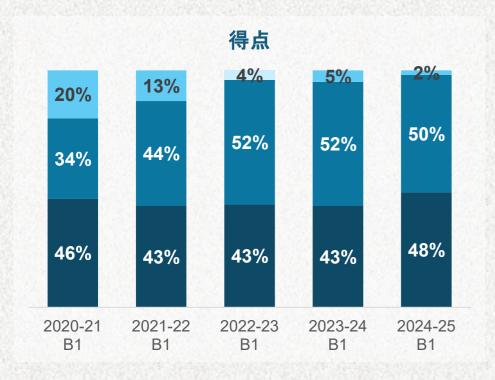
■日本人 ■外国籍 帰化 アジア特別枠

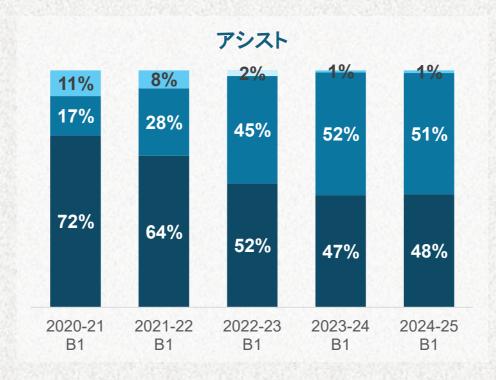
COMMENT

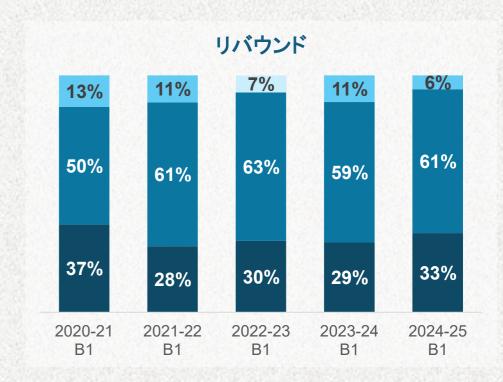
昨季は日本人の得点と3P成功数の割合、外国籍のアシストの割合が過去5シーズンで最高値だったが、今季はこれらの数値がいずれも昨季から減少していた。今季は昨季よりも2021-22シーズンの分布に近い項目が多かった。

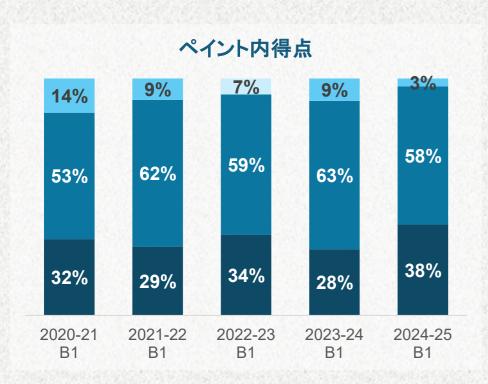


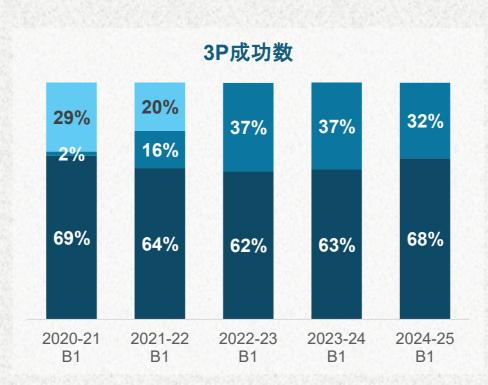












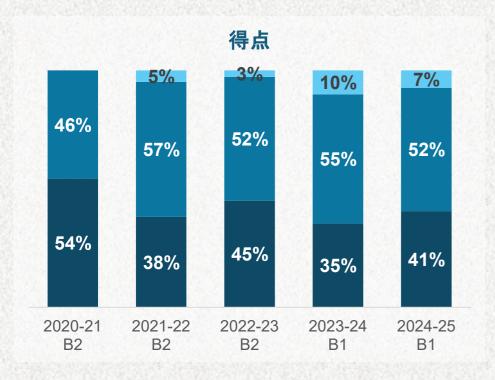
■日本人 ■ 外国籍 ■ 帰化 アジア特別枠

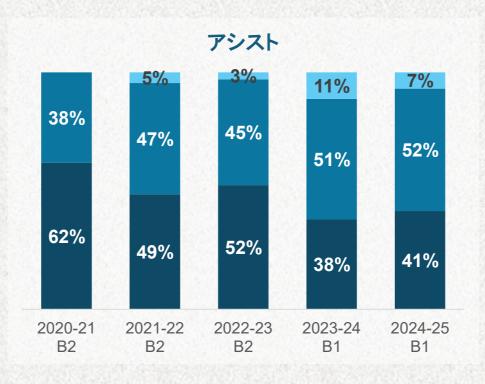
COMMENT

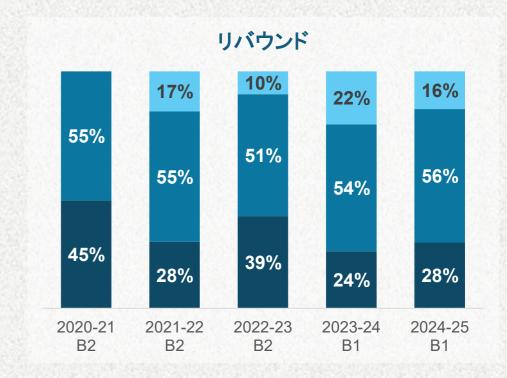
今季、日本人のペイント内得点の割合が比較的大きく増加しているものの、それ以外の項目については、過去3シーズンに渡って10%を超えるような大きな変動は見られない。直近3シーズンの継続性がうかがえる推移となっている。

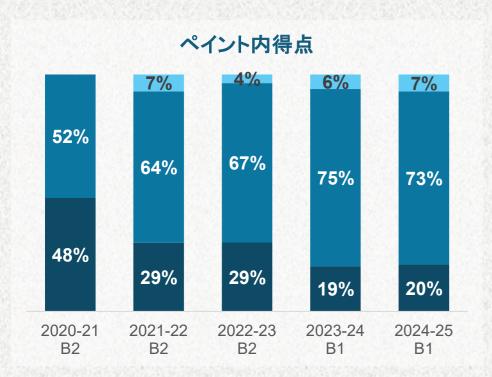


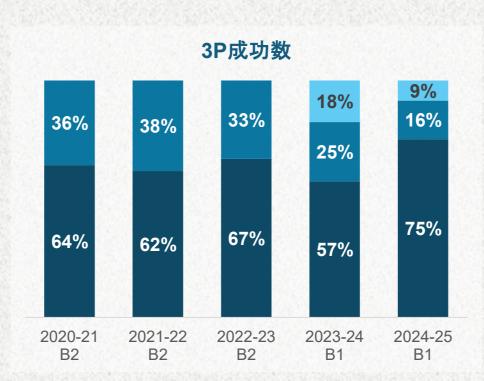












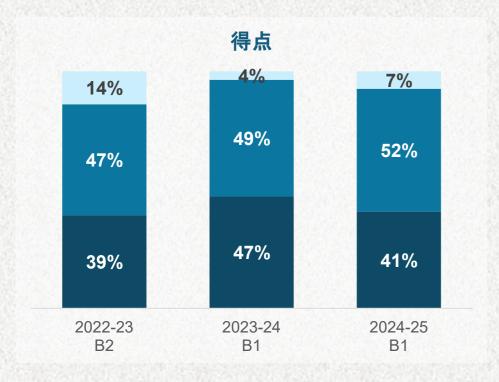
■日本人 ■外国籍 帰化 アジア特別枠

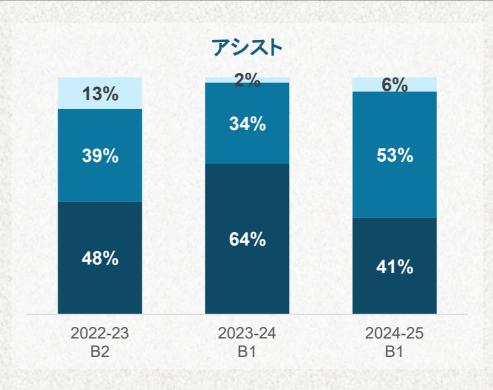
COMMENT

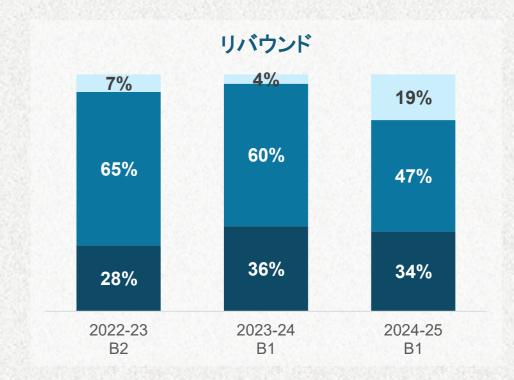
今季、外国籍のペイント内得点の割合約73%はB1最高値で、3P成功数の割合約16%はB1最低値。外国籍のスコアリングがかなりインサイドに特化していたことがうかがえる。B1に昇格した昨季は日本人の割合の減少が目立っていたが、今季は多くの項目で日本人の割合が増加している。

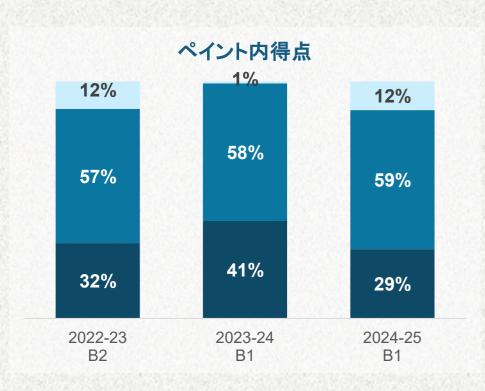


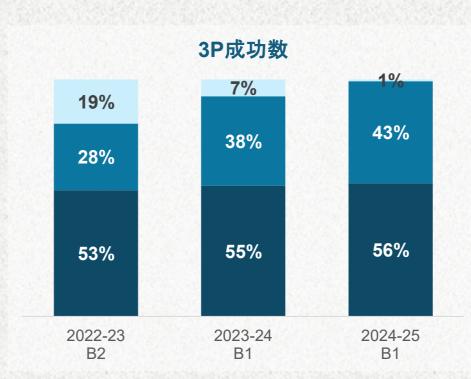












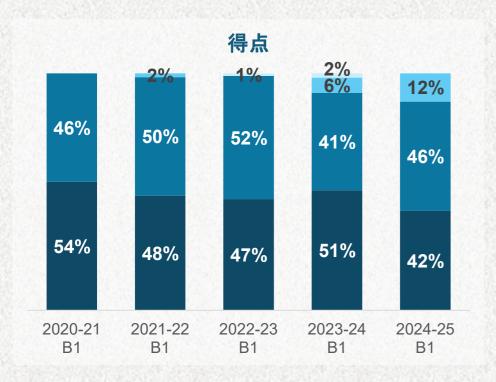


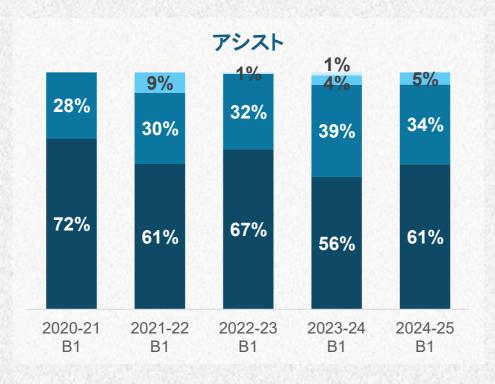
COMMENT

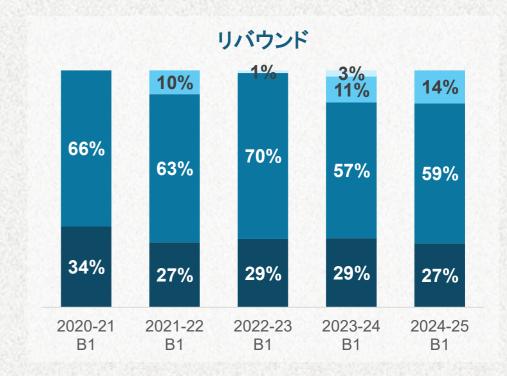
B1に昇格した昨季、全項目で日本人の割合が増加していたが、今季は3P成功数以外の項目全てで減少した。特にアシストの割合の減少が顕著だが、外国籍ガードが加入した影響がうかがえる。

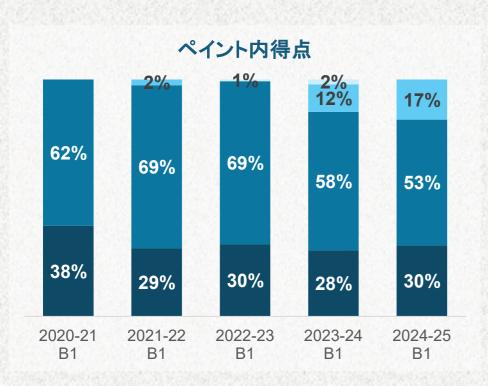


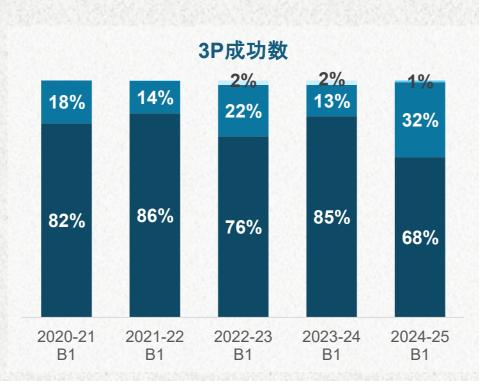
琉球











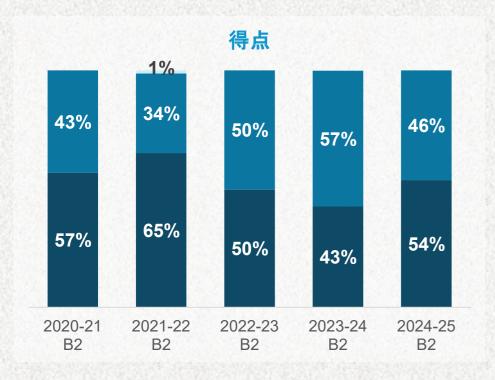
■日本人 ■外国籍 帰化 アジア特別枠

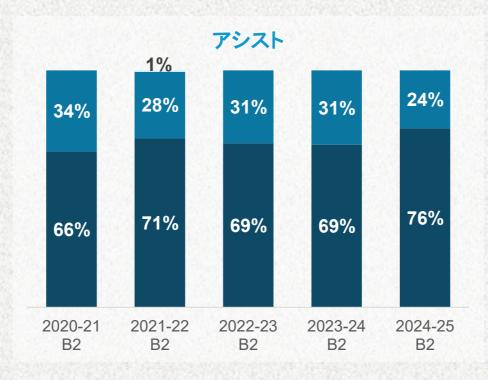
COMMENT

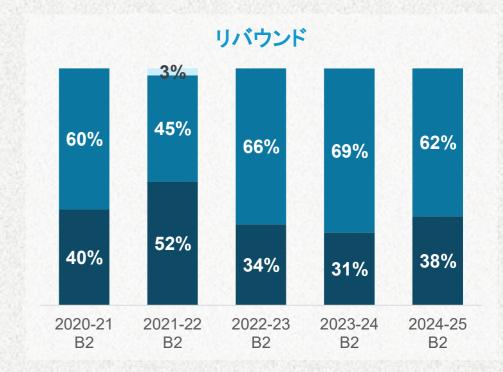
今季は日本人の得点・3P成功数の割合が過去5シーズンで最低値だったが、アシストの割合は昨季から増加。リバウンド・ペイント内得点については2021-22シーズン以降、外国籍・帰化・アジア特別枠の合計での割合がほぼ一定で推移しており、一貫性がうかがえる。

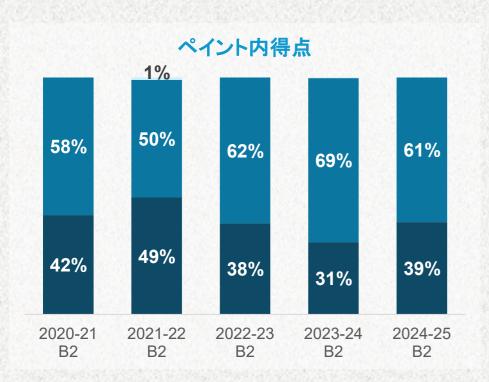


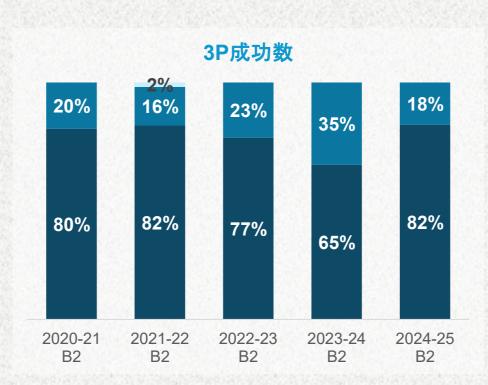
青森











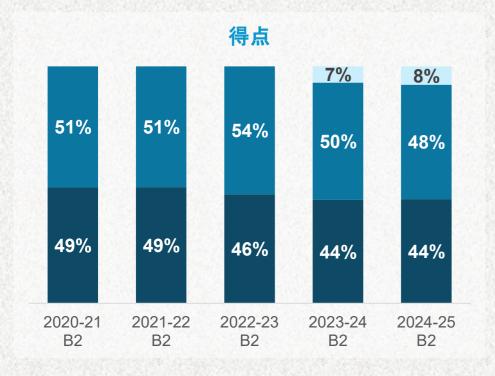
■日本人 ■ 外国籍 ■ 帰化 アジア特別枠

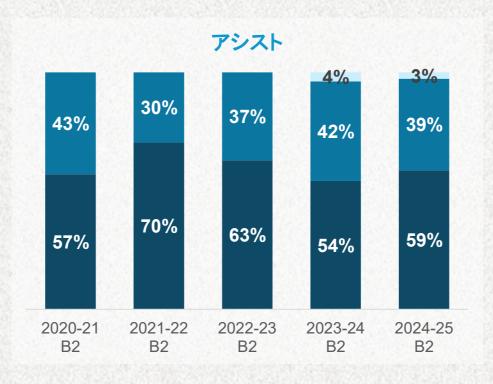
COMMENT

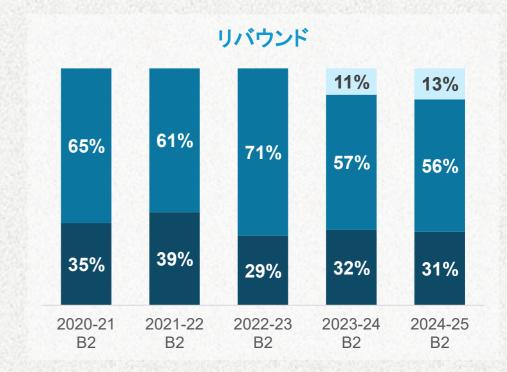
今季は全項目で日本人の占める割合が増加している。 2021-22シーズン以降、各項目で日本人の割合が減少 し、外国籍の割合が増加する傾向が続いていたが、今 季はこれに歯止めがかかったシーズンとなった。

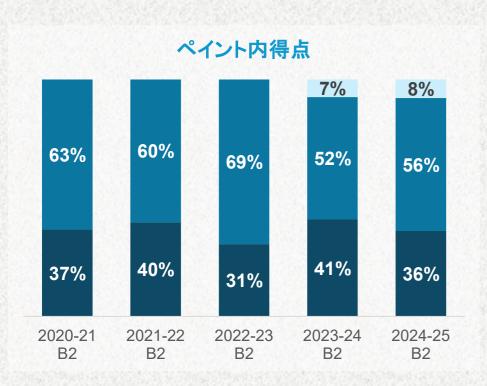


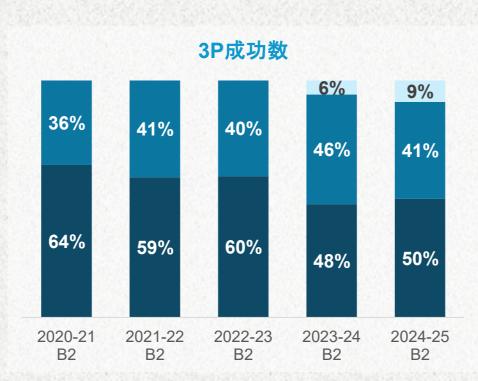
山形











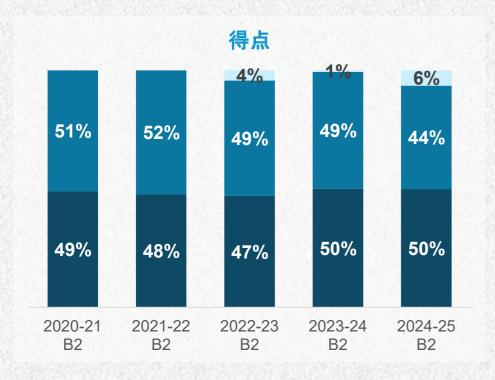
■日本人 ■ 外国籍 ■ 帰化 アジア特別枠

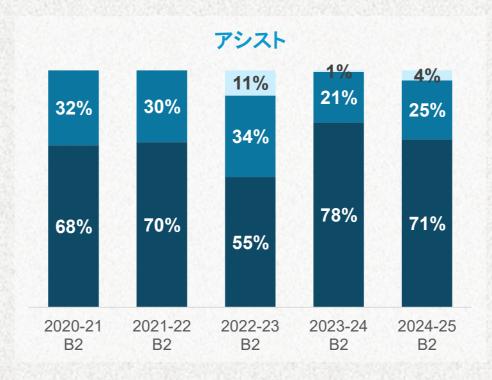
COMMENT

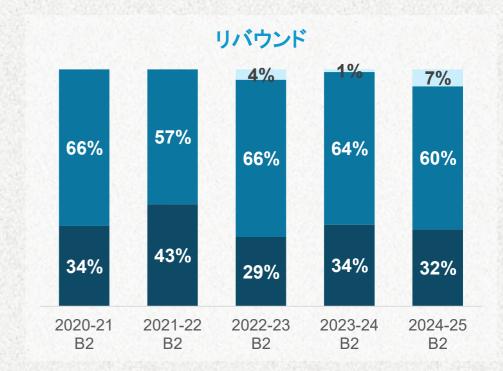
昨季にアジア特別枠を加えて分布に変動があったが、 今季は昨季から大きな変動は見られない。昨季は日本 人のペイント内得点の割合が増加し、3P成功数の割合 が減少していたが、今季は逆の動きを見せた。

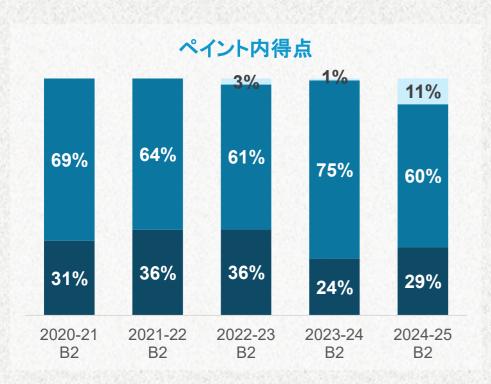


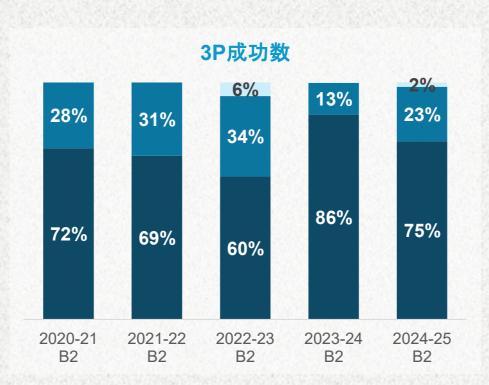
福島









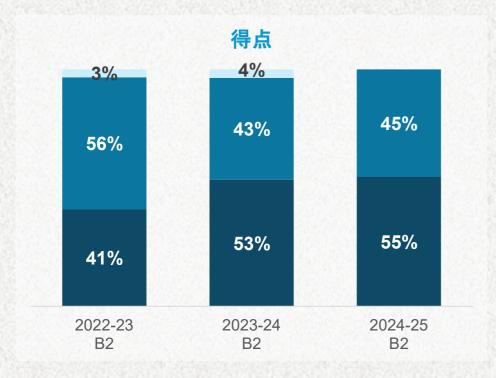


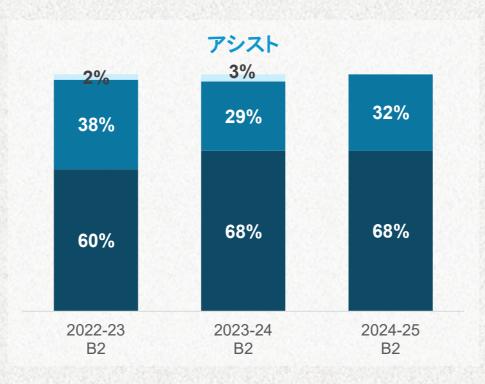
■日本人 ■外国籍 ■帰化 アジア特別枠

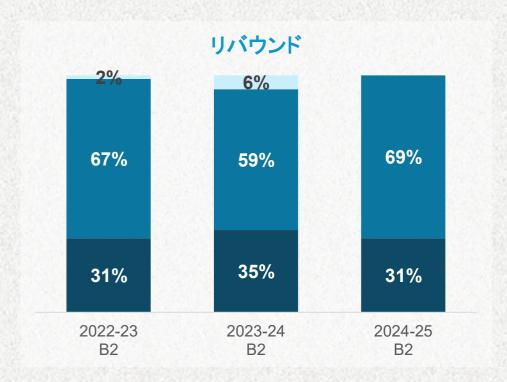
COMMENT

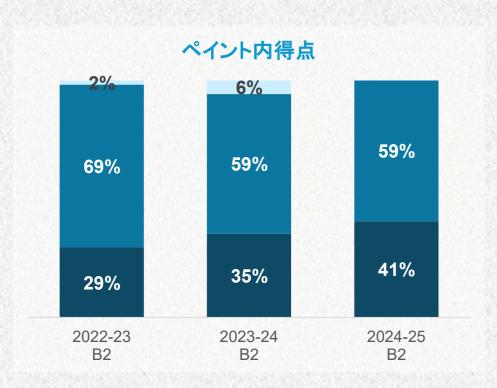
過去5シーズンで分布が変動している項目が多いが、日本人の得点割合は安定して推移している。ペイント内得点と3P成功数の割合は日本人を含めて大きく変動しており、得点エリアは変動しつつも、得点の割合としては一貫していると言える。

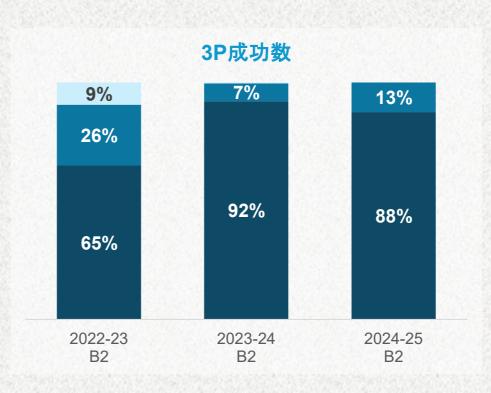
₹ A千葉











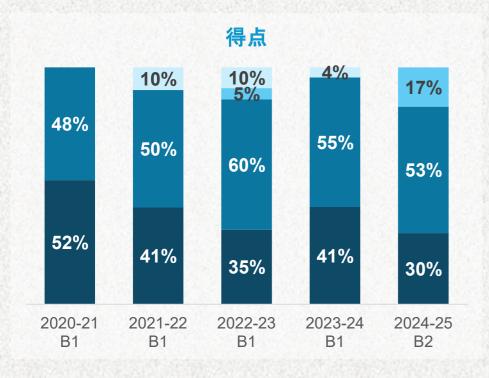


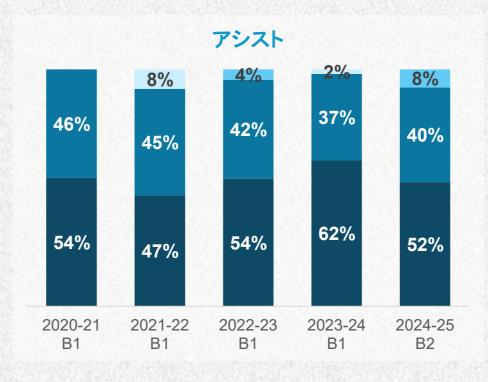
COMMENT

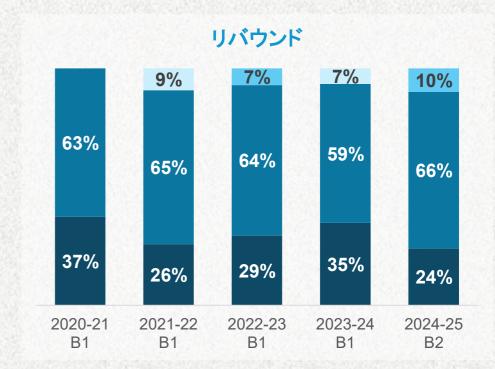
今季はアジア特別枠が不在となり、日本人・外国籍の割合がその分増加したものの、昨季から分布の大きな変動はなかった。昨季に高い勝率を残し、今季も概ね昨季からの継続路線だったことがうかがえる。

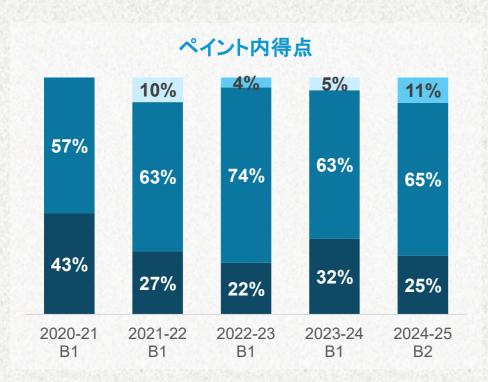


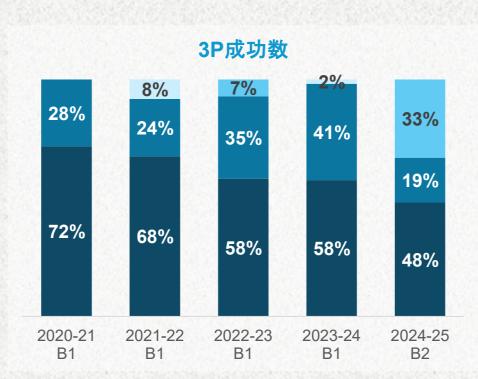












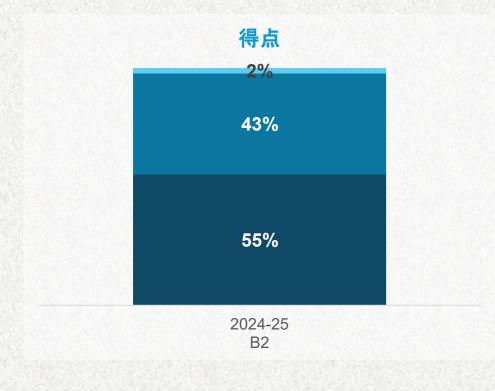
■日本人 ■ 外国籍 ■ 帰化 アジア特別枠

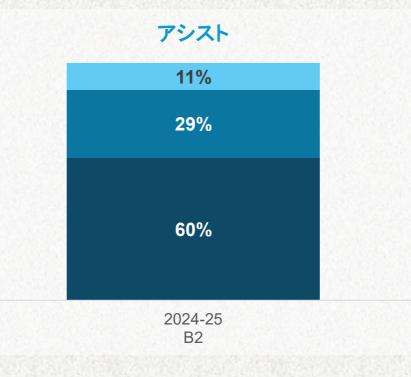
COMMENT

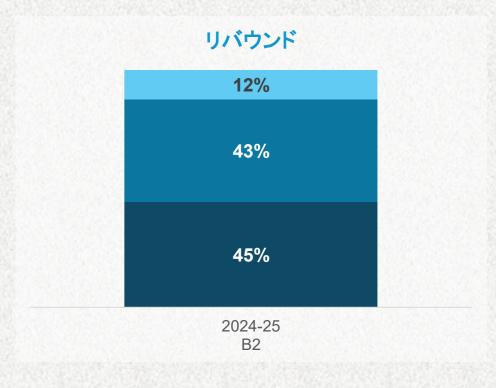
今季日本人の占める割合が50%を超えていたのはアシストのみで、他クラブと比べて各スタッツにおいて、外国籍と帰化枠の占める割合が大きい傾向にあった。また、今季の帰化枠の3P成功数の割合約33%は、B1/B2を通じて最高値だった。

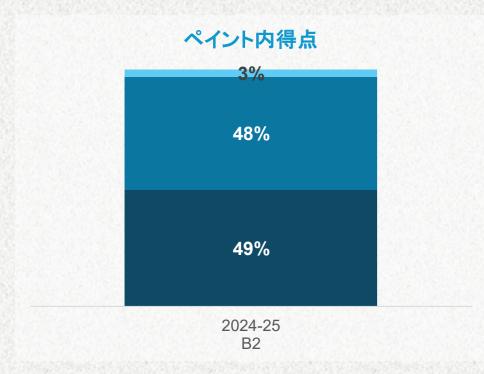


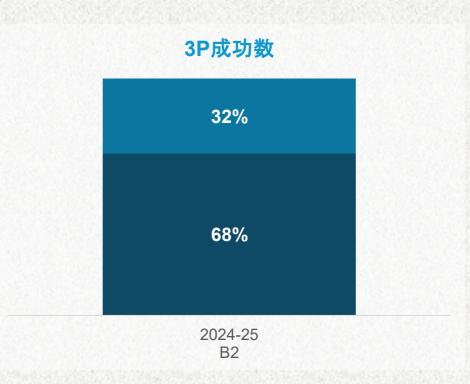
福井











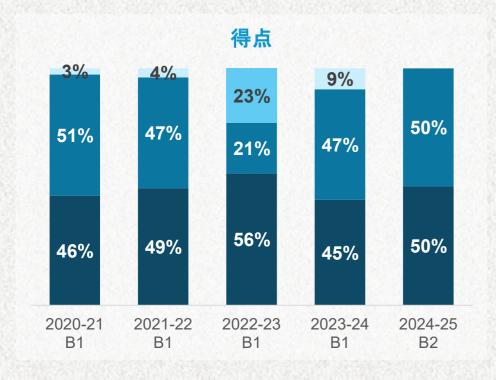


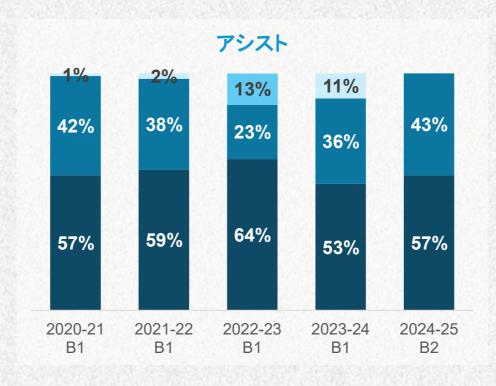
COMMENT

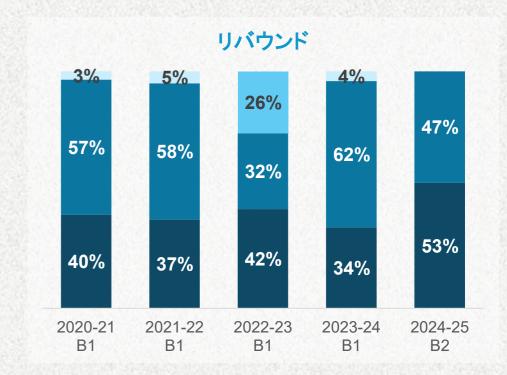
過去4シーズンでB1/B2所属は今季のみだったため、推移のデータを見ることができないが、今季の日本人の得点・ペイント内得点・3P成功数の割合はいずれもB2最高値で、日本人の得点面での貢献の高さが目立っていた。

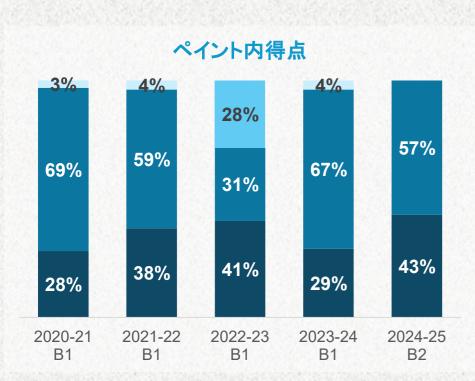


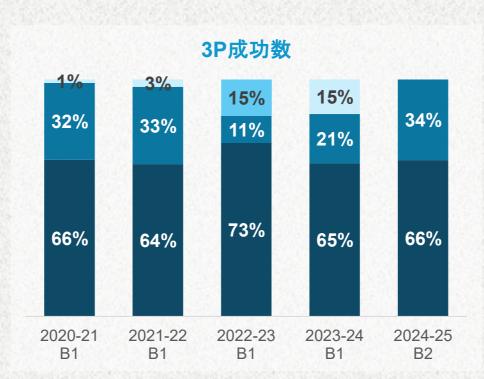
信州











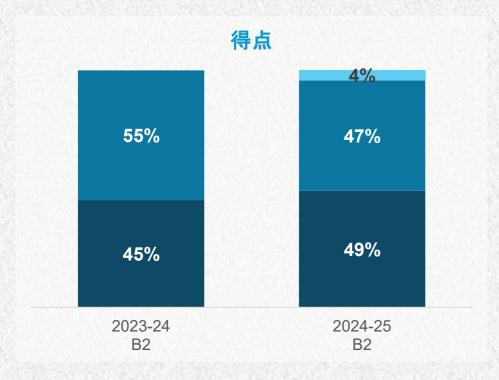
■日本人 ■外国籍 帰化 アジア特別枠

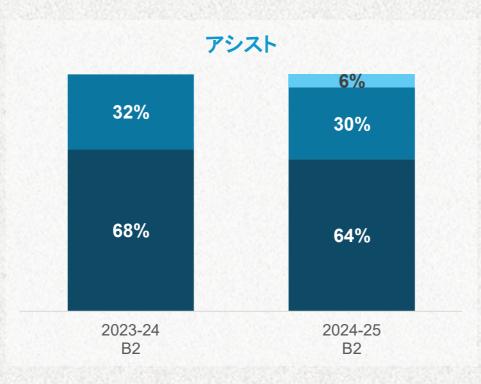
COMMENT

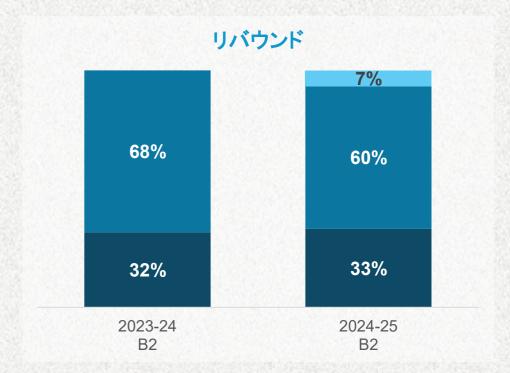
今季、リバウンドとペイント内得点で日本人の割合が大幅に増えている点が目立っている。アシスト・3P成功数については、昨季アジア特別枠が占めていた割合の多くの部分を、今季は外国籍の割合増加で補っていた。

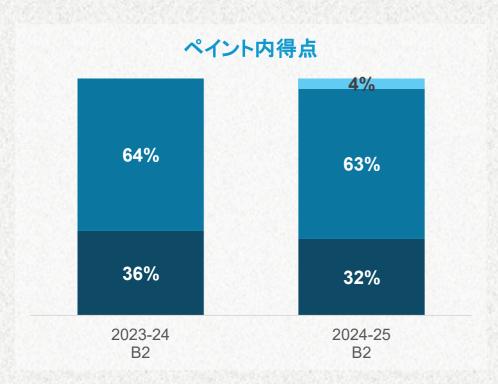


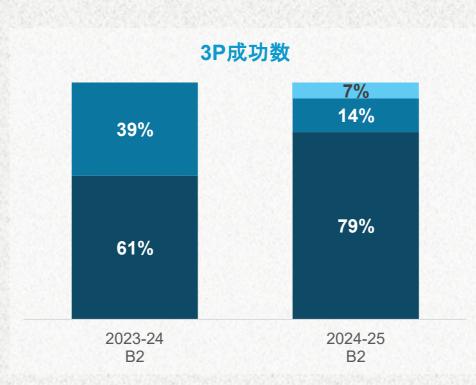












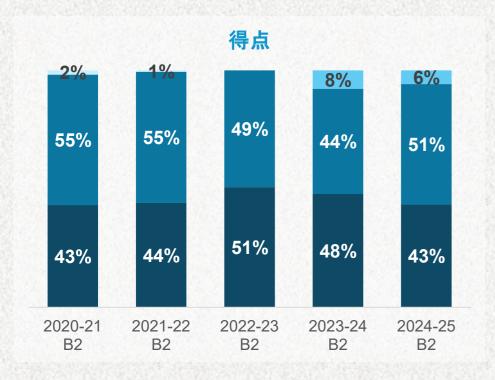


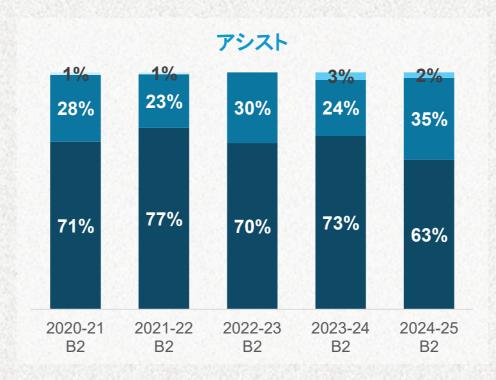
COMMENT

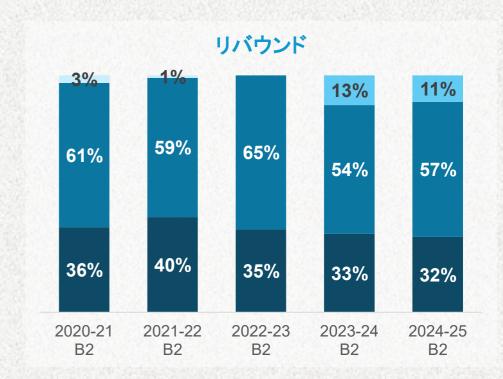
今季日本人の3P成功数の割合が大幅に増加した点が 目立っている。その他の項目では変動が少なく、概ね昨 季からの継続路線であったことがうかがえる。

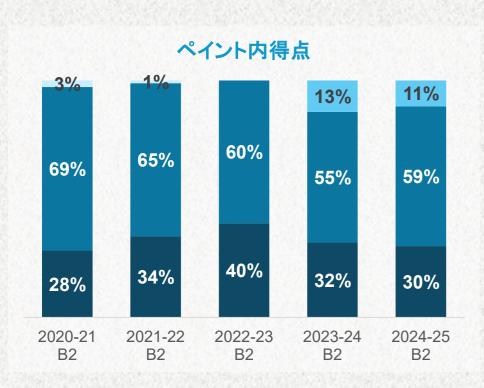


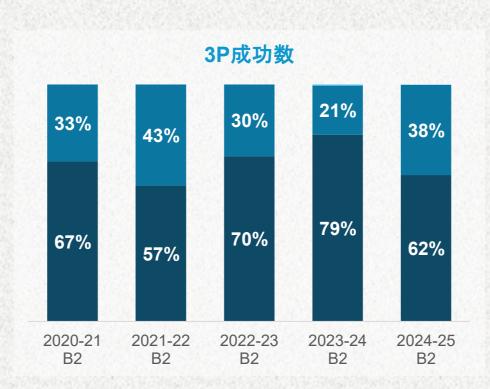












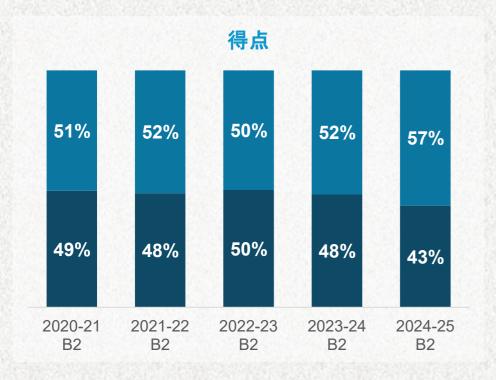
■日本人 ■ 外国籍 ■ 帰化 アジア特別枠

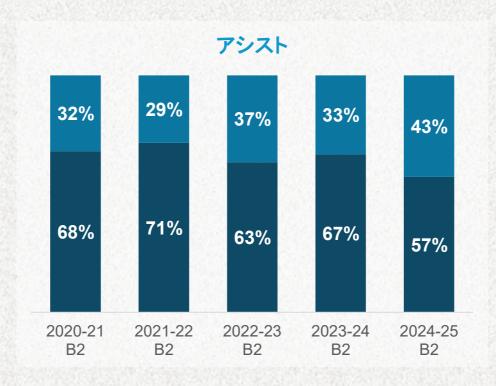
COMMENT

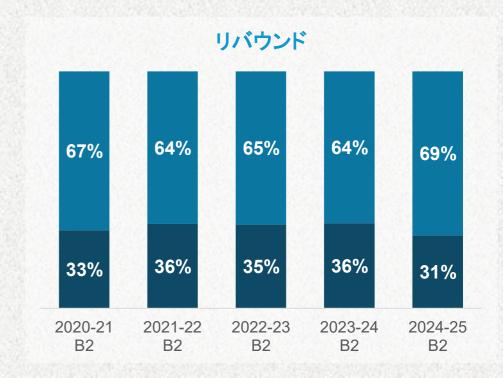
今季、全項目で日本人の占める割合が減少した。帰化枠の割合に大きな変化はなく、日本人の減少分は概ね外国籍の増加で補われている。特にアシストと3P成功数の変動が大きく、外国籍の役割に昨季から変化が見られたシーズンだった。

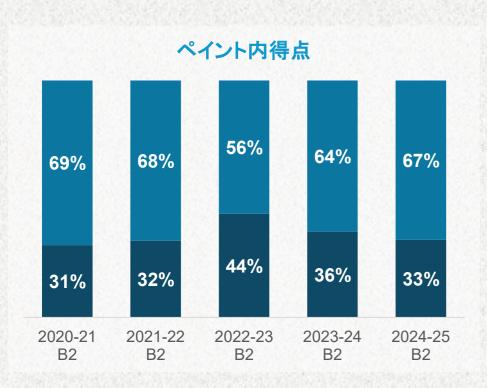


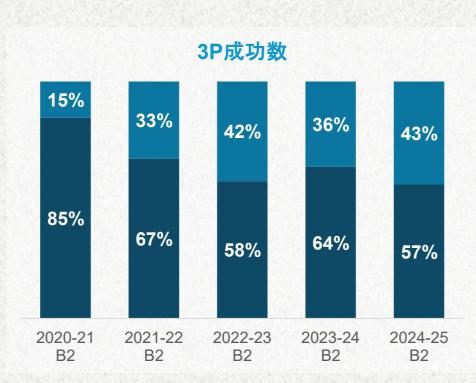












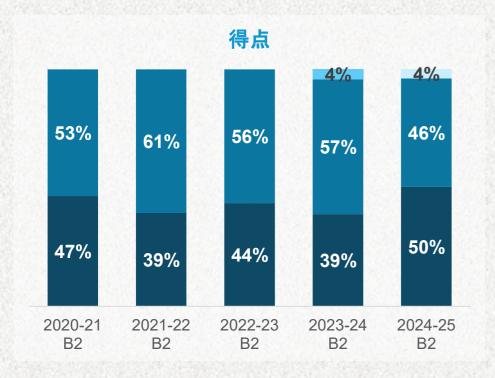
■日本人 ■外国籍 ■帰化 アジア特別枠

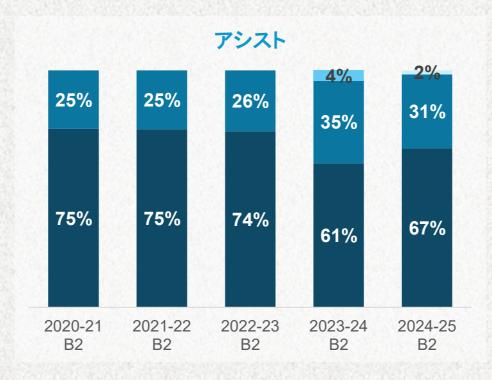
COMMENT

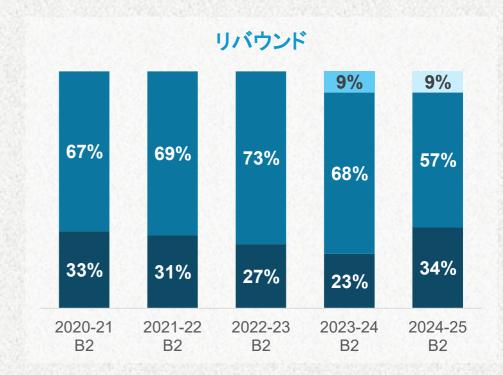
今季、全項目で日本人の占める割合が減少した。特に アシストの割合での変動が大きく、今季はより外国籍に プレーメイカーとしての役割を求めていたのかもしれな い。

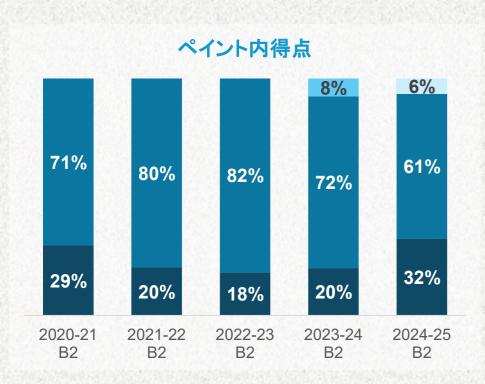


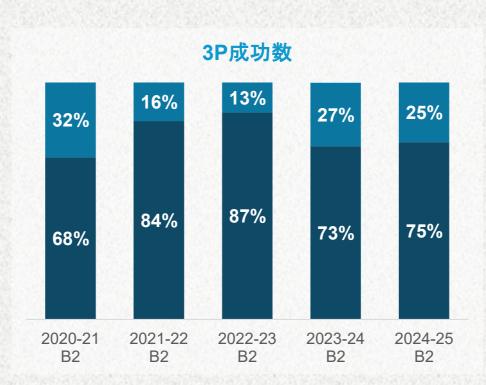
愛媛











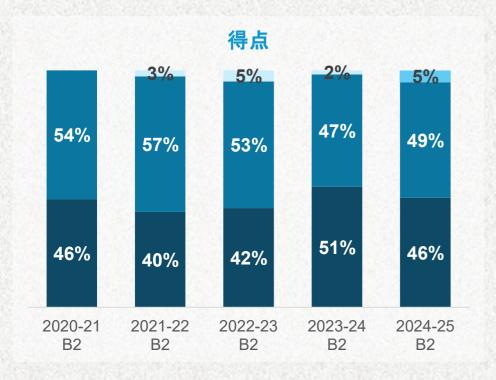
■日本人 ■外国籍 ■帰化 アジア特別枠

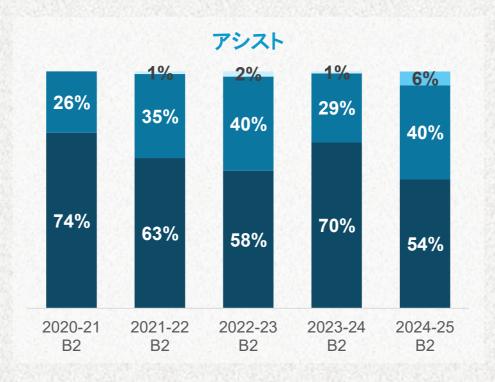
COMMENT

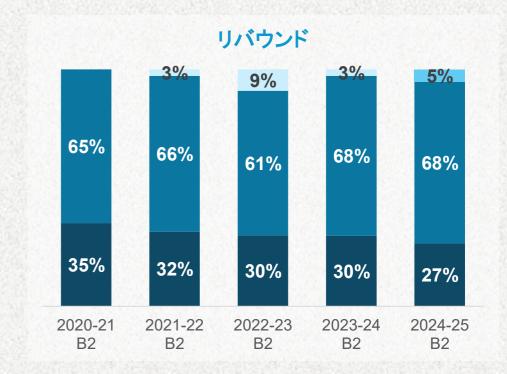
今季、全項目で日本人の占める割合が増加した。昨季はペイント内得点以外は日本人の割合が減少していたが、今季は逆の動きを見せており、特に、今季の得点・リバウンド・ペイント内得点の割合は過去5シーズンで最高値だった。

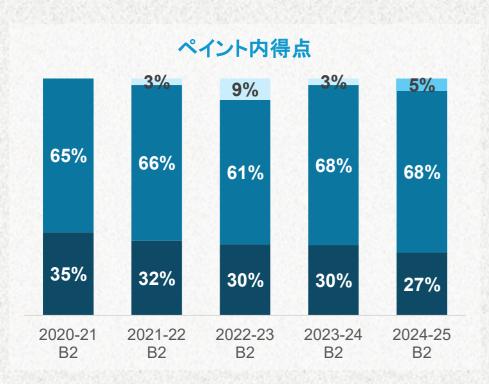


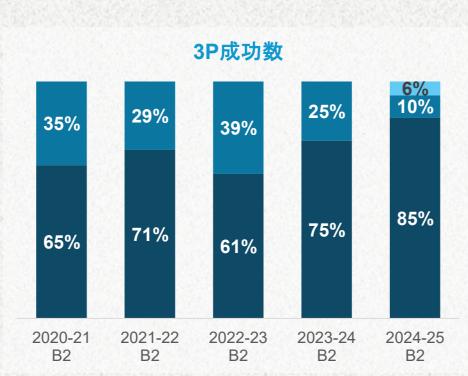












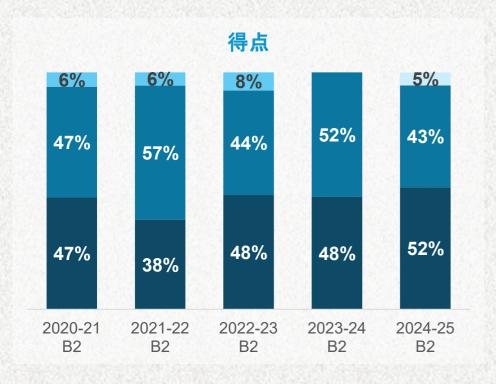
■日本人 ■外国籍 ■帰化 アジア特別枠

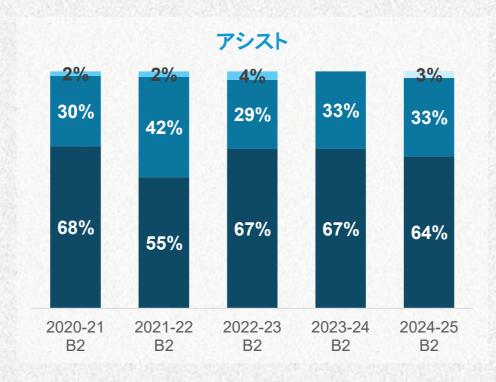
COMMENT

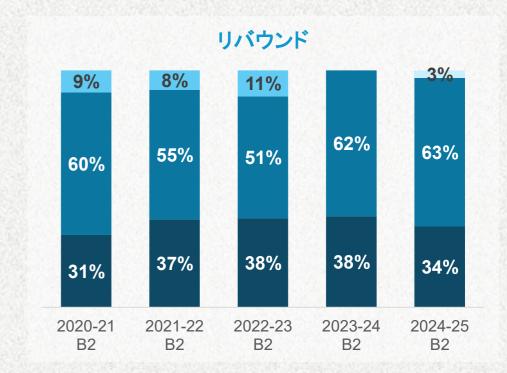
今季、アシスト・リバウンド・ペイント内得点において、日本人が占める割合が過去5シーズンで最低値となったが、3P成功数の割合は大幅に増加して5シーズンで最高値となった。日本人と外国籍の役割を明確化させたシーズンだったと言えるかもしれない。

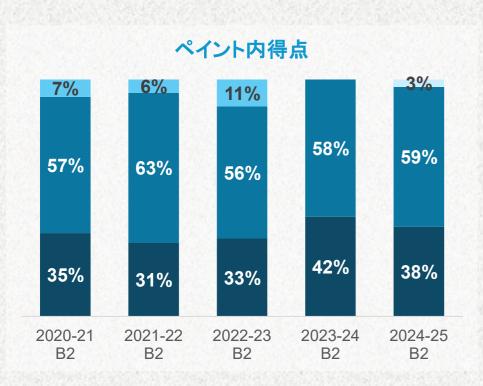


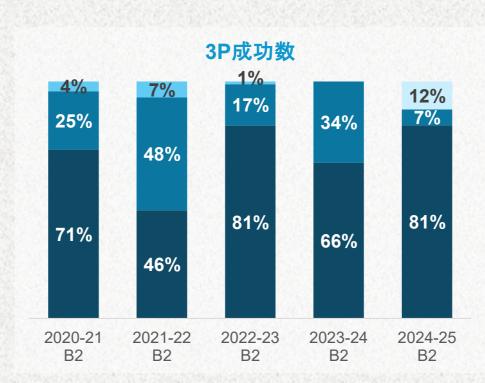
熊本











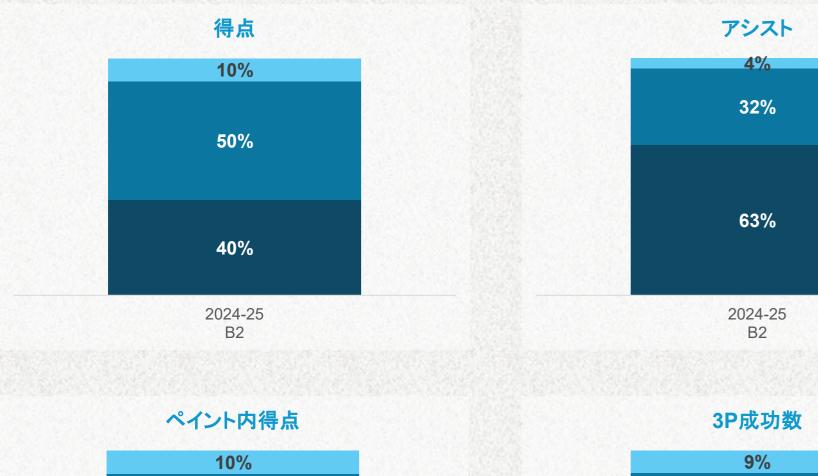
■日本人 ■ 外国籍 ■ 帰化 アジア特別枠

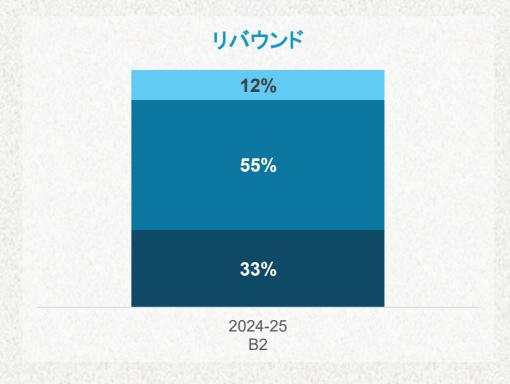
COMMENT

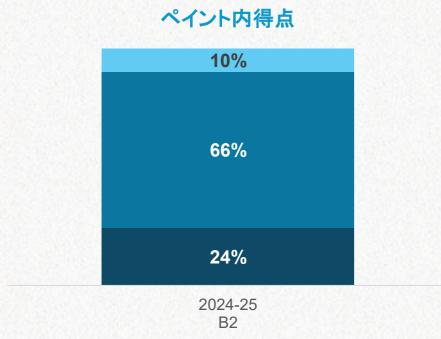
今季、日本人が占める3P成功数の割合が大幅に増加し、 外国籍の割合は大幅に減少した。外国籍の3P成功数 の割合約7%は今季のB2最低値で、アウトサイドの得点 源は日本人が大部分を占めていた。3P成功数以外は 昨季から大きな変動は見られなかった。

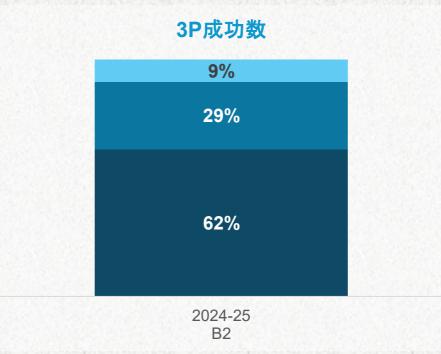


鹿児島











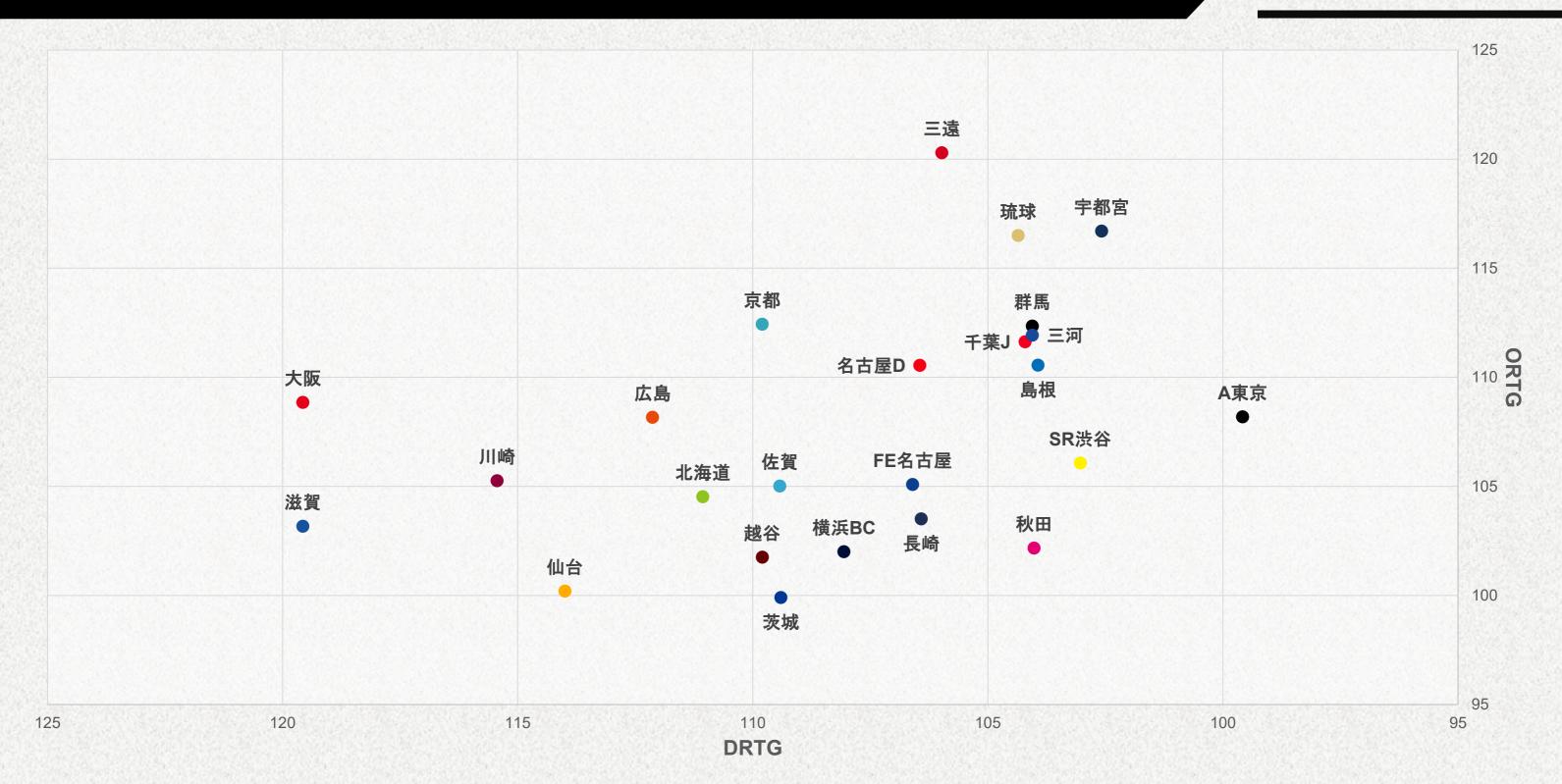
COMMENT

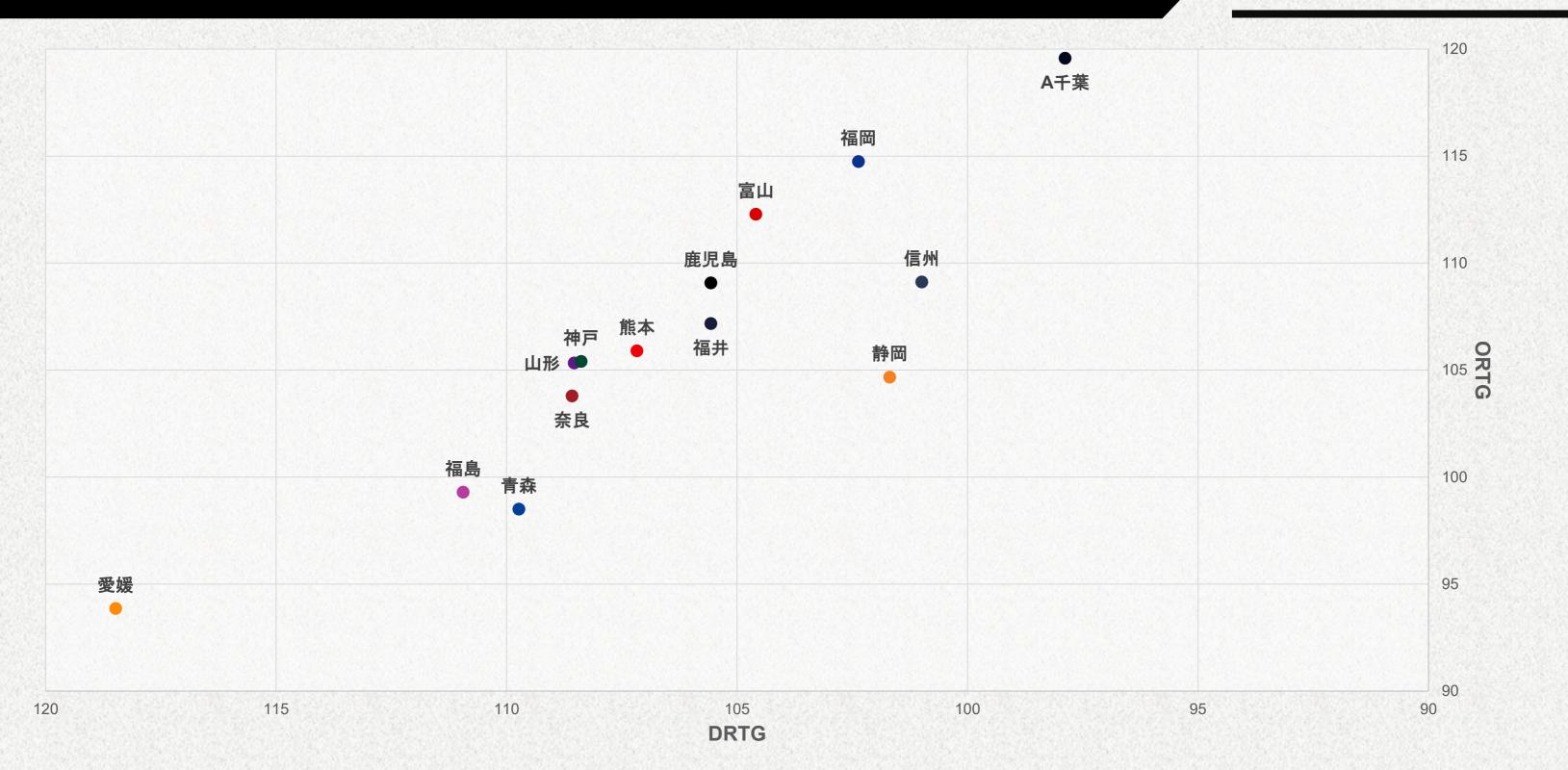
過去4シーズンでB1/B2所属は今季のみだったため、推移のデータを見ることができないが、各項目で日本人と外国籍に若干の偏りは出ているものの、割合は多くても60%台後半で、極端な偏りは少ないと言えそうだ。



本項では、各クラブのリーグ戦におけるアドバンスドスタッツを集計し、現在地や課題の把握を目的としている。

また、後続の項でも様々な切り口でアドバンスドスタッツを掲載しており、それらの 数値と本項の数値を照らし合わせながら読み進めることを意図している。

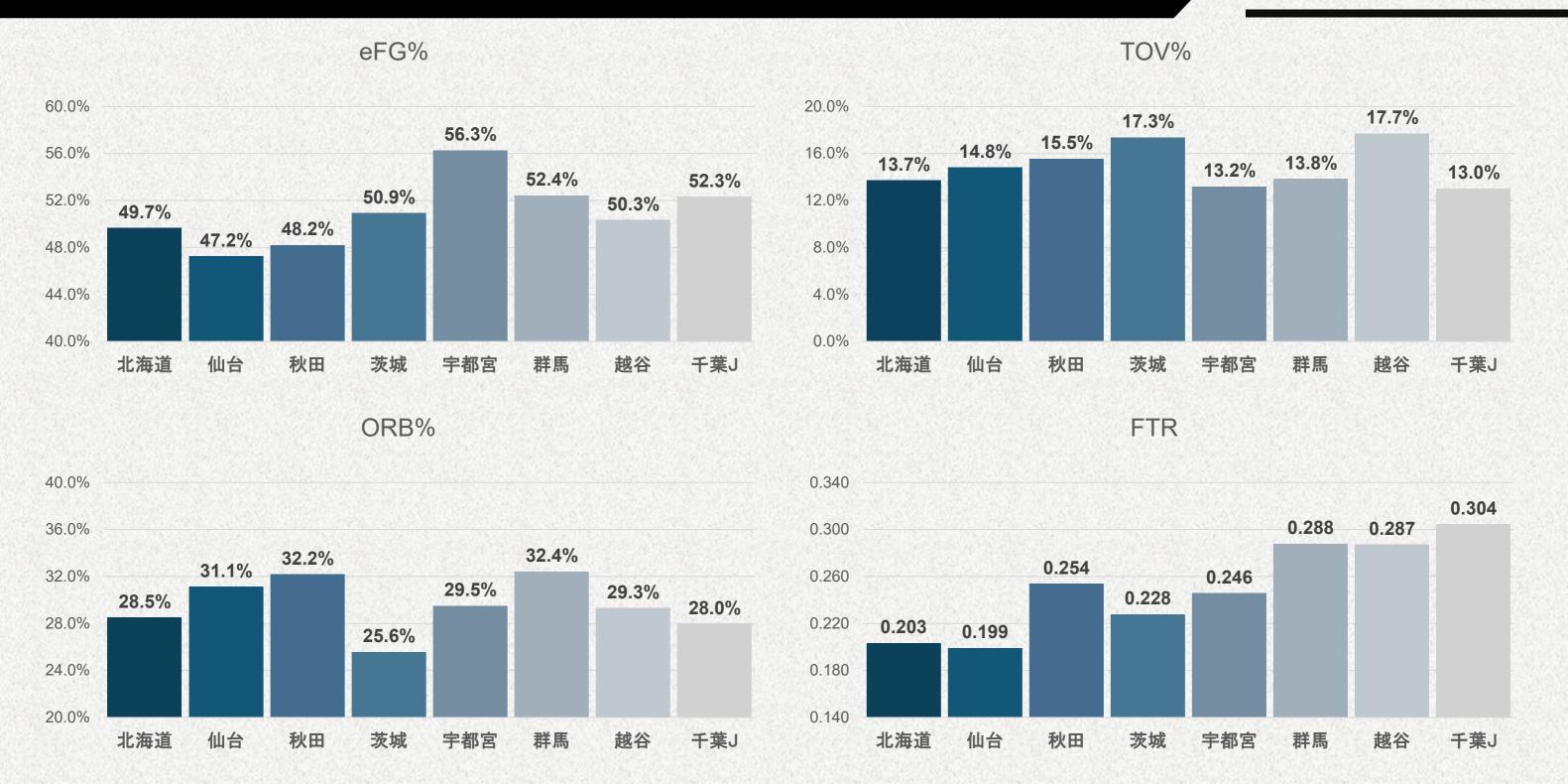




PAGE97 2024-25 STATS REPORT

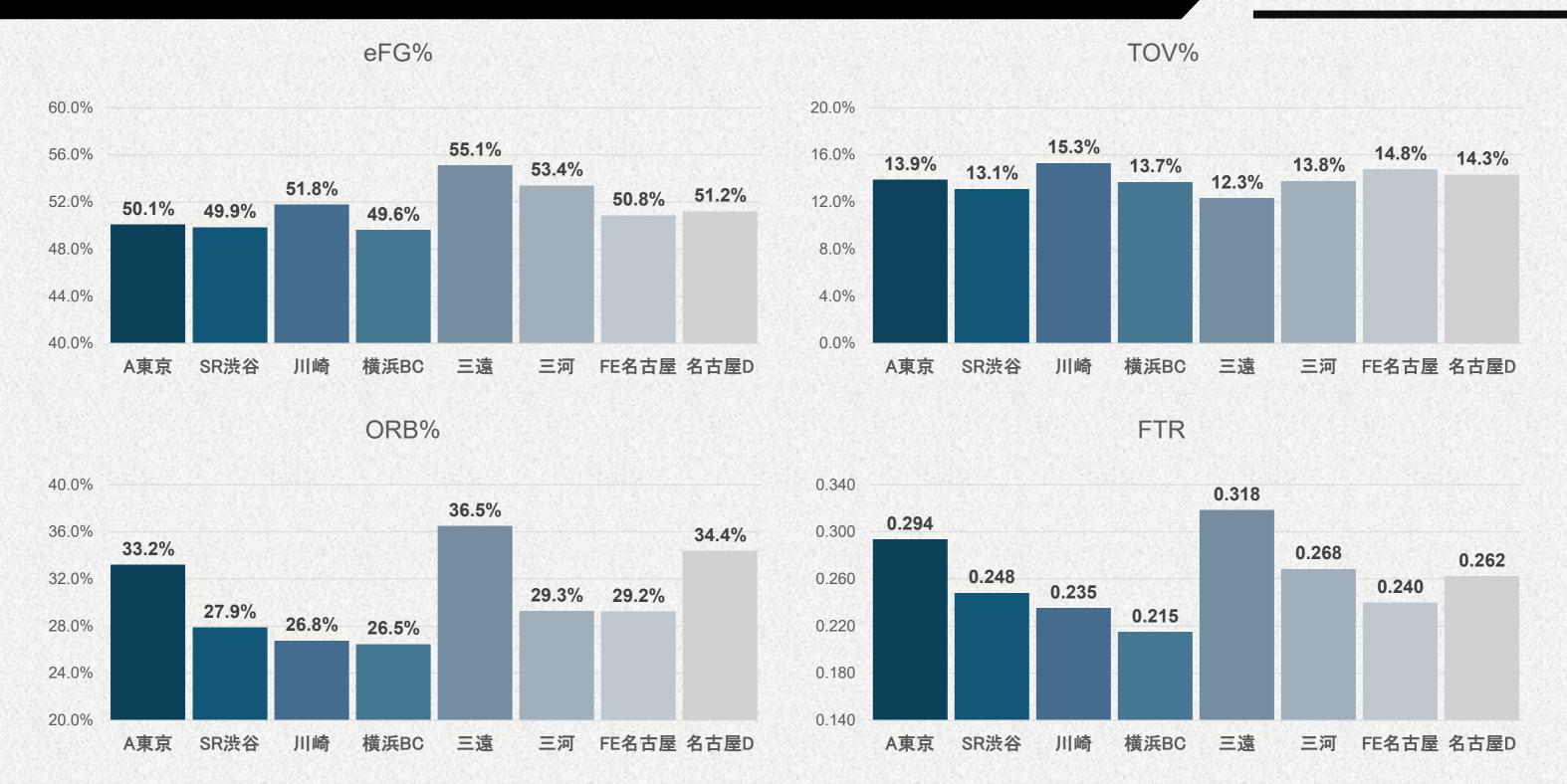
B.STATS LAB

B1東地区

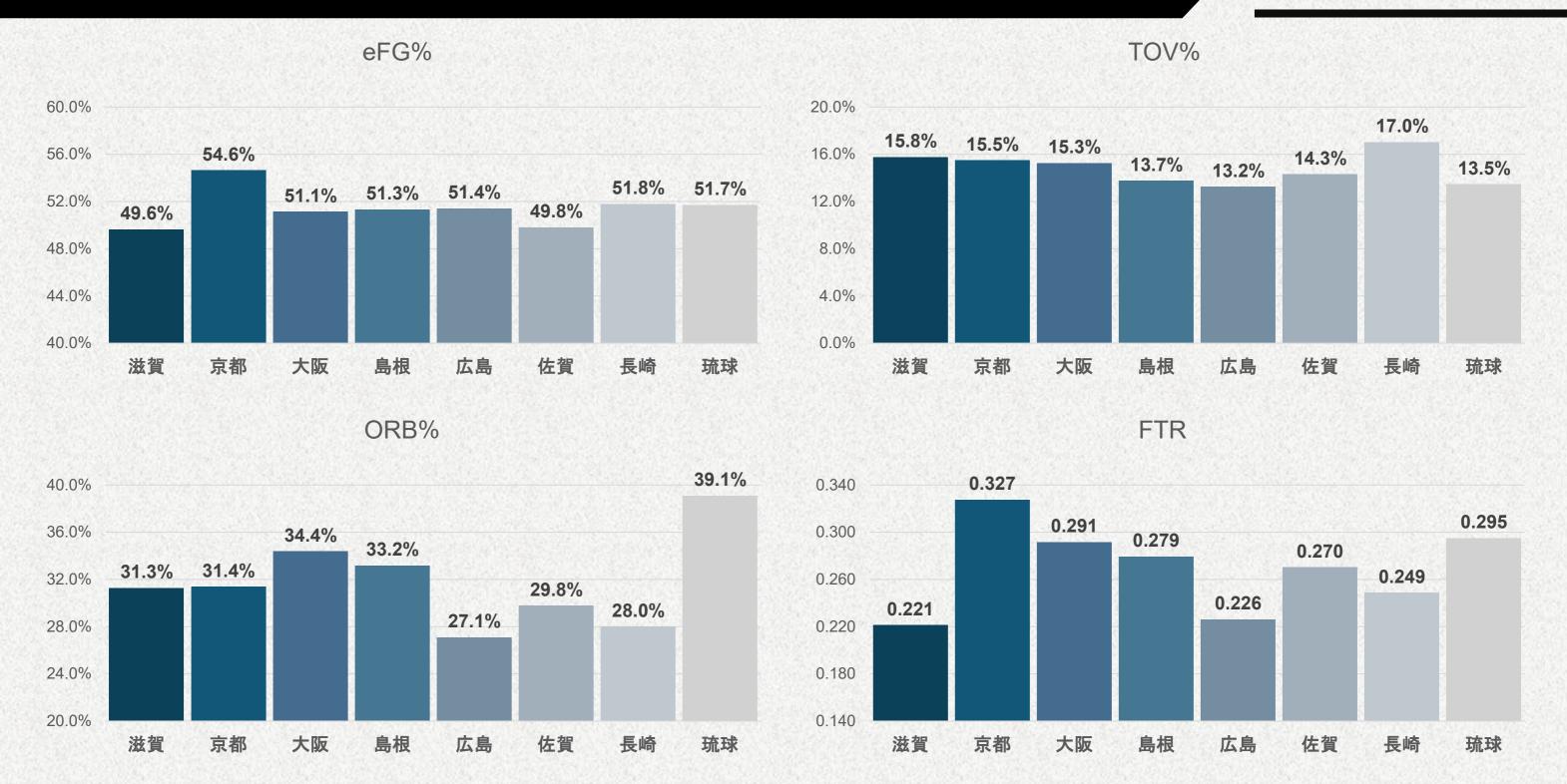


クラブ別スタッツ: Four Factors

B1中地区



B1 西地区

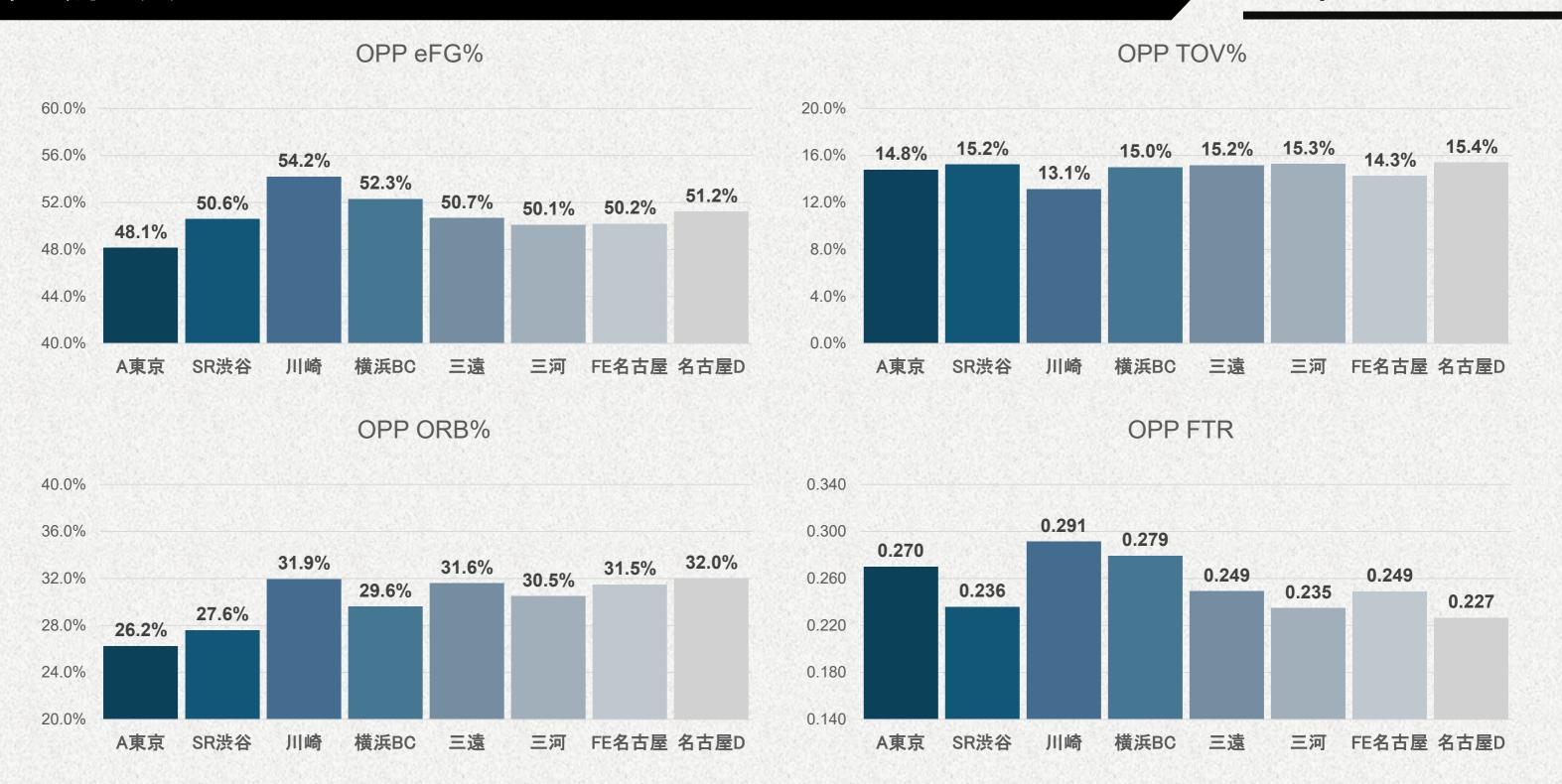


B1東地区

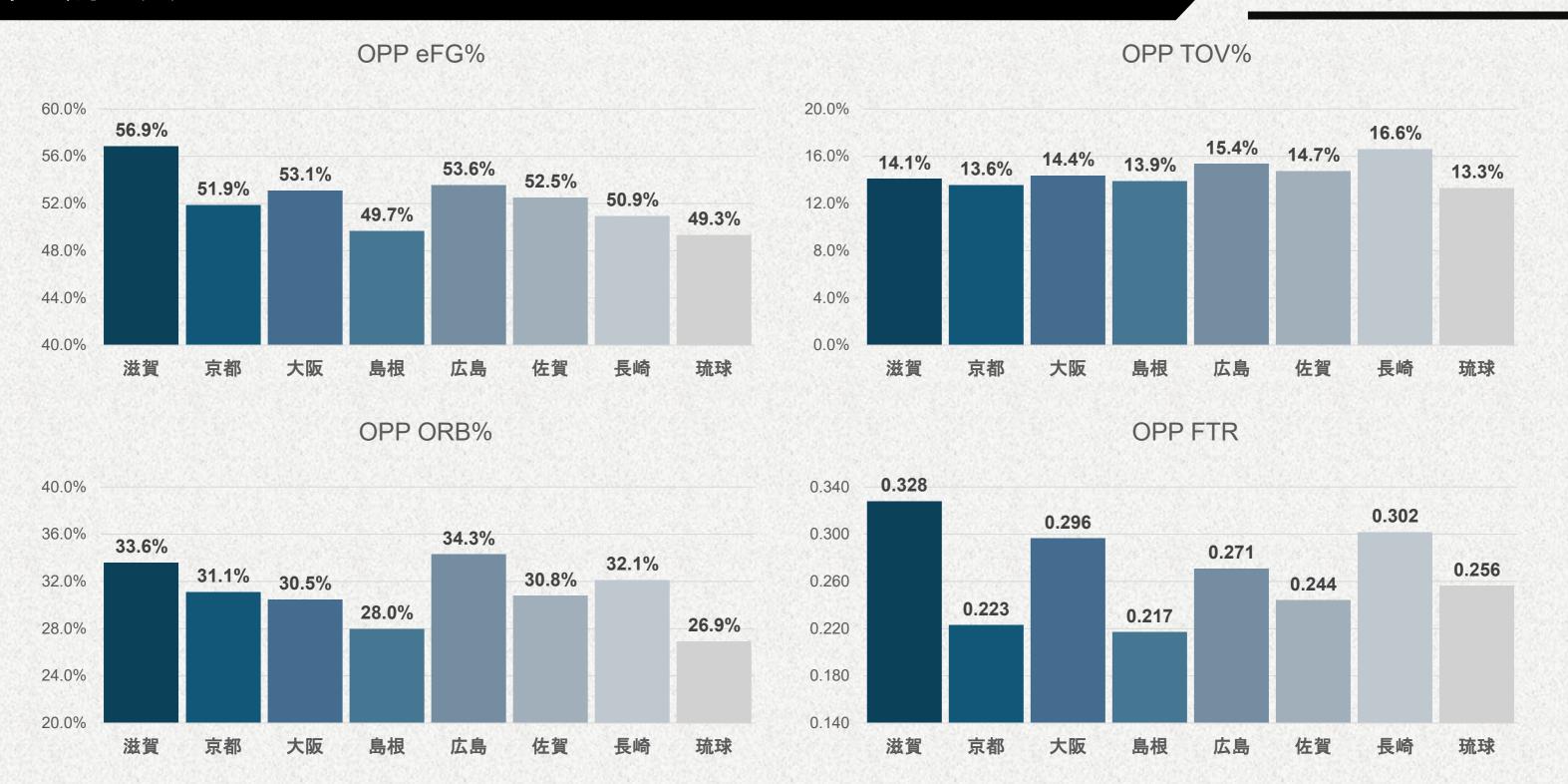


クラブ別スタッツ: OPP Four Factors

B1中地区

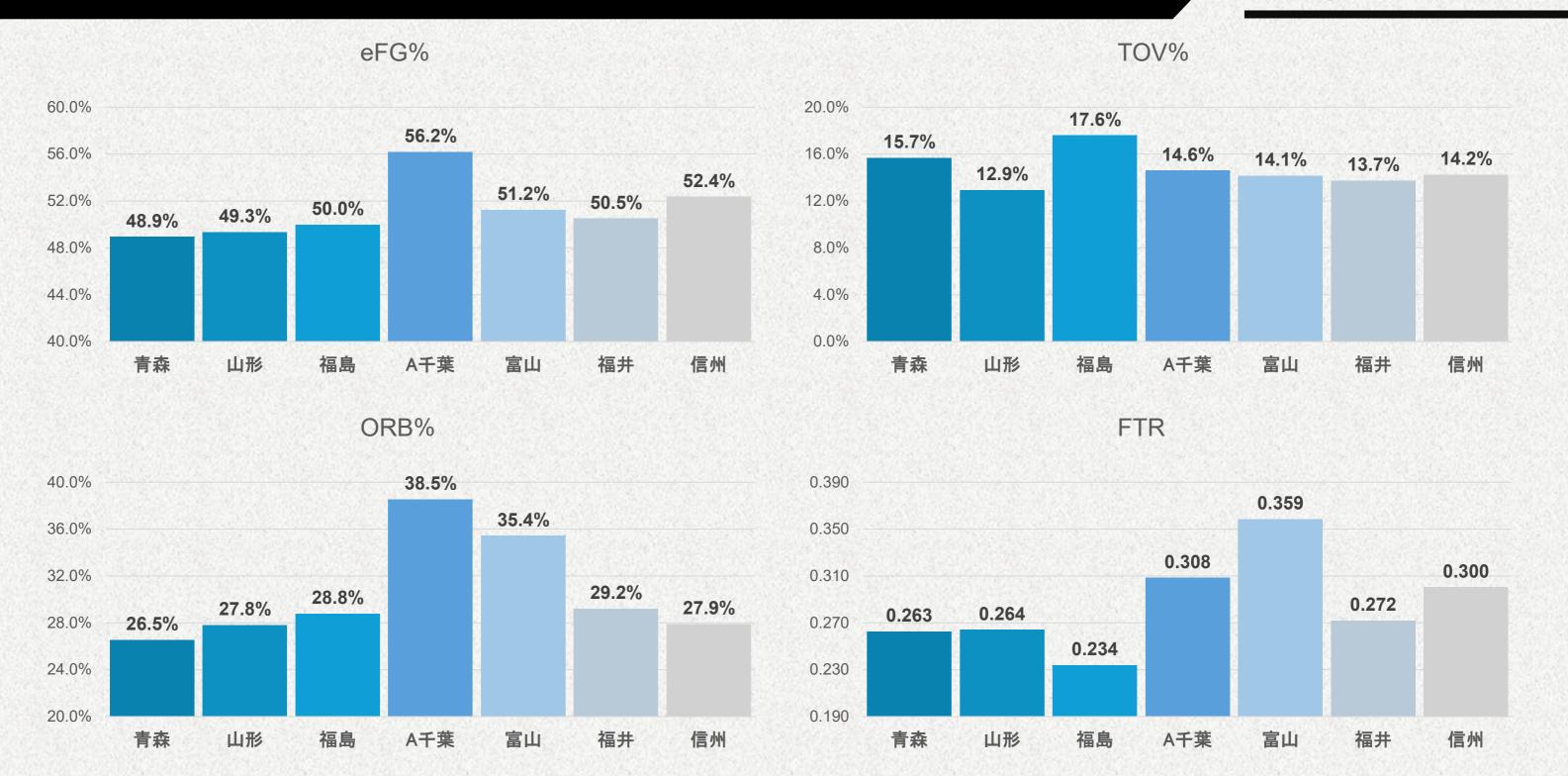


B1 西地区



クラブ別スタッツ: Four Factors

B2東地区

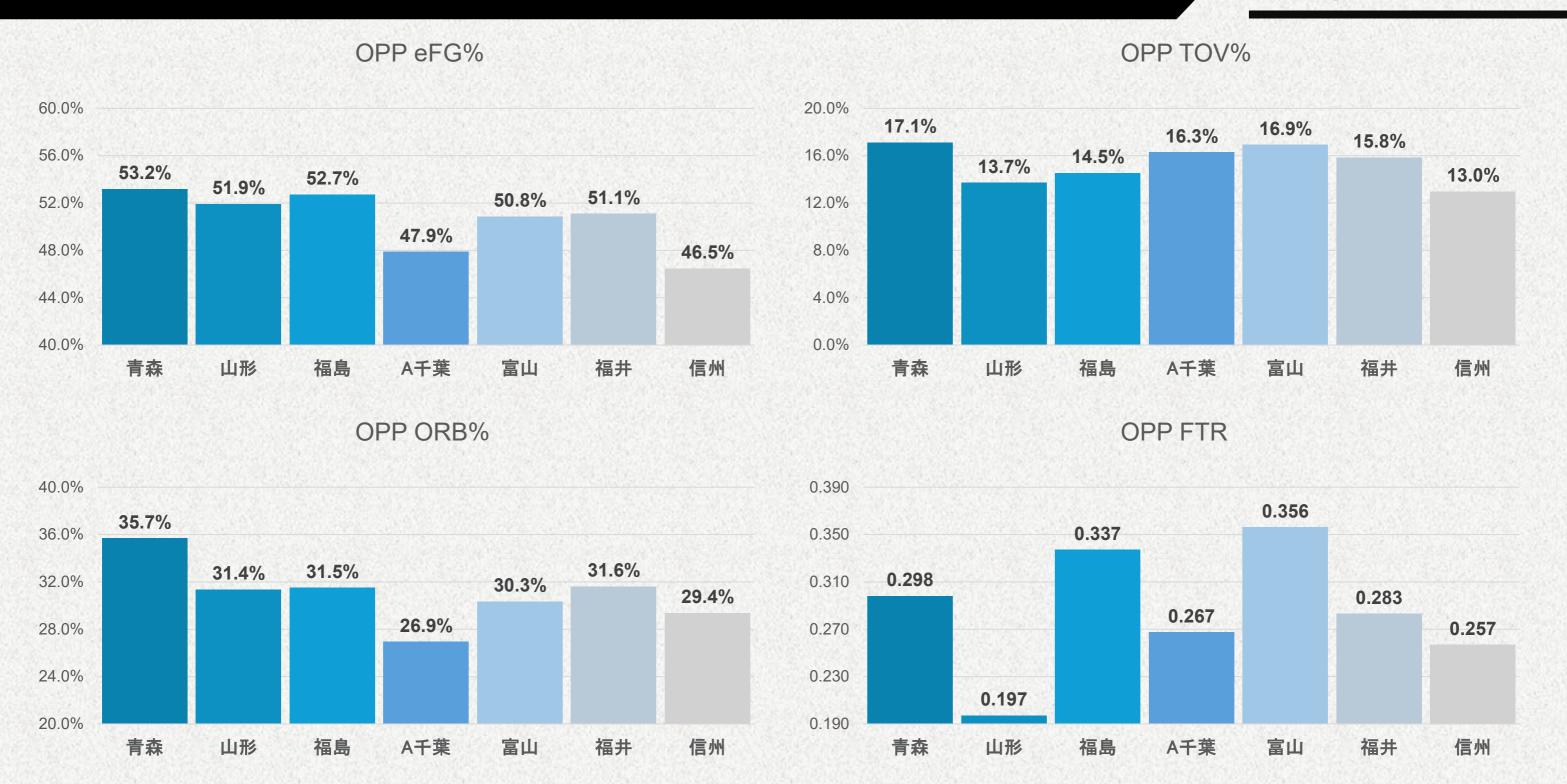


B2 西地区



クラブ別スタッツ: OPP Four Factors

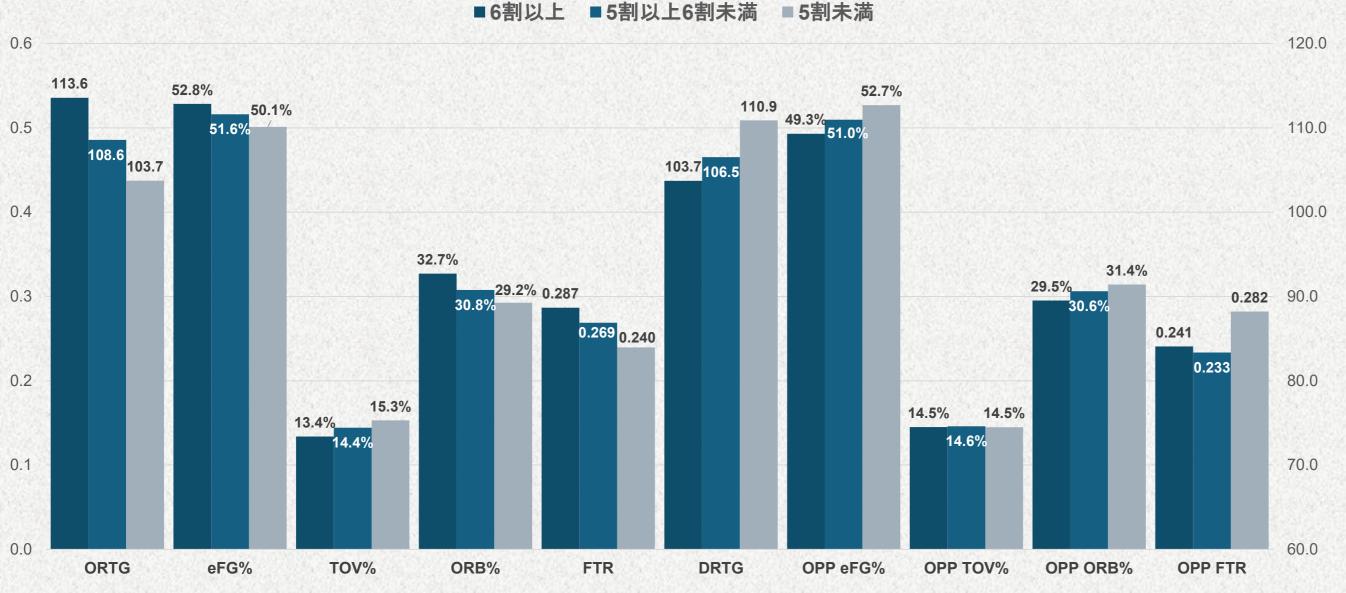
B2東地区





勝率別スタッツ比較

本項では、リーグ戦の勝率を3つの区分(5割未満、5割以上6割未満、6割以上)に グループ化して、アドバンスドスタッツを集計した。強化向けのデータとして、クラブ の課題特定や、リーグの傾向把握を目的としている。



6割以上

宇都宮、三遠、琉球、A東京、 千葉J、群馬、三河、島根

5割以上6割未満

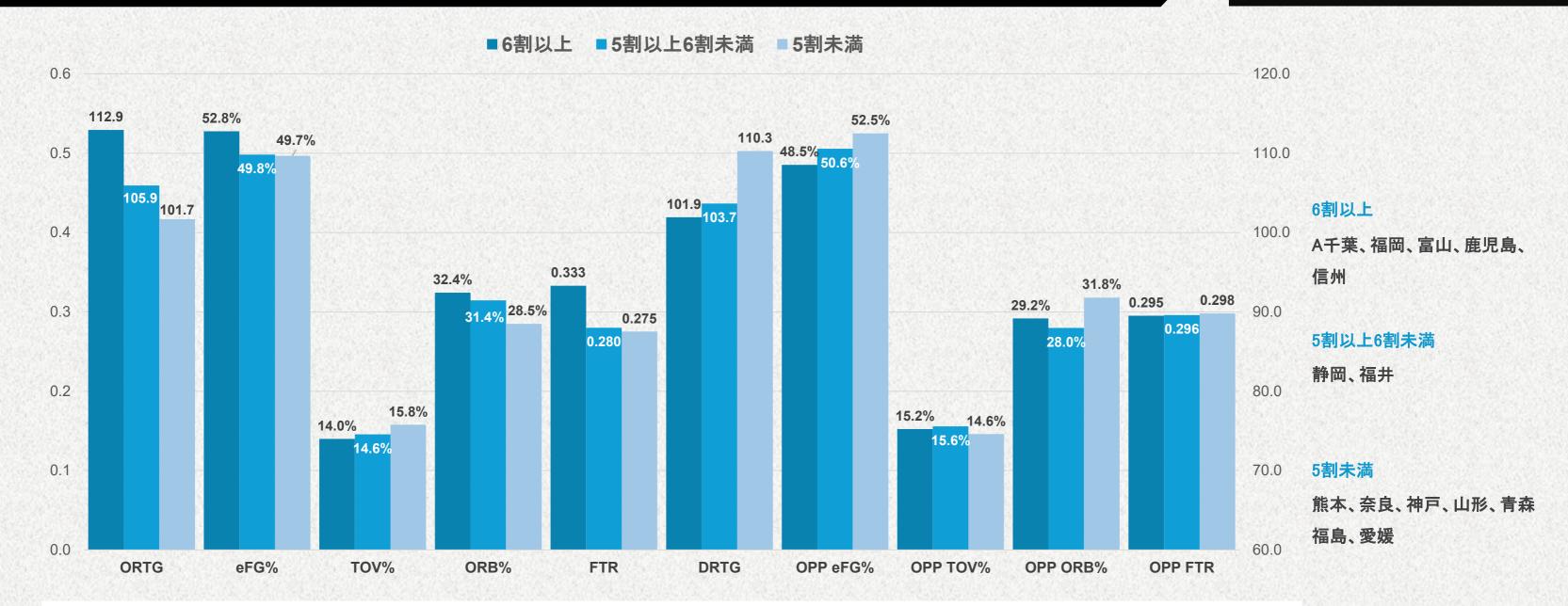
名古屋D、京都、FE名古屋、 SR渋谷

5割未満

大阪、秋田、広島、長崎、横浜BC、 佐賀、北海道、越谷、川崎、茨城、 仙台、滋賀

COMMENT

勝率6割以上だった上位勢の8クラブは全てCSに出場しており、勝率6割が今季のCS出場ラインを分ける境界となっていたと考えられる。また、概ね勝率が高いほど各指標も高水準であり、TOV%も勝率の高いクラブほど低く、自らのミスを抑える傾向が顕著に見られた。一方で、OPP TOV%には勝率別で大きな差は見られなかった。これは、相手のミスを誘うディフェンスよりも自らのミスを抑えるオフェンスの方がよりB1の勝率に影響を与えている可能性が高いことを示唆している。



B1に比べてクラブ数が少ないため、区分によっては1クラブのスタッツが及ぼす影響が大きく、傾向がやや読みにくくなっている。その点を踏まえ、勝率6割以上の上位5クラブと勝率5割未満の下位7クラブのORTGとDRTGを比較すると、上位クラブが100回の攻撃あたり約11点多く得点し、100回の守備あたり約8点の失点を抑えていた。DRTGでも差は付いたものの、ORTGの差の方が勝率に影響していた可能性が高い。特にFTRの差が顕著で、フリースローでの細かな積み重ねが、上位クラブの安定した勝利に繋がっていたと推察される。

ORTG別 スタッツ比較

本項では、各クラブのORTGがクラブのシーズン平均以上だった試合と、平均未満だった試合という2つの区分でFour Factorsを集計し、比較した。ORTGの高い試合と低い試合でオフェンスのどこに差分が出やすいのか、各クラブの課題や特徴を把握することを目的としている。

	ORTG平均 以上/未満	G	W	L	勝率	eFG%	TOV%	ORB%	FTR
小斧法	以上	30	18	12	.600	53.5%	11.9%	31.0%	0.223
北海道	未満	30	3	27	.100	45.6%	15.5%	26.1%	0.182
hli	以上	29	10	19	.345	51.6%	14.1%	32.8%	0.201
仙台	未満	31	1	30	.032	43.2%	15.5%	29.7%	0.197
秋田	以上	29	19	10	.655	52.5%	14.6%	34.8%	0.274
秋田	未満	31	9	22	.290	44.1%	16.5%	30.0%	0.235
类块	以上	28	14	14	.500	56.2%	15.7%	26.1%	0.248
茨城	未満	32	1	31	.031	46.2%	18.8%	25.2%	0.210
宁 松 宁	以上	29	28	1	.966	61.8%	11.9%	32.3%	0.239
宇都宮	未満	31	20	11	.645	51.0%	14.3%	27.3%	0.252
## E	以上	24	22	2	.917	58.7%	13.1%	34.8%	0.300
群馬	未満	36	17	19	.472	48.3%	14.3%	31.0%	0.280
北公	以上	28	16	12	.571	55.2%	15.6%	31.3%	0.326
越谷	未満	32	3	29	.094	45.8%	19.6%	27.6%	0.251
工帝 I	以上	30	29	1	.967	57.9%	12.9%	30.6%	0.307
千葉J	未満	30	13	17	.433	46.6%	13.1%	25.6%	0.302

B1東地区において、ORTGがクラブ平均以上だった試合と下回った試合で、最も勝率に差が出たクラブは千葉Jだった。特にeFG%の差がB1全体で最大で、シュート効率が勝敗に大きな影響を与えていた。

ORTGがクラブ平均を下回った試合でも勝率.500以上を記録したクラブはB1全体でわずか4クラブ。その中でも宇都宮は最高勝率.645を記録した。オフェンスが振るわなくても、ディフェンスなど他の要素で補える点が、CS優勝を果たした宇都宮の強さの一因と言えるだろう。

越谷はTOV%とFTRの差がB1最大だった。ORTGがクラブ平均以上の試合では勝率.571を記録しており、ミスが少なく、フリースローが多い試合は勝率も高かったことがうかがえる。

	ORTG平均 以上/未満	G	W	L	勝率	eFG%	TOV%	ORB%	FTR
A + +	以上	31	30	1	.968	55.2%	13.1%	35.0%	0.310
A東京	未満	29	14	15	.483	44.7%	14.7%	31.5%	0.276
CD准分	以上	27	22	5	.815	55.2%	12.2%	31.1%	0.241
SR渋谷	未満	33	8	25	.242	45.4%	13.8%	25.5%	0.254
川崎	以上	29	15	14	.517	56.9%	14.6%	31.3%	0.261
川岬	未満	31	3	28	.097	46.8%	15.9%	22.9%	0.210
横浜BC	以上	33	20	13	.606	54.2%	13.3%	27.1%	0.226
供供DU	未満	27	4	23	.148	44.1%	14.1%	25.8%	0.201
三遠	以上	27	27	0	1.000	60.2%	11.9%	40.3%	0.334
二足	未満	32	20	12	.625	50.6%	12.7%	33.6%	0.305
二河	以上	24	21	3	.875	58.3%	11.8%	32.0%	0.283
三河	未満	36	18	18	.500	50.0%	15.1%	27.6%	0.259
FE名古屋	以上	29	22	7	.759	54.6%	13.7%	33.7%	0.254
「四日庄	未満	31	8	23	.258	47.2%	15.8%	25.3%	0.226
夕士员D	以上	29	23	6	.793	55.7%	12.9%	36.5%	0.269
名古屋D	未満	31	12	19	.387	46.8%	15.6%	32.5%	0.256

B1中地区において、ORTGがクラブ平均以上だった試合と下回った試合で、最も勝率に差が出たクラブはSR渋谷だった。オフェンスの出来が勝敗に大きな影響を与えていたと言える。

ORTGがクラブ平均を下回った試合でも勝率.500以上を記録したクラブはB1中地区では三遠と三河のみだった。特に三遠はORTGがクラブ平均以上の試合では27勝0敗と無類の強さを発揮した。

FE名古屋はeFG%の差がB1全体で最も小さく、オフェンスが振るわない試合でも安定したシュート効率を見せていた。一方で、ORB%の差はB1中地区で最大であり、オフェンスリバウンドの有無がオフェンスに大きな影響を与えていたことがうかがえる。

	ORTG平均 以上/未満	G	w	L	勝率	eFG%	TOV%	ORB%	FTR
<u>ን</u>	以上	25	8	17	.320	55.0%	15.4%	34.9%	0.258
滋賀	未満	34	0	34	.000	45.8%	16.1%	28.9%	0.194
京都	以上	31	23	8	.742	58.9%	14.0%	32.5%	0.327
水	未満	29	10	19	.345	50.0%	17.0%	30.3%	0.328
大阪	以上	28	21	7	.750	56.0%	14.0%	34.5%	0.328
入以	未満	32	8	24	.250	46.8%	16.4%	34.3%	0.259
島根	以上	33	27	6	.818	56.2%	12.5%	34.0%	0.300
一一一一一一	未満	27	10	17	.370	45.5%	15.2%	32.3%	0.254
広島	以上	31	24	7	.774	55.4%	12.4%	28.5%	0.248
以岛	未満	29	4	25	.138	47.1%	14.2%	25.7%	0.203
佐賀	以上	27	21	6	.778	54.6%	13.0%	35.2%	0.292
在 貝	未満	33	1	32	.030	45.8%	15.4%	25.7%	0.252
長崎	以上	29	23	6	.793	56.6%	16.1%	29.6%	0.278
文門	未満	31	3	28	.097	47.2%	17.9%	26.7%	0.221
琉球	以上	28	26	2	.929	56.8%	12.0%	42.1%	0.299
かに上水	未満	32	20	12	.625	47.2%	14.7%	36.7%	0.291

B1西地区において、ORTGがクラブ平均以上だった試合と下回った試合で、最も勝率に差が出たクラブは佐賀だった。特にORB%の差がB1全体で最も大きく、オフェンスリバウンドが勝敗に大きな影響を与えていた。

ORTGがクラブ平均を下回った試合でも勝率.500以上を記録したクラブはB1西地区では琉球のみだった。

ORB%がリーグ3位だった大阪は、ORB%の差がB1で最も小さく、オフェンスが振るわない試合でも安定してクラブの強みを発揮することができていたと言えるだろう。一方、FTRの差はB1西地区で最大であり、フリースローの獲得有無がオフェンスに影響を与えていたことがうかがえる。

	ORTG平均 以上/未満	G	W	L	勝率	eFG%	TOV%	ORB%	FTR
丰木	以上	31	16	15	.516	52.6%	14.2%	28.0%	0.260
青森	未満	29	5	24	.172	44.9%	17.3%	25.1%	0.265
山形	以上	29	20	9	.690	53.9%	11.7%	30.5%	0.283
шлэ	未満	31	4	27	.129	45.1%	14.1%	25.6%	0.247
福島	以上	32	13	19	.406	54.5%	17.0%	30.1%	0.252
佃岛	未満	28	2	26	.071	44.8%	18.3%	27.4%	0.213
A千葉	以上	28	28	0	1.000	59.5%	13.4%	41.5%	0.300
AT未	未満	32	29	3	.906	53.1%	15.7%	36.0%	0.316
富山	以上	30	26	4	.867	56.3%	12.6%	37.9%	0.351
田田	未満	30	12	18	.400	46.1%	15.7%	33.2%	0.366
福井	以上	34	26	8	.765	54.7%	12.2%	28.6%	0.276
1田 丌	未満	26	6	20	.231	44.9%	15.7%	29.9%	0.266
信州	以上	31	24	7	.774	58.1%	12.2%	29.4%	0.301
1급 /개	未満	29	13	16	.448	46.3%	16.3%	26.5%	0.299

B2東地区において、ORTGがクラブ平均以上だった試合と下回った試合で、最も勝率に差が出たクラブは山形だった。オフェンスの出来が勝敗に大きな影響を与えていたと言える。

ORTGがクラブ平均を下回った試合でも勝率.500以上を記録したクラブはB2全体でA千葉のみだった。A千葉はeFG%の差がB2最少で、シュート効率の安定性が彼らの強さの一因と言えるだろう。

信州はeFG%とTOV%の差がB2最大だった。シュート効率の安定性とミスをどれだけ抑えられるかが信州のオフェンスの鍵だったことがうかがえる。

	ORTG平均 以上/未満	G	w	L	勝率	eFG%	TOV%	ORB%	FTR
± 4. 57	以上	33	27	6	.818	53.6%	14.3%	35.5%	0.313
静岡	未満	27	7	20	.259	43.7%	16.7%	31.9%	0.259
神戸	以上	31	25	6	.806	56.1%	14.0%	33.9%	0.286
7甲 /一	未満	29	0	29	.000	44.8%	17.2%	28.5%	0.273
奈良	以上	30	21	9	.700	56.1%	14.0%	27.0%	0.329
示 尺	未満	30	5	25	.167	44.8%	15.6%	23.4%	0.294
愛媛	以上	29	5	24	.172	51.7%	16.7%	29.0%	0.297
多 级	未満	31	0	31	.000	43.1%	18.8%	23.6%	0.294
福岡	以上	33	30	3	.909	59.0%	12.5%	33.5%	0.374
雅岬	未満	27	12	15	.444	48.0%	16.0%	28.5%	0.398
熊本	以上	30	24	6	.800	56.0%	14.7%	38.0%	0.321
лк	未満	30	3	27	.100	45.8%	17.4%	30.8%	0.240
毎旧	以上	27	25	2	.926	54.8%	11.8%	33.0%	0.324
鹿児島	未満	33	12	21	.364	46.1%	13.8%	26.7%	0.312

B2西地区において、ORTGがクラブ平均以上だった試合と下回った試合で、最も勝率に差が出たクラブは神戸だった。特にORTGがクラブ平均未満の試合は0勝29敗とオフェンスの出来が勝敗に直結していたことがうかがえる。

ORTGがクラブ平均を下回った試合でも勝率.500以上を記録したクラブはB2西地区にはいなかった。

熊本はORB%とFTRの差がB2最大だった。オフェンスリバウンドの獲得とフリースローの獲得が熊本のオフェンスの鍵だったことがうかがえる。

3.振り返り

2 アルバルク東京

1 栃木ブレックス

- 3 千葉ジェッツ
- 4 レバンガ北海道
- 5 秋田ノーザンハピネッツ
- 6 仙台89ERS

CENTRAL

- 1 川崎ブレイブサンダース
- 2 三遠ネオフェニックス
- 3 サンロッカーズ渋谷
- 4 新潟アルビレックスBB
- 5 富山グラウジーズ
- 6 横浜ビー・コルセアーズ

WEST

- 11 .817 1 シーホース三河
 - 2 琉球ゴールデンキングス
 - 3 大阪エヴェッサ
 - 4 名古屋ダイヤモンドドルフィンズ
 - 5 京都ハンナリーズ
 - 6 滋賀レイクスターズ

- 46 14 .767
- 31 .483 29
- 28 32 .467
- 27 33
 - 25 35 .417
- 21 39 .350

得点王

27.1

#22 ニック・

ファジーカス

川崎 ブレイブサンダース アシスト王

46 14

44

44

23

16

16

37

18 42

14 46

.767

.733

.733

.383

.300

.233

4.3

#11

宇都直輝

富山グラウジーズ

リバウンド王

13.3

#32

ライアン・ ロシター

栃木ブレックス

スティール王

49

33 27 .550

32 28 .533

27 33 .450

16 44 .267

42 .300

2.0

#24

広瀬健太

サンロッカーズ渋谷

ブロック王

1.9

#55

ジョシュ・ ハレルソン

大阪エヴェッサ

ベスト3P 成功率賞

42.6%

#14

金丸晃輔

シーホース三河

ベストFT 成功率賞

90.8%

#14

金丸晃輔

シーホース三河

- 1 群馬クレインサンダーズ 2 茨城ロボッツ 32 28 3 福島ファイヤーボンズ
- 4 青森ワッツ
- 5 山形ワイヴァンズ
- 6 岩手ビッグブルズ

CENTRAL

- 1 西宮ストークス 2 Fイーグルス名古屋
- 3 アースフレンズ東京Z
- 4 バンビシャス奈良
- 5 東京エクセレンス
- 6 信州ブレイブウォリアーズ

WEST

- 1 島根スサノオマジック 43 17 .717
 - 2 広島ドラゴンフライズ
 - 3 熊本ヴォルターズ

 - 5 香川ファイブアローズ
 - 6 鹿児島レブナイズ

- 9 51 .850
- 14 46 .767
 - 44 16 .733
- 4 愛媛オレンジバイキングス 29 31 .483
 - 41 .317
 - 7 53 .117

得点王

19.5

#11 チェハーレス・ タプスコット

香川ファイブアローズ

アシスト王

40 20

30 30

26 34

15 45

29

31

.667

.533

.500

.483

.433

.250

5.1

#2

古野拓巳

熊本ヴォルターズ

リバウンド王

13.1

#21

ソロモン・ アラビ

Fイーグルス名古屋

スティール王

2.2

#2

古野拓巳

熊本ヴォルターズ

ブロック王

42 18 .700

27 33 .450

24 36 .400

22 38 .367

14 46 .233

2.4

#14

チュクゥディエベレ・ マドゥアバム

鹿児島レブナイズ

ベスト3P 成功率賞

45.3%

#5

山本エドワード

島根スサノオマジック

ベストFT 成功率賞

該当者なし

4-25 STATS REPORT

- 1 千葉ジェッツ46 14 .7672 アルバルク東京44 16 .7333 川崎ブレイブサンダース41 19 .6834 栃木ブレックス34 26 .567
- 5 サンロッカーズ渋谷
- 6 レバンガ北海道

CENTRAL

- 1 シーホース三河
- 2 名古屋ダイヤモンドドルフィンズ
- 3 新潟アルビレックスBB
- 4 三遠ネオフェニックス
- 5 富山グラウジーズ
- 6 横浜ビー・コルセアーズ

WEST

- 1 琉球ゴールデンキングス
- 2 京都ハンナリーズ
- 3 滋賀レイクスターズ
- 4 大阪エヴェッサ
- 5 西宮ストークス
- 6 島根スサノオマジック

- グス 42 18 .700
 - 34 26 .567
 - 24 36 .400
 - 24 36 .400
 - 12 48 .200
 - 11 49 .183

得点王

28.7

#54

ダバンテ・ ガードナー

新潟 アルビレックスBB アシスト王

28 32

26 34

.467

.433

7.7

#11

宇都直輝

富山グラウジーズ

リバウンド王

10.9

#22

ニック・ ファジーカス

川崎 ブレイブサンダース スティール王

1.9

#3

マイケル・パーカー

千葉ジェッツ

ブロック王

48 12 .800

31 29 .517

28 32 .467

25 35 .417

24 36 .400

18 42 .300

2.3

#34

ハシーム・ サビート・マンカ

横浜 ビー・コルセアーズ ベスト3P 成功率賞

41.7%

#31

喜多川修平

栃木ブレックス

ベストFT 成功率賞

93.2%

#14

金丸晃輔

シーホース三河

- 1 秋田ノーザンハピネッツ54 6 .9002 福島ファイヤーボンズ38 22 .6333 山形ワイヴァンズ25 35 .4174 仙台89ERS21 39 .350
- **6** 岩手ビッグブルズ

CENTRAL

- Fイーグルス名古屋
 茨城ロボッツ
- 3 群馬クレインサンダーズ4 金沢武士団
- 5 信州ブレイブウォリアーズ
- 6 アースフレンズ東京Z

WEST

- ライジングゼファー福岡 47 13 .783
 熊本ヴォルターズ 41 19 .683
- 3 広島ドラゴンフライズ 33 27
- 4 愛媛オレンジバイキングス 33 27 .550
- 5 香川ファイブアローズ 22 38
- 6 バンビシャス奈良 19 41 .317

得点王

5 青森ワッツ

22.1

#11

チェハーレス・ タプスコット

愛媛オレンジ バイキングス

アシスト王

42

53

.300

.117

7.1

#2

古野拓巳

熊本ヴォルターズ

リバウンド王

12.7

#2

レジナルド・ ウォーレン

香川ファイブアローズ

スティール王

2.1

#17

中山拓哉

秋田 ノーザンハピネッツ ブロック王

39 21 .650

38 22 .633

32 28 .533

28 32 .467

25 35 .417

20 40 .333

1.7

#43

カディーム・コールビー

秋田 ノーザンハピネッツ ベスト3P 成功率賞

44.5%

#2

福澤晃平

Fイーグルス名古屋

ベストFT 成功率賞

.550

.367

88.7%

#5

田口成浩

秋田 ノーザンハピネッツ

B1

EAST

- 1 千葉ジェッツ
- 2 栃木ブレックス
- 3 アルバルク東京
- 4 サンロッカーズ渋谷
- 5 秋田ノーザンハピネッツ
- 6 レバンガ北海道

CENTRAL

- 1 新潟アルビレックスBB
- 2 川崎ブレイブサンダース
- 3 富山グラウジーズ
- 4 シーホース三河
- 5 三遠ネオフェニックス
- 6 横浜ビー・コルセアーズ

- 45 15 .750
- 40 20 .667
- 32 28 .533
- 31 29 .517
- 22 38 .367
- 14 46 .233

- 1 琉球ゴールデンキングス 40
- 2 名古屋ダイヤモンドドルフィンズ 33 27 .550
- 3 京都ハンナリーズ
- 4 大阪エヴェッサ
- 5 滋賀レイクスターズ
- 6 ライジングゼファー福岡 7

- 40 20 .667
- **~ 33 &/ .**33U
- 31 29 .517
- 23 37 .383
- 18 42 .300
- 7 48 .117

得点王

27.6

#54

ダバンテ・ ガードナー

新潟 アルビレックスBB アシスト王

52 8

27 33

17 43

10 50

11

16

49

44

.867

.817

.733

.450

.283

.167

8.5

#32

ジュリアン・マブンガ

京都ハンナリーズ

リバウンド王

12.3

#55

ジョシュ・ハレルソン

大阪エヴェッサ

スティール王

2.2

#17

中山拓哉

秋田 ノーザンハピネッツ

IIIMBO 200

ブロック王

2.4

#43

カディーム・コールビー

秋田 ノーザンハピネッツ ベスト3P 成功率賞

45.2%

#27

石井講祐

千葉ジェッツ

ベストFT 成功率賞

90.9%

#14

金丸晃輔

シーホース三河

B2

EAST

- 1 群馬クレインサンダーズ 43 17 .717
- 2 仙台89ERS
- 3 茨城ロボッツ
- 4 福島ファイヤーボンズ
- 5 山形ワイヴァンズ
- 6 青森ワッツ

CEN.

- 1 信州ブレイブウォリアーズ
- 2 Fイーグルス名古屋
- 3 西宮ストークス
- **4** アースフレンズ東京Z
- 5 金沢武士団
- 6 八王子ビートレインズ

- 48 12 .800
- 41 19 .683
- 34 26 .567
- 22 38 .367
- 21 39 .350
- 11 49 .183

- 熊本ヴォルターズ
- 2 島根スサノオマジック
- 3 広島ドラゴンフライズ
- 4 バンビシャス奈良
- 5 愛媛オレンジバイキングス 20 40 .333
- 6 香川ファイブアローズ 19 41 .317

得点王

27.9

#1 トーマス・ ケネディ

群馬 クレインサンダーズ アシスト王

40 20

35 25

27 33

22 38

15 45 .250

.667

.583

.450

.367

7.5

#2

ゲイリー・ハミルトン

バンビシャス奈良

リバウンド王

13.7

#8

グレゴリー・ エチェニケ

島根スサノオマジック

スティール王

2.2

#2

カレン・ルッソ

青森ワッツ

ブロック王

2.6

#14

チュクゥディエベレ・ マドゥアバム

山形ワイヴァンズ

ベスト3P 成功率賞

46.4%

#1

宮崎恭行

Fイーグルス名古屋

ベストFT 成功率賞

45 15 .750

43 17 .717

32 28 .533

22 38 .367

90.5%

#1

宮崎恭行

Fイーグルス名古屋

- アルバルク東京
 宇都宮ブレックス
- 3 千葉ジェッツ
- 4 サンロッカーズ渋谷
- 5 秋田ノーザンハピネッツ
- 6 レバンガ北海道

CENTRAL

- 1 川崎ブレイブサンダース
- 2 シーホース三河
- 3 富山グラウジーズ
- 4 新潟アルビレックスBB
- 5 横浜ビー・コルセアーズ
- 6 三遠ネオフェニックス

WEST

- 1 琉球ゴールデンキングス 27 14 .659
- 2 大阪エヴェッサ 26 15 .634
- 3 滋賀レイクスターズ
- 4 京都ハンナリーズ
- 5 名古屋ダイヤモンドドルフィンズ 17 24 .415
- 6 島根スサノオマジック
- 11 30 .268

21 20 .512

20 21 .488

得点王

23.4

#54

ダバンテ・ ガードナー

シーホース三河

アシスト王

32

31

28

27 14

19 22

13 27

9

9

12

.780

.775

.700

.659

.463

.325

6.5

#2

富樫勇樹

千葉ジェッツ

リバウンド王

13.3

#45

ジャック・クーリー

琉球 ゴールデンキングス スティール王

1.8

#9

ベンドラメ 礼生

サンロッカーズ渋谷

ブロック王

9

28

11 30

5 36

.775

.317

.268

.122

23 .439

24 .415

1.5

#35

ジョーダン・ヒース

川崎 ブレイブサンダース ベスト3P 成功率賞

47.2%

#16

松井啓十郎

京都ハンナリーズ

ベストFT 成功率賞

97.4%

#14

金丸晃輔

シーホース三河

- 2 群馬クレインサンダーズ 3 茨城ロボッツ
- 4 青森ワッツ

1 仙台89ERS

- 福島ファイヤーボンズ
- 6 山形ワイヴァンズ

CENTRAL

.745

.723

.553

.447

.340

.170

- 信州ブレイブウォリアーズ
- 2 西宮ストークス
- Fイーグルス名古屋
- 東京エクセレンス
- 越谷アルファーズ
- 6 アースフレンズ東京Z

WEST

- 広島ドラゴンフライズ
- 香川ファイブアローズ
- 愛媛オレンジバイキングス
- 5 バンビシャス奈良
- 6 ライジングゼファー福岡

- 7 .851
- 27 20 .574
- 24 23 .511
- 熊本ヴォルターズ 20 27 .426
- 18 29 .383
- 12 35 .255

得点王

30.0

#11

チェハーレス・ タプスコット

> 愛媛オレンジ バイキングス

アシスト王

35

34

26

12

13

21

31

39

21 26

9.3

#11

石川海斗

熊本ヴォルターズ

リバウンド王

15.0

#42

ケビン・ コッツァー

香川ファイブアローズ

スティール王

1.7

#11

杉本慶

Fイーグルス名古屋

ブロック王

.851

.617

.532

.447

.319

.255

40

29

25

21

18

22

26

15 32

12 35

2.1

#50

ウェイン・ マーシャル

信州ブレイブ ウォリアーズ

ベスト3P 成功率賞

42.8%

#24

田中成也

広島ドラゴンフライズ

ベストFT 成功率賞

92.8%

#23

横江豊

バンビシャス奈良

1	宇都宮ブレックス	49 11	.817	6	アルバルク東京	32	24	.571
2	千葉ジェッツ	43 14	.754	7	秋田ノーザンハピネッツ	28	31	.475
3	川崎ブレイブサンダース	43 16	.729	8	横浜ビー・コルセアーズ	19	40	.322
4	富山グラウジーズ	39 21	.650	9	新潟アルビレックスBB	16	38	.296
5	サンロッカーズ渋谷	38 22	.633	10	レバンガ北海道	14	45	.237

WEST

1	琉球ゴールデンキングス	40 1	6	.714	6	滋賀レイクスターズ	23	36	.390
2	大阪エヴェッサ	34 2	20	.630	7	信州ブレイブウォリアーズ	20	34	.370
3	シーホース三河	34 2	21	.618	8	京都ハンナリーズ	21	36	.368
4	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ	32 2	4	.571	9	三遠ネオフェニックス	12	47	.203
5	島根スサノオマジック	28 3	32	.467	10	広島ドラゴンフライズ	9	46	.164

得点王

21.5

#24

ニック・メイヨ

レバンガ北海道

アシスト王

7.4

#32

ジュリアン・ マブンガ

富山グラウジーズ

リバウンド王

12.3

#45

ジャック・ クーリー

琉球 ゴールデンキングス スティール王

2.4

#5

川嶋勇人

三遠ネオフェニックス

ブロック王

2.2

#9

アレックス・ デイビス

秋田 ノーザンハピネッツ

ベスト3P 成功率賞

47.5%

#32

狩野祐介

名古屋ダイヤモンド ドルフィンズ

ベストFT 成功率賞

91.0%

#51

古川孝敏

秋田 ノーザンハピネッツ

群馬クレインサンダーズ	52	5	.912	
茨城ロボッツ	41	16	.719	
越谷アルファーズ	35	22	.614	
仙台89ERS	35	24	.593	
山形ワイヴァンズ	31	29	.517	
福島ファイヤーボンズ	27	31	.466	
アースフレンズ東京Z	13	46	.220	
青森ワッツ	7	51	.121	
	茨城ロボッツ 越谷アルファーズ 仙台89ERS 山形ワイヴァンズ 福島ファイヤーボンズ アースフレンズ東京Z	茨城ロボッツ41越谷アルファーズ35仙台89ERS35山形ワイヴァンズ31福島ファイヤーボンズ27アースフレンズ東京Z13	茨城ロボッツ4116越谷アルファーズ3522仙台89ERS3524山形ワイヴァンズ3129福島ファイヤーボンズ2731アースフレンズ東京Z1346	茨城ロボッツ4116.719越谷アルファーズ3522.614仙台89ERS3524.593山形ワイヴァンズ3129.517福島ファイヤーボンズ2731.466アースフレンズ東京Z1346.220

WEST

1	西宮ストークス	40	18	.690
2	ファイティングイーグルス名古屋	36	22	.621
3	佐賀バルーナーズ	30	26	.536
4	香川ファイブアローズ	27	30	.474
5	ライジングゼファー福岡	26	33	.441
6	熊本ヴォルターズ	26	34	.433
7	バンビシャス奈良	20	38	.345
8	愛媛オレンジバイキングス	17	38	.309

得点王

23.7

#0

アンドリュー・ランダル

山形ワイヴァンズ

アシスト王

8.9

#11

石川海斗

熊本ヴォルターズ

リバウンド王

13.1

#5

アイザック・バッツ

越谷アルファーズ

スティール王

2.7

#2

レイナルド・ ガルシア

佐賀バルーナーズ

ブロック王

1.4

#5

ダニエル・ ミラー

仙台89ERS

ベスト3P 成功率賞

45.2%

#18

相馬卓弥

佐賀バルーナーズ

ベストFT 成功率賞

92.2%

#24

佐々木隆成

熊本ヴォルターズ

STANDINGS & LEADERS: 2021-22

EAST

千葉ジェッツ 35 10	.77
---------------------	-----

- 2 川崎ブレイブサンダース 42 13 .764
- 3 アルバルク東京
- 39 14 .736

40 16 .714

- 4 宇都宮ブレックス
- 5 秋田ノーザンハピネッツ 31 23 .574

WEST

- 6 サンロッカーズ渋谷
- 7 群馬クレインサンダーズ
- B 横浜ビー・コルセアーズ
- 9 レバンガ北海道
- 10 茨城ロボッツ
- 11 新潟アルビレックスBB

- 33 26 .559
- 25 30 .455
- 22 35 .386
- 21 35 .375
- 16 38 .296
- 7 45 .135

- 1 琉球ゴールデンキングス 49 7 .875
- 2 島根スサノオマジック 40 15 .727
- 3 名古屋ダイヤモンドドルフィンズ 34 15 .694
- 4 シーホース三河
- 5 信州ブレイブウォリアーズ 28 26 .519

- 6 広島ドラゴンフライズ 29 28 .509
- 7 富山グラウジーズ 24 35 .407
- 8 大阪エヴェッサ 21 36 .368
- 9 京都ハンナリーズ 14 43.246
- 10 滋賀レイクスターズ 14 43 .246
- 11 三遠ネオフェニックス 10 48 .172

得点王

25.0

#21

ショーン・ロング

レバンガ北海道

アシスト王

6.4

#2

富樫勇樹

千葉ジェッツ

リバウンド王

12.4

#11

セバスチャン・ サイズ

アルバルク東京

スティール王

1.6

#34

パブロ・ アギラール

川崎 ブレイブサンダース ブロック王

1.5

#9

アレックス・ デイビス

秋田 ノーザンハピネッツ ベスト3P 成功率賞

30 23 .566

52.9%

#32

狩野祐介

名古屋ダイヤモンド <u>ドルフィンズ</u> ベストFT 成功率賞

92.0%

#0

橋本竜馬

レバンガ北海道

STANDINGS & LEADERS: 2021-22

EAST

WEST

- ファイティングイーグルス名古屋
- 仙台89ERS
- 福島ファイヤーボンズ
- 越谷アルファーズ
- 山形ワイヴァンズ
- アースフレンズ東京Z
- 青森ワッツ

- 42 .840 .717 38 15 34 18
- .654 .521 25 23 19 .365 33
- 10 43 .189 5 47
- - 香川ファイブアローズ 熊本ヴォルターズ 西宮ストークス 佐賀バルーナーズ 愛媛オレンジバイキングス ライジングゼファー福岡
- 36 .692 16 36 18 .667 .655 36 19 21 29 .580 22 25 .468 **20** 30 .400

45

得点王

23.7

#8

LJ・ピーク

熊本ヴォルターズ

アシスト王

6.2

#33

俊野達彦

愛媛オレンジ バイキングス

リバウンド王

14.0

#5

アイザック・ バッツ

越谷アルファーズ

スティール王

2.2

#22

マイルズ・ ヘソン

佐賀バルーナーズ

ブロック王

バンビシャス奈良

1.8

#34

ベンジャミン・ ローソン

熊本ヴォルターズ

ベスト3P 成功率賞

9

43.7%

#37

河野誠司

山形ワイヴァンズ

ベストFT 成功率賞

.167

85.5%

#13

道原紀晃

西宮ストークス

1	千葉ジェッツ
2	アルバルク東京
3	宇都宮ブレックス
4	秋田ノーザンハピネッツ
5	群馬クレインサンダーズ
6	茨城ロボッツ
7	レバンガ北海道
8	仙台89ERS

CENTRAL

Ш	川崎フレイフサンタース
2	横浜ビー・コルセアーズ
3	信州ブレイブウォリアー
4	サンロッカーズ渋谷
5	シーホース三河
6	三遠ネオフェニックス
7	富山グラウジーズ
8	新潟アルビレックスBB

WEST

1	琉球ゴールデンキングス	48	12	.800
2	島根スサノオマジック	48	12	.800
3	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ	43	17	.717
4	広島ドラゴンフライズ	41	18	.695
5	大阪エヴェッサ	27	33	.450
6	ファイティングイーグルス名古屋	22	38	.367
7	京都ハンナリーズ	22	38	.367
8	滋賀レイクス	14	46	.233

得点王

22.5

#2

ペリン・ ビュフォード

島根スサノオマジック

アシスト王

8.5

#5

河村勇輝

横浜 ビー・コルセアーズ リバウンド王

.883

.700

.533

.483

.483

.383

.317

.317

18

28

31

31

37

41

41

12.7

#45

ジャック・クーリー

琉球 ゴールデンキングス スティール王

2.2

#22

ジェレミー・ジョーンズ

ファイティング イーグルス名古屋 ブロック王

40 20 .667

33 27 .550

28 32 .467

30 .492

33 .450

37 .383

45 .250

47 .217

1.8

#35

ジョーダン・ヒース

川崎 ブレイブサンダース ベスト3P 成功率賞

44.6%

#4

ニック・ケイ

島根スサノオマジック

ベストFT 成功率賞

89.1%

#25

平尾充庸

茨城ロボッツ

- アルティーリ千葉
 越谷アルファーズ
 西宮ストークス
 福島ファイヤーボンズ
 青森ワッツ
- 6 山形ワイヴァンズ7 アースフレンズ東京Z
- 47 13 .783 45 .750 .483 29 31 28 32 .467 28 32 .467 34 .433 26 46 .233

WEST

1	佐賀バルーナーズ	45	15	.750
2	長崎ヴェルカ	43	17	.717
3	熊本ヴォルターズ	35	25	.583
4	愛媛オレンジバイキングス	26	34	.433
5	ライジングゼファー福岡	20	40	.333
6	バンビシャス奈良	18	42	.300
7	香川ファイブアローズ	16	44	.267

得点王

22.5

#5

マット・ボンズ

長崎ヴェルカ

アシスト王

7.1

#3

古野拓巳

愛媛オレンジ バイキングス リバウンド王

13.0

#40

トーマス・ウェルシュ

山形ワイヴァンズ

スティール王

2.1

#5

マット・ボンズ

長崎ヴェルカ

ブロック王

1.9

#15

トレイ・ ポーター

西宮ストークス

ベスト3P 成功率賞

40.8%

#4

狩俣昌也

長崎ヴェルカ

ベストFT 成功率賞

該当者なし

EAST				CENTRAL				WEST	
1 宇都宮ブレックス	51	9	.850	1 三遠ネオフェニックス	46	14	.767	1 名古屋ダイヤモンドドルフィンズ 41 19	.683
2 アルバルク東京	48	12	.800	2 シーホース三河	36	24	.600	2 琉球ゴールデンキングス 41 19	.683
3 千葉ジェッツ	35	25	.583	3 サンロッカーズ渋谷	35	25	.583	3 広島ドラゴンフライズ 36 24	.600
4 群馬クレインサンダーズ	31	29	.517	4 川崎ブレイブサンダース	. 33	27	.550	4 島根スサノオマジック 32 28	.533
5 秋田ノーザンハピネッツ	30	30	.500	5 ファイティングイーグルス名	古屋 33	27	.550	5 佐賀バルーナーズ 29 31	.483
6 仙台89ERS	27	33	.450	6 横浜ビー・コルセアーズ	24	36	.400	6 長崎ヴェルカ 27 33	.450
7 レバンガ北海道	17	43	.283	7 信州ブレイブウォリアー	ズ 10	50	.167	7 大阪エヴェッサ 25 35	.417
A 茨城ロボッツ	12	LА	SUU	8 富山グラウジーズ	L	56	.067	8 京都ハンナリーズ 17 43	283

得点王

22.6

#2

ペリン・ ビュフォード

島根スサノオマジック

アシスト王

8.1

#5

河村勇輝

横浜ビー・ コルセアーズ リバウンド王

1/1/4

12.0

#33

ジョン・

千葉ジェッツ

スティール王

1.9

#1

コー・フリッピン

群馬 クレインサンダーズ ブロック王

1.3

#8

ジョシュ・ホーキンソン

サンロッカーズ渋谷

ベスト3P 成功率賞

44.0%

#6

比江島慎

宇都宮ブレックス

ベストFT 成功率賞

91.1%

#25

平尾充庸

茨城ロボッツ

アルティーリ千葉
 越谷アルファーズ
 山形ワイヴァンズ
 青森ワッツ
 福島ファイヤーボンズ
 岩手ビッグブルズ
 新潟アルビレックスBB

56 .933 25 .583 35 29 .517 31 29 31 .483 24 36 .400 40 20 .333 53 .117

WEST

1.	滋賀レイクス	44	16	.733
2	ライジングゼファー福岡	36	24	.600
3	熊本ヴォルターズ	33	27	.550
4	ベルテックス静岡	29	31	.483
5	神戸ストークス	29	31	.483
6	バンビシャス奈良	24	36	.400
7	愛媛オレンジバイキングス	23	37	.383

得点王

22.6

#4

ユージーン・ フェルプス

> 愛媛オレンジ バイキングス

アシスト王

7.9

#12

池田祐一

青森ワッツ

リバウンド王

12.9

#4

ユージーン・ フェルプス

愛媛オレンジ バイキングス スティール王

2.0

#34

ケルヴィン・マーティン

岩手ビッグブルズ

ブロック王

1.5

#22

シェイク・ムボジ

バンビシャス奈良

ベスト3P 成功率賞

44.0%

#24

大塚裕土

アルティーリ千葉

ベストFT 成功率賞

87.0%

#0

木田貴明

アルティーリ千葉

1	宇都宮ブレックス
2	千葉ジェッツ
3	群馬クレインサンダーズ
4	秋田ノーザンハピネッツ
5	レバンガ北海道
6	越谷アルファーズ
7	茨城ロボッツ
8	仙台89ERS

CENTRAL

1	三遠ネオフェニックス
2	アルバルク東京
3	シーホース三河
4	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ
5	ファイティングイーグルス名古屋
6	サンロッカーズ渋谷
7	横浜ビー・コルセアーズ
8	川崎ブレイブサンダース

WEST

47	12	.797	1	琉球ゴールデンキング
44	16	.733	2	島根スサノオマジック
39	21	.650	3	京都ハンナリーズ
35	25	.583	4	大阪エヴェッサ
30	30	.500	5	広島ドラゴンフライズ
30	30	.500	6	長崎ヴェルカ
24	36	.400	7	佐賀バルーナーズ
18	42	.300	8	滋賀レイクス

ス	46	14	.767
	37	23	.617
	33	27	.550
	29	31	.483
	28	32	.467
	26	34	.433
	22	38	.367
	8	51	.136

得点王

21.4

#12

ブロック・モータム

滋賀レイクス

アシスト王

12

18

21

32

39

41

45

11 49

39

.800

.700

.650

.467

.350

.317

.250

.183

6.5

#24

佐々木隆成

三遠ネオフェニックス

リバウンド王

13.6

#40

トーマス・ ウェルシュ

レバンガ北海道

スティール王

2.4

#11

アーロン・ヘンリー

ファイティング イーグルス名古屋 ブロック王

2.0

#3

サッシャ・キリヤ・ジョーンズ

川崎 ブレイブサンダース ベスト3P 成功率賞

44.3%

#6

比江島慎

宇都宮ブレックス

ベストFT 成功率賞

91.7%

#7

篠山竜青

川崎 ブレイブサンダース

- 1 アルティーリ千葉
- 2 富山グラウジーズ
- 3 信州ブレイブウォリアーズ
- 4 福井ブローウィンズ
- 5 山形ワイヴァンズ
- 6 青森ワッツ
- 7 福島ファイヤーボンズ

J
3
7
3
0
1

.250

WEST

1	ライジングゼファー福岡	42	18	.700
2	鹿児島レブナイズ	37	23	.617
3	ベルテックス静岡	34	26	.567
4	熊本ヴォルターズ	27	33	.450
5	バンビシャス奈良	26	34	.433
6	神戸ストークス	25	35	.417
7	愛媛オレンジバイキングス	5	55	.083

得点王

19.1

#16

チョンディー・ブ ラウンジュニア

神戸ストークス

アシスト王

8.7

#12

池田祐一

青森ワッツ

リバウンド王

45

15

12.0

#11

ナイジェル・スパイクス

愛媛オレンジ バイキングス スティール王

1.7

#39

ホール 百音 アレックス

青森ワッツ

ブロック王

2.2

#3

マット・ハームス

鹿児島レブナイズ

ベスト3P 成功率賞

39.6%

#24

大塚裕土

アルティーリ千葉

ベストFT 成功率賞

88.6%

#1

トーマス・ ケネディ

富山グラウジーズ

